

鳥取県がん検診実績報告書

平成30年 3 月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

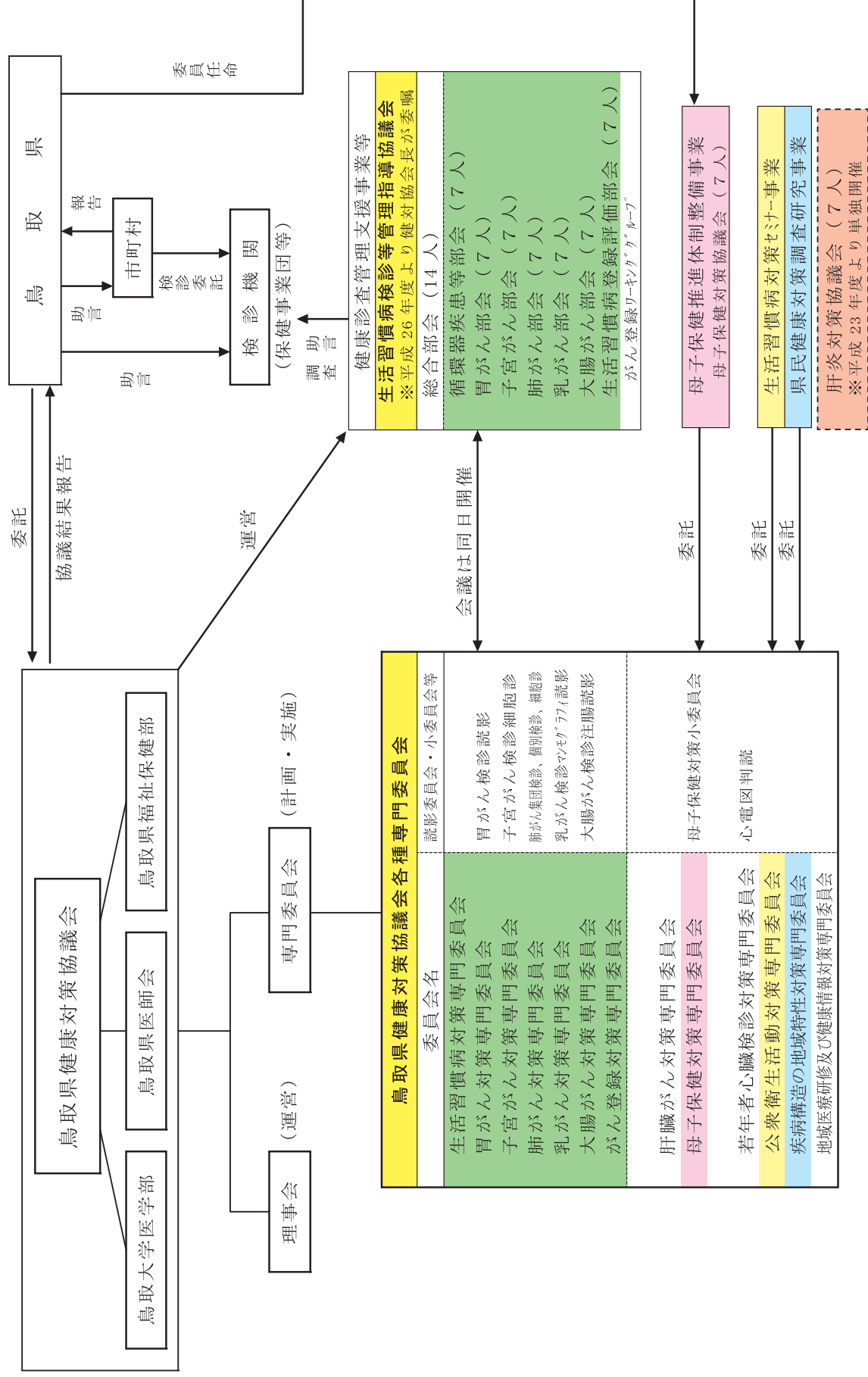
鳥取県がん検診実績報告書

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成28年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	42
5. 大腸がん検診	53
6. 肝臓がん検診	62
7. 全国がん検診実績との比較	74
III. 平成29年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	78
2. 子宮がん検診症例研究会報告	80
3. 肺がん検診症例研究会報告	82
4. 乳がん検診症例研究会報告	84
5. 大腸がん検診症例研究会報告	86
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	88
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	91
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	92

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ．平成28年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計対象者数}} = \boxed{\text{市区町村人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務）

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

(1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者

(2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 が ん 検 診

1. 胃がん検診実績

平成28度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は189,132人のうち、受診者数はX線検査11,961人、内視鏡検査は38,684人で合計50,645人、受診率は26.8%で前年度より825人、0.2ポイント減少した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は76.4%で、年々増加している。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数28,237人、受診率36.8%で、全国平均（平成27年度）受診率6.3%に比較し高い。

検査の結果、胃がんであった者は159人発見され（X線検査15人、内視鏡検査144人）、がん発見率は0.31%であった。

X線検査でのがん発見率は0.13%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.37%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査1.5%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ9.6%であった。

確定調査の結果、確定癌は168例、発見癌率は0.33%であった。

- (1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は11,961人で、受診率は6.3%である。一次検診の要精検査者は1,028人で、要精検査率は8.6%で、前年度より0.6ポイント増加した。精検受診者数889人、精検受診率は86.5%で前年度より1.8ポイント増加した。車検診の要精検査率8.4%。施設検診は9.6%で、依然として中部が15.6%と高い。

精検結果は、胃がんであった者は15人で、胃がん発見率は0.13%であった。

国はプロセス指標として、要精検査率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、例年と同様に施設検診におけるX線検査では要精検査率が高い。

- (2) 内視鏡検査は、17市町村で実施され、受診者数は38,684人で、検査結果は胃がんであった者は144人が発見され、発見率は0.37%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,505人で、組織診実施率3.9%、東部4.5%、中部4.3%、西部3.1%で地域格差がある。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は9.6%で、東部7.3%、中部9.1%、西部13.2%であった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X 線 検 診	19	0	11,961 (23.6%)	15	0.125
内視鏡検診	17	2	38,684 (76.4%)	144	0.372
計			50,645 (100%)	159	0.314

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	10,166 (85.0%)	856	8.4	7.6	9.9	8.1
施 設 検 診 (病院・診療所)	1,795 (15.0%)	172	9.6	8.8	15.6	10.5
計	11,961 (100%)	1,028	8.6	7.9	10.0	8.5

・精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	730	85.3	14	0.138	0.144	0.170	0.098
施 設 検 診	159	92.4	1	0.056	0.000	0.000	0.159
計	889	86.5	15	0.125	0.113	0.167	0.109

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組 織 診 実 施 者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	10,216	437	43	0.421	0.321	0.530	0.553
診 療 所	28,468	1,068	101	0.355	0.330	0.338	0.379
計	38,684	1,505	144	0.372	0.327	0.395	0.409

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)
東 部	5,288	416	7.9	367	88.2	6	0.113
中 部	2,991	300	10.0	245	81.7	5	0.167
西 部	3,682	312	8.5	277	88.8	4	0.109
計	11,961	1,028	8.6	889	86.5	15	0.125

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
東 部	16,207	729	4.5	53	0.327	7.3
中 部	6,323	275	4.3	25	0.395	9.1
西 部	16,154	501	3.1	66	0.409	13.2
計	38,684	1,505	3.9	144	0.372	9.6

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成28年度に発見された胃がん及び胃がん疑い257例について確定調査を行った結果、確定胃がんは168例（一次検査がX線検査：車検診15例、施設検診3例、一次検査が内視鏡検査：150例）であった。発見癌率は0.33%であった。その他として、悪性リンパ腫1例、食道癌1例であった。また、初回受診で進行のため手術不適応で、がんと確定はしているが、経過観察中で、詳細が不明なものが増えている。

調査結果は以下のとおりである。

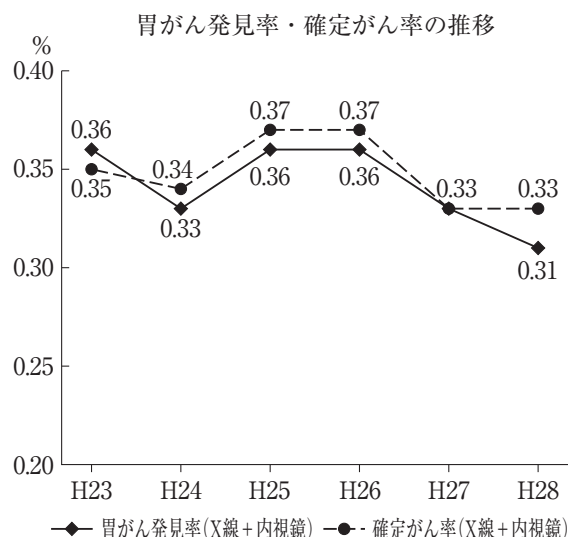
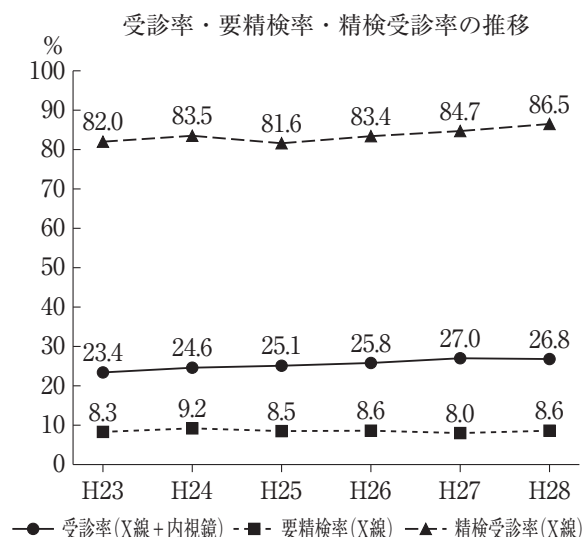
- (1) 早期癌は122例、進行癌は46例であった。早期癌率は72.6%で、東部74.6%、中部60.7%、西部75.3%であった。
- (2) 切除例は96例で、内視鏡切除が55例であった。非切除例が17例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性112例、女性56例であった。例年と同様に60歳代、70歳代の男性が多い。80歳代が増えている。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が63.9%で大半を占めている。進行癌の肉眼分類は例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以内が56.6%を占めたが、一方で5cm以上のものが10例ある。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが8例で47.1%、内視鏡検査ではstage I Aが106例で74.13%であった。例年通りの傾向である。
- (7) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部1件、中部2例、西部6件の計9件で各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		23 年 度			24 年 度			25 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			190,556			190,556			190,556
	受 診 者 数(人) B	15,080	29,435	44,515	15,251	31,711	46,962	14,303	33,564	47,867
	受 診 率(%) C=B/A	7.9	15.4	23.4	8.0	16.6	24.6	7.5	17.6	25.1
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	13,833			13,855			13,083		
	要 精 検 者 数(人) E	1,247			1,396			1,220		
	要 精 検 率(%) F=E/B 指標：許容値1.0%以下	8.3			9.2			8.5		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,022			1,166			996		
	精 検 受 診 率(%) H=G/E 指標：目標値90%以上	82.0			83.5			81.6		
精密検査結果	胃 が ん の 者(人) I	24(5)	135(50)	159(55)	33(0)	124(78)	157(78)	27(5)	144(55)	171(60)
	胃 が ん 発 見 率(%) J=I/B 指標：許容値0.11%以上	0.16	0.46	0.36	0.22	0.39	0.33	0.19	0.43	0.36
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K=I/E 指標：許容値1.0%以上	1.9			2.4			2.2		
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) L	24	133	157	30	128	158	29	146	175
	確 定 が ん 率(%) M=L/B	0.16	0.45	0.35	0.20	0.40	0.34	0.20	0.43	0.37

区 分		26 年 度			27 年 度			28 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			190,556			190,556			189,132
	受 診 者 数(人) B	13,801	35,404	49,205	13,642	37,828	51,470	11,961	38,684	50,645
	受 診 率(%) C=B/A	7.2	18.6	25.8	7.2	19.9	27.0	6.3	20.5	26.8
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	12,620			12,548			10,933		
	要 精 検 者 数(人) E	1,181			1,094			1,028		
	要 精 検 率(%) F=E/B 指標：許容値1.0%以下	8.6			8.0			8.6		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	985			927			889		
	精 検 受 診 率(%) H=G/E 指標：目標値90%以上	83.4			84.7			86.5		
精密検査結果	胃 が ん の 者(人) I	25(3)	153(48)	178(51)	18(1)	153(102)	171(103)	15(6)	144(92)	159(98)
	胃 が ん 発 見 率(%) J=I/B 指標：許容値0.11%以上	0.18	0.43	0.36	0.13	0.40	0.33	0.13	0.37	0.31
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K=I/E 指標：許容値1.0%以上	2.1			1.6			1.5		
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) L	27	154	181	18	151	169	18	150	168
	確 定 が ん 率(%) M=L/B	0.20	0.43	0.37	0.13	0.40	0.33	0.15	0.39	0.33

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上。
 ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。
 ※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
 ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。



(2) 平成28年度胃がんX線検診結果

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数（人）		一次検診 受診者数		受診率（％）			一次検診結果				要精検率（％）		
	a		b		c = b/a			要精検者数 d		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	303	621	11.2	15.7	13.9	16	27	287	594	5.3	4.3	4.7
45～49歳	2,391	3,400	228	508	9.5	14.9	12.7	22	15	206	493	9.6	3.0	5.0
50～54歳	2,494	3,868	253	497	10.1	12.8	11.8	17	17	236	480	6.7	3.4	4.5
55～59歳	3,464	5,767	286	718	8.3	12.5	10.9	25	43	261	675	8.7	6.0	6.8
60～64歳	7,789	11,161	697	1,136	8.9	10.2	9.7	89	75	608	1,061	12.8	6.6	8.9
65～69歳	13,314	16,514	1,252	1,496	9.4	9.1	9.2	153	109	1,099	1,387	12.2	7.3	9.5
70～74歳	11,961	15,344	745	899	6.2	5.9	6.0	83	73	662	826	11.1	8.1	9.5
75～79歳	11,039	16,002	590	714	5.3	4.5	4.8	62	68	528	646	10.5	9.5	10.0
80歳以上	18,509	39,463	504	514	2.7	1.3	1.8	74	60	430	454	14.7	11.7	13.2
計	73,663	115,469	4,858	7,103	6.6	6.2	6.3	541	487	4,317	6,616	11.1	6.9	8.6
合 計	189,132		11,961		6.3			1,028		10,933		8.6		

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査 受診者数		精密検査 受診率（％）			精密検査結果								胃がん発見率（％）			陽性反応適中度（％）		
	f		g = f/d			異 常 認めず		その他の 疾病		胃がん 疑い		胃がん h		i = h/b			j = h/d		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	11	26	68.8	96.3	86.0	4	11	7	15	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	17	13	77.3	86.7	81.1	2	2	15	11	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	11	17	64.7	100.0	82.4	3	4	8	13	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	23	35	92.0	81.4	85.3	2	15	19	20	0	0	2	0	0.699	0.000	0.199	8.0	0.0	2.9
60～64歳	70	69	78.7	92.0	84.8	11	16	58	51	0	0	1	2	0.143	0.176	0.164	1.1	2.7	1.8
65～69歳	127	93	83.0	85.3	84.0	22	14	101	77	3	0	1	2	0.080	0.134	0.109	0.7	1.8	1.1
70～74歳	79	63	95.2	86.3	91.0	16	18	60	45	1	0	2	0	0.268	0.000	0.122	2.4	0.0	1.3
75～79歳	55	61	88.7	89.7	89.2	7	10	44	50	2	0	2	1	0.339	0.140	0.230	3.2	1.5	2.3
80歳以上	62	57	83.8	95.0	88.8	8	14	52	43	0	0	2	0	0.397	0.000	0.196	2.7	0.0	1.5
計	455	434	84.1	89.1	86.5	75	104	364	325	6	0	10	5	0.206	0.070	0.125	1.8	1.0	1.5
合 計	889		86.5			179		689		6		15		0.125			1.5		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数		一次検診結果				要精検率（％）		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	3,998	5,911	445	392	3,553	5,519	11.1	6.6	8.4
中国労働衛生協会	119	138	13	6	106	132	10.9	4.3	7.4
病 院	416	633	47	57	369	576	11.3	9.0	9.9
診 療 所	325	421	36	32	289	389	11.1	7.6	9.1
計	4,858	7,103	541	487	4,317	6,616	11.1	6.9	8.6
合 計	11,961		1,028		10,933		8.6		

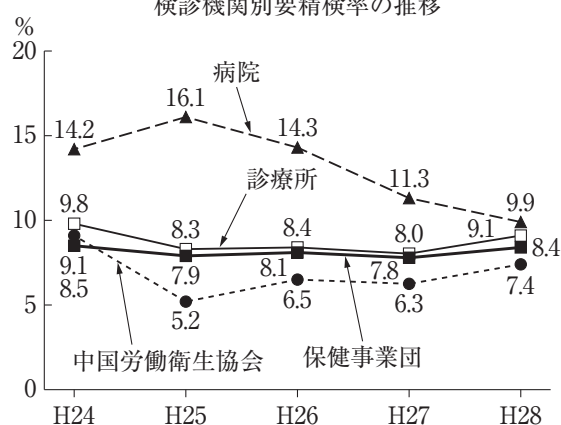
b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d'/b'			精密検査結果								胃がん発見率 (%) g' = f'/a'			陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'		
						異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がんf'							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	367	345	82.5	88.0	85.1	59	91	295	249	4	0	9	5	0.225	0.085	0.141	2.0	1.3	1.7
中国労働衛生協会	13	5	100.0	83.3	94.7	4	0	9	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
車検診小計	380	350	83.0	87.9	85.3	63	91	304	254	4	0	9	5	0.219	0.083	0.138	2.0	1.3	1.6
病院	41	53	87.2	93.0	90.4	6	10	35	43	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
診療所	34	31	94.4	96.9	95.6	6	3	25	28	2	0	1	0	0.308	0.000	0.134	2.8	0.0	1.5
施設検診小計	75	84	90.4	94.4	92.4	12	13	60	71	2	0	1	0	0.135	0.000	0.056	1.2	0.0	0.6
計	455	434	84.1	89.1	86.5	75	104	364	325	6	0	10	5	0.206	0.070	0.125	1.8	1.0	1.5
合計	889		86.5			179		689		6		15		0.125			1.5		

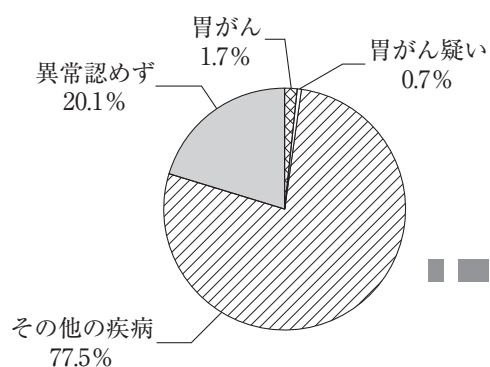
・検診機関別要精検率の推移

一次検診機関	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
保健事業団	8.5	7.9	8.1	7.8	8.4
中国労働衛生協会	9.1	5.2	6.5	6.3	7.4
車検診小計	8.6	7.8	8.0	7.7	8.4
病院	14.2	16.1	14.3	11.3	9.9
診療所	9.8	8.3	8.4	8.0	9.1
施設検診小計	11.5	11.5	11.0	9.6	9.6
合計	9.2	8.5	8.6	8.0	8.6

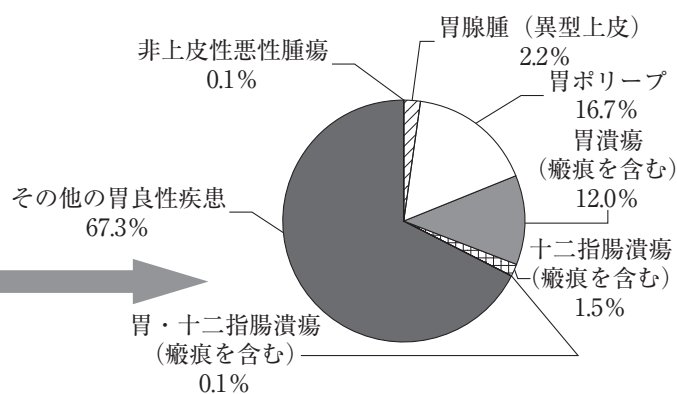
検診機関別要精検率の推移



精密検査結果 (X線)



その他の疾病の内訳



4) 平成28年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数							精密検査結果別人員						
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診率 (%) K=J/H	異 認めず L	その他 の疾病 M	がん 疑い N	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見率 (%) Q=O/D	陽性反応 適中 度 R=O/H
鳥取市	59,003	2,357	979	3,336	5.7	146	82	228	6.8	208	91.2	28	177	2	1	180	0.030	0.4
米子市	44,119	555	448	1,003	2.3	32	48	80	8.0	74	92.5	13	57	2	2	61	0.199	2.5
倉吉市	17,150	756	40	796	4.6	82	7	89	11.2	60	67.4	22	36	0	2	38	0.251	2.2
境港市	11,206	233	116	349	3.1	26	10	36	10.3	31	86.1	6	25	0	0	25	0.000	0.0
岩美町	4,582	475	7	482	10.5	44	2	46	9.5	40	87.0	1	38	0	1	39	0.207	2.2
八頭町	6,230	993	50	1,043	16.7	93	4	97	9.3	80	82.5	15	61	0	4	65	0.384	4.1
若桜町	1,539	159	7	166	10.8	12	0	12	7.2	11	91.7	1	10	0	0	10	0.000	0.0
智頭町	3,027	182	79	261	8.6	22	11	33	12.6	28	84.8	1	27	0	0	27	0.000	0.0
湯梨浜町	5,676	568	1	569	10.0	62	0	62	10.9	54	87.1	13	41	0	0	41	0.000	0.0
三朝町	2,574	384	0	384	14.9	44	0	44	11.5	38	86.4	14	23	0	1	24	0.260	2.3
北栄町	5,516	590	1	591	10.7	52	0	52	8.8	44	84.6	19	22	1	2	25	0.338	3.8
琴浦町	6,751	648	3	651	9.6	53	0	53	8.1	49	92.5	17	32	0	0	32	0.000	0.0
南部町	4,011	243	24	267	6.7	21	2	23	8.6	20	87.0	5	14	0	1	15	0.375	4.3
伯耆町	4,257	478	0	478	11.2	33	0	33	6.9	24	72.7	3	21	0	0	21	0.000	0.0
日吉津村	1,008	168	36	204	20.2	11	5	16	7.8	14	87.5	2	12	0	0	12	0.000	0.0
大山町	6,967	632	4	636	9.1	50	1	51	8.0	50	98.0	15	33	1	1	35	0.157	2.0
日南町	2,551	363	0	363	14.2	44	0	44	12.1	40	90.9	1	39	0	0	39	0.000	0.0
日野町	1,553	202	0	202	13.0	14	0	14	6.9	10	71.4	0	10	0	0	10	0.000	0.0
江府町	1,412	180	0	180	12.7	15	0	15	8.3	14	93.3	3	11	0	0	11	0.000	0.0
合 計	189,132	10,166	1,795	11,961	6.3	856	172	1,028	8.6	889	86.5	179	689	6	15	710	0.125	1.5
東 部	74,381	4,166	1,122	5,288	7.1	317	99	416	7.9	367	88.2	46	313	2	6	321	0.113	1.4
中 部	37,667	2,946	45	2,991	7.9	293	7	300	10.0	245	81.7	85	154	1	5	160	0.167	1.7
西 部	77,084	3,054	628	3,682	4.8	246	66	312	8.5	277	88.8	48	222	3	4	229	0.109	1.3

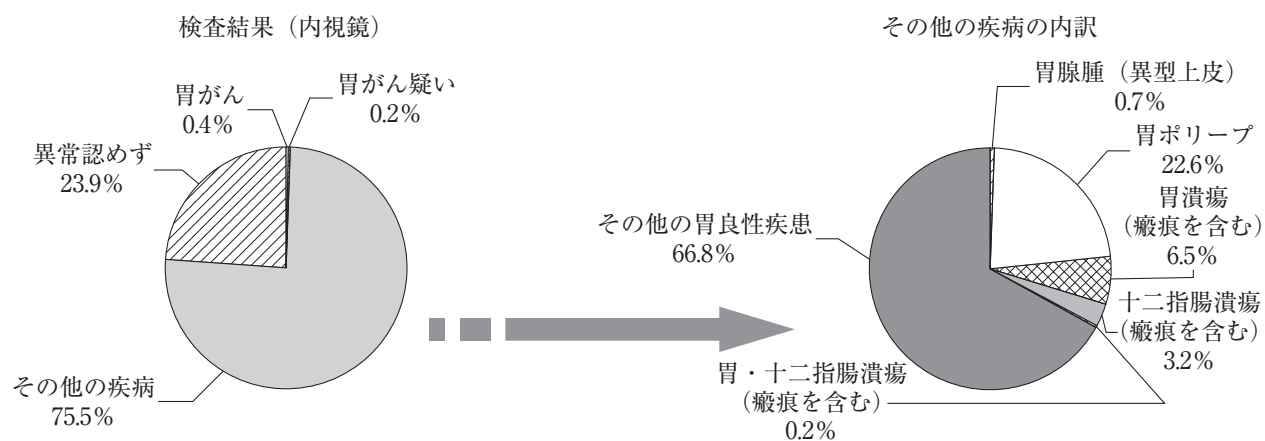
(3) 平成28年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数 a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b		c = b/a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	595	993	232	449	363	544	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	476	922	157	338	318	581	1	1	0	2	0.000	0.217	0.143
50～54歳	459	1,133	137	364	321	768	1	1	0	0	0.000	0.000	0.000
55～59歳	763	1,598	168	443	594	1,152	1	3	0	0	0.000	0.000	0.000
60～64歳	1,855	2,867	413	757	1,426	2,106	5	3	11	1	0.593	0.035	0.254
65～69歳	3,787	4,794	712	1,176	3,033	3,605	13	2	29	11	0.766	0.229	0.466
70～74歳	3,104	4,003	599	949	2,470	3,039	14	5	21	10	0.677	0.250	0.436
75～79歳	2,403	3,289	452	789	1,923	2,484	11	8	17	8	0.707	0.243	0.439
80歳以上	2,258	3,385	398	707	1,830	2,651	12	11	18	16	0.797	0.473	0.603
計	15,700	22,984	3,268	5,972	12,278	16,930	58	34	96	48	0.611	0.209	0.372
合 計	38,684		9,240		29,208		92		144		0.372		

2) 検診機関別

一次検 診機関	一次検診 受診者数 a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	4,384	5,832	733	1,229	3,607	4,583	13	8	31	12	0.707	0.206	0.421
診療所	11,316	17,152	2,535	4,743	8,671	12,347	45	26	65	36	0.574	0.210	0.355
計	15,700	22,984	3,268	5,972	12,278	16,930	58	34	96	48	0.611	0.209	0.372
合計	38,684		9,240		29,208		92		144		0.372		



3) 平成28年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C=B/A	検 査 結 果 別 人 員						
				異 常 認めず D	その他 の疾病 E	がん疑い F	がん G	有所見者 H=E+F+G	が ん 発見率 (%) I= G/A	陽性反応 適中度 (%) J= G/B
鳥 取 市	13,821	613	4.4	2,282	11,448	43	48	11,539	0.347	7.8
米 子 市	11,174	229	2.0	2,518	8,593	20	43	8,656	0.385	18.8
倉 吉 市	2,471	115	4.7	1,072	1,383	2	14	1,399	0.567	12.2
境 港 市	2,621	161	6.1	697	1,912	1	11	1,924	0.420	6.8
岩 美 町	393	26	6.6	13	379	0	1	380	0.254	3.8
八 頭 町	1,151	64	5.6	214	932	2	3	937	0.261	4.7
若 桜 町	304	7	2.3	29	274	1	0	275	0.000	0.0
智 頭 町	538	19	3.5	28	508	1	1	510	0.186	5.3
湯梨浜町	1,085	75	6.9	364	715	1	5	721	0.461	6.7
三 朝 町	277	0	0.0	103	174	0	0	174	0.000	0.0
北 栄 町	1,130	30	2.7	496	627	5	2	634	0.177	6.7
琴 浦 町	1,360	55	4.0	883	470	3	4	477	0.294	7.3
南 部 町	1,348	74	5.5	140	1,193	9	6	1,208	0.445	8.1
伯 耆 町	492	0	0.0	48	440	4	0	444	0.000	0.0
日吉津村	184	24	13.0	160	20	0	4	24	2.174	16.7
大 山 町	88	4	4.5	87	1	0	0	1	0.000	0.0
日 南 町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日 野 町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江 府 町	247	9	3.6	106	139	0	2	141	0.810	22.2
合 計	38,684	1,505	3.9	9,240	29,208	92	144	29,444	0.372	9.6
東 部	16,207	729	4.5	2,566	13,541	47	53	13,641	0.327	7.3
中 部	6,323	275	4.3	2,918	3,369	11	25	3,405	0.395	9.1
西 部	16,154	501	3.1	3,756	12,298	34	66	12,398	0.409	13.2

(4) 平成28年度胃がん検診受診状況（X線＋内視鏡）

市町村名	対象者数 A	受 診 者 数				X線精密検査結果＋内視鏡検査結果					
		X 線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異 常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん発見率 (%) K=I/D
鳥 取 市	59,003	3,336	13,821	17,157	29.1	2,310	11,625	45	49	11,719	0.286
米 子 市	44,119	1,003	11,174	12,177	27.6	2,531	8,650	22	45	8,717	0.370
倉 吉 市	17,150	796	2,471	3,267	19.0	1,094	1,419	2	16	1,437	0.490
境 港 市	11,206	349	2,621	2,970	26.5	703	1,937	1	11	1,949	0.370
岩 美 町	4,582	482	393	875	19.1	14	417	0	2	419	0.229
八 頭 町	6,230	1,043	1,151	2,194	35.2	229	993	2	7	1,002	0.319
若 桜 町	1,539	166	304	470	30.5	30	284	1	0	285	0.000
智 頭 町	3,027	261	538	799	26.4	29	535	1	1	537	0.125
湯梨浜町	5,676	569	1,085	1,654	29.1	377	756	1	5	762	0.302
三 朝 町	2,574	384	277	661	25.7	117	197	0	1	198	0.151
北 栄 町	5,516	591	1,130	1,721	31.2	515	649	6	4	659	0.232
琴 浦 町	6,751	651	1,360	2,011	29.8	900	502	3	4	509	0.199
南 部 町	4,011	267	1,348	1,615	40.3	145	1,207	9	7	1,223	0.433
伯 耆 町	4,257	478	492	970	22.8	51	461	4	0	465	0.000
日吉津村	1,008	204	184	388	38.5	162	32	0	4	36	1.031
大 山 町	6,967	636	88	724	10.4	102	34	1	1	36	0.138
日 南 町	2,551	363	0	363	14.2	1	39	0	0	39	0.000
日 野 町	1,553	202	0	202	13.0	0	10	0	0	10	0.000
江 府 町	1,412	180	247	427	30.2	109	150	0	2	152	0.468
合 計	189,132	11,961	38,684	50,645	26.8	9,419	29,897	98	159	30,154	0.314
東 部	74,381	5,288	16,207	21,495	28.9	2,612	13,854	49	59	13,962	0.274
中 部	37,667	2,991	6,323	9,314	24.7	3,003	3,523	12	30	3,565	0.322
西 部	77,084	3,682	16,154	19,836	25.7	3,804	12,520	37	70	12,627	0.353

(5) 平成28年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表 1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確 定 胃 癌 数	6	0	57	5	0	23	4	3	70	168
癌 発 見 率 %	0.144	0.000	0.352	0.170	0.000	0.364	0.131	0.478	0.433	
	63 0.293			28 0.301			77 0.388			0.332
早 期 癌 数	4	0	43	2	0	15	1	1	56	122
早 期 癌 率 %		47 74.6			17 60.7			58 75.3		
進 行 癌 数	2	0	14	3	0	8	3	2	14	46
切 除 例	3	0	29	3	0	15	3	1	42	96
内 視 鏡 切 除 例	3	0	22	1	0	8	0	1	20	55
非 切 除 例	0	0	6	1	0	0	1	1	8	17

(その他：悪性リンパ腫1例 食道癌1例)

表 2 性・年齢別

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	1	2	40	46	23	112
女	2	0	16	19	19	56

表 3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	0	0	1	0	0	1	0	0	4	6	4.9%
Ⅱ a	0	0	5	1	0	2	0	1	5	14	11.5%
Ⅱ b	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3	2.5%
Ⅱ c	2	0	29	0	0	7	1	0	39	78	63.9%
Ⅱ c + Ⅲ	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3	2.5%
Ⅱ a + Ⅱ c	2	0	7	0	0	2	0	0	4	15	12.3%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2.5%
計	4	0	43	2	0	15	1	1	56	122	

表 4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	2	0	0	1	1	0	1	5	10.9%
2	1	0	5	2	0	5	1	1	7	22	47.8%
3	0	0	3	0	0	1	1	0	2	7	15.2%
4	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3	6.5%
5	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4.3%
不 明	0	0	3	1	0	0	0	1	2	7	15.2%
計	2	0	14	3	0	8	3	2	14	46	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
t1a	2	0	32	1	0	10	0	1	38	84
t1b	2	0	11	1	0	5	1	0	16	36
t2	2	0	4	2	0	4	1	1	4	18
t3	0	0	3	0	0	2	1	0	3	9
t4a	0	0	5	0	0	0	0	0	3	8
t4b	0	0	0	0	0	2	0	1	1	4
計	6	0	55	4	0	23	3	3	65	159
不 明	0	0	2	1	0	0	1	0	5	9

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車	3	1	4	30.8%	7	2	13	0
施	0	2	2	100.0%	0	0	2	0
内	29	47	76	58.5%	46	8	130	6
計	32	50	82	56.6%	53	10	145	6

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	0	0	16
M	4	1	56
L	3	0	39
全 体	0	0	0
計	7	1	111
不 明	0	0	3

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	3	1	43
大 弯	1	0	21
前 壁	1	0	20
後 壁	2	0	27
全 周	0	0	0
計	7	1	111
不 明	0	0	3

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	2	1	8
M	3	0	15
L	2	0	10
全 体	0	0	0
計	7	1	33
不 明	1	1	3

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	2	0	6
大 弯	1	1	12
前 壁	3	0	6
後 壁	1	0	7
全 周	0	0	2
計	7	1	33
不 明	1	1	3

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	X 線		内	
I A	4	0	42	2	0	15	1	1	49	7	1	106	8	47.1%	106	74.13%
I B	1	0	4	2	0	4	0	0	8	3	0	16	3	17.6%	16	11.19%
II A	0	0	3	0	0	0	1	0	1	1	0	4	1	5.9%	4	2.80%
II B	1	0	0	0	0	1	1	1	2	2	1	3	3	17.6%	3	2.10%
III A	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0.0%	2	1.40%
III B	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0.0%	3	2.10%
III C	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0.0%	1	0.70%
IV	0	0	3	0	0	2	1	1	3	1	1	8	2	11.8%	8	5.59%
計	6	0	55	4	0	23	4	3	65	14	3	143	17	100.0%	143	100.0%
不明	0	0	2	1	0	0	0	0	5	1	0	7	1		7	

2. 子 宮 が ん 検 診

1. 子宮がん検診実績

平成28年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）129,896人のうち、受診者数31,447人、受診率24.2%で、平成27年度に比べ対象者数5,589人、受診者数は1,153人、それぞれ減少したが、受診率は0.1ポイント増であった。35歳～59歳の受診率は50%以上で目標値をクリアしている。過去3年間に検診を受診している経年受診者割合は77.6%で例年どおりであった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が20歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数59,087人、受診者数26,385人、受診率44.7%で、全国平均（平成27年度）受診率23.0%に比較し高い。

要精検者数は222人（判定不能で再検査未実施となった者18名を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が19人であった。要精検率は0.71%で、平成27年度に比べ、要精検率が0.22ポイント減少した。

精検受診者数185人、精検受診率83.3%で平成27年度に比べ3.5ポイント減少した。

精検の結果、がん9人、がん発見率（がん/受診者数）は0.03%で、平成27年度に比べ、発見がんが5人、がん発見率が0.01ポイントそれぞれ減少した。陽性反応適中度（がん/要精検者数）は4.1%であった。異形成は90人（軽度52人、高度38人）であった。

受診者数（率）は減少傾向である。精検受診率は国の許容値70%以上は上回るものの、目標値90%以上には達していない状況である。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（%）	要精検者数	要精検率（%）			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 （保健事業団）	10,921 (34.7%)	25	0.23	0.34	0.17	0.05
施 設 検 診 （病院・診療所）	20,526 (65.3%)	197	0.96	0.83	0.40	1.17
計	31,447 (100%)	222	0.71	0.62	0.26	0.99

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 （%）	が ん	がん発見率（%）			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	22	88.0	1	0.009	0.000	0.028	0.000
施 設 検 診	163	82.7	8	0.039	0.014	0.000	0.064
計	185	83.3	9	0.029	0.008	0.016	0.054

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	異形成	がん	がん発見率
東 部	5,255	18	0.34	15	83.3	8	0	0.000
中 部	3,603	6	0.17	6	100.0	2	1	0.028
西 部	2,063	1	0.05	1	100.0	0	0	0.000
計	10,921	25	0.23	22	88.0	10	1	0.009

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	異形成	がん	がん発見率
東 部	7,030	58	0.83	51	87.9	16	1	0.014
中 部	2,479	10	0.40	7	70.0	7	0	0.000
西 部	11,017	129	1.17	105	81.4	57	7	0.064
計	20,526	197	0.96	163	82.7	80	8	0.039

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者31,447人中、体部がん検診対象者数は823人、一次検診会場での受診者は748人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は7人、受診者の合計は755人、受診率は91.7%であった。

一次検診の結果、要精検となった者16人、要精検率2.14%、精密検査受診者数は9人であった。精検の結果、子宮体部がんが1人発見され、がん発見率は0.13%であった。陽性反応適中度は6.3%であった。子宮内膜増殖症は1件であった。また、医療機関での別途受診者から子宮内膜増殖症が2件発見されている。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

平成28年度は子宮頸部癌9例で、0期4例、IB期以上が5例であった。一方、異形成は87例であった。平成27年度に比べ、子宮頸部癌が5例、異形成は59例も減少した。なお、IB期以上5例の検診歴は、すべて初回受診であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は0例であった。

4. その他

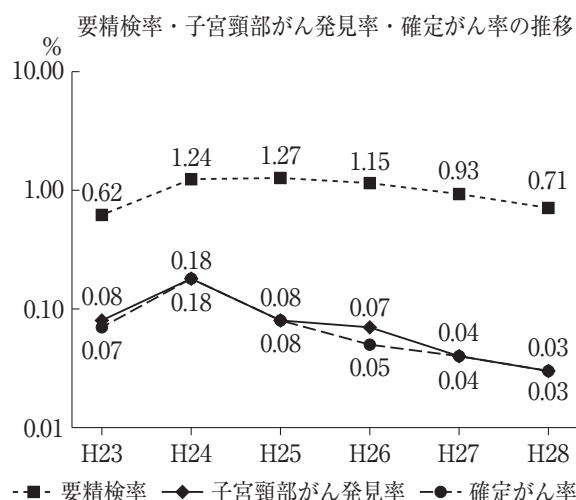
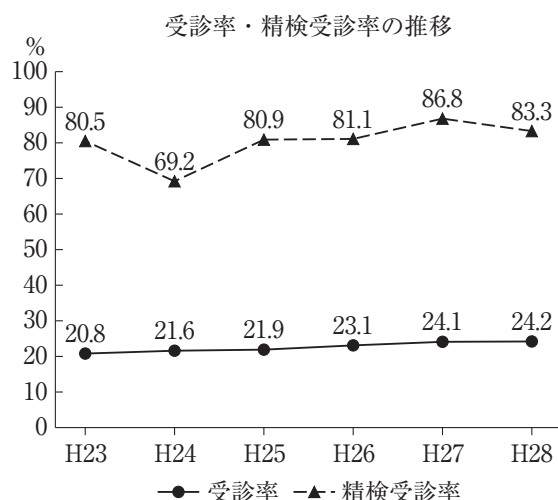
1) 平成28年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成28年度実績は、妊婦健康診査受診者4,264人中、子宮頸部がん検診受診者数4,208人、受診率98.7%で、要精検者数28人、要精検率0.70%、市町村が把握できた精検結果は22人で、そのうち異形成が5人であった。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
一 次 検 診	対 象 者 数 (人) A	135,485	135,485	135,485	135,485	135,485	129,896
	受 診 者 数 (人) B	28,247	29,307	29,640	31,243	32,600	31,447
	受 診 率 (%) C = B / A	20.8	21.6	21.9	23.1	24.1	24.2
一次検診結果	異 常 認 め ず (人) D	28,051	28,915	29,193	30,868	32,275	31,206
	要 精 検 者 数 (人) E	174	364	377	360	302	222
	判 定 不 能 (人) F	22	28	70	15	23	19
	要 精 検 率 (%) G = E / B 指標：許容値1.4%以下	0.62	1.24	1.27	1.15	0.93	0.71
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数 (人) H	140	252	305	292	262	185
	精 検 受 診 率 (%) I = H / E 指標：目標値90%以上	80.5	69.2	80.9	81.1	86.8	83.3
精密検査結果	子 宮 が ん の 者 (人) J	23(76)	53(112)	25(150)	23(155)	14(146)	9(90)
	子 宮 が ん 発 見 率 (%) K = J / B 指標：許容値0.05%以上	0.08	0.18	0.08	0.07	0.04	0.03
	陽 性 反 応 適 中 度 (%) L = J / H 指標：許容値4.0%以上	13.2	14.6	6.6	6.4	4.6	4.1
	確 定 が ん 数 (人) M	21	52	25	15	14	9
確定調査結果	確 定 が ん 率 (%) N = M / B	0.07	0.18	0.08	0.05	0.04	0.03

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上。
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上。
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。
- * 5 要精検者数について、平成22年度報告から一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上。



(2) 平成28年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	3,705	486	13.1	185	9	0	477	1.85
25～29歳	2,963	1,220	41.2	662	22	1	1,197	1.80
30～34歳	3,735	2,321	62.1	1,382	39	0	2,282	1.68
35～39歳	4,024	2,730	67.8	2,015	37	1	2,692	1.36
40～44歳	3,950	3,362	85.1	2,398	41	2	3,319	1.22
45～49歳	3,400	2,773	81.6	2,075	36	1	2,736	1.30
50～54歳	3,868	2,593	67.0	2,031	17	0	2,576	0.66
55～59歳	5,767	2,934	50.9	2,364	9	2	2,923	0.31
60～64歳	11,161	3,582	32.1	2,928	6	9	3,567	0.17
65～69歳	16,514	4,384	26.5	3,825	1	3	4,380	0.02
70～74歳	15,344	2,637	17.2	2,367	4	0	2,633	0.15
75～79歳	16,002	1,613	10.1	1,445	0	0	1,613	0.00
80歳以上	39,463	812	2.1	719	1	0	811	0.12
計	129,896	31,447	24.2	24,396	222	19	31,206	0.71

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果								子宮がん 発 見 率 (%) n = k / b	陽性反応 適 中 度 (%) o = k / d
			異 常 認 め ず	そ の 他 の 疾 病	異 形 成 h = i + j	軽 度 異 形 成 i	高 度 異 形 成 j	子宮がん k = l + m	上皮内 が ん l	浸潤 が ん m		
20～24歳	7	77.8	2	0	5	4	1(1)	0	0	0	0.000	0.0
25～29歳	20	90.9	2	8	10	4	6(5)	0	0	0	0.000	0.0
30～34歳	36	92.3	7	9	16	8	8(4)	4	2	2	0.172	10.3
35～39歳	33	89.2	6	6	20	13	7(5)	1	0	1	0.037	2.7
40～44歳	30	73.2	9	6	15	8	7(5)	0	0	0	0.000	0.0
45～49歳	30	83.3	6	8	13	8	5(4)	3	1	2	0.108	8.3
50～54歳	13	76.5	5	4	4	2	2	0	0	0	0.000	0.0
55～59歳	7	77.8	3	0	4	4	0	0	0	0	0.000	0.0
60～64歳	4	66.7	2	0	2	1	1	0	0	0	0.000	0.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
70～74歳	4	100.0	3	0	1	0	1	0	0	0	0.000	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	1	100.0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.123	100.0
計	185	83.3	45	41	90	52	38(24)	9	3	6	0.029	4.1

※（ ）内は中等度異形成を内数で計上

3) 検診機関別

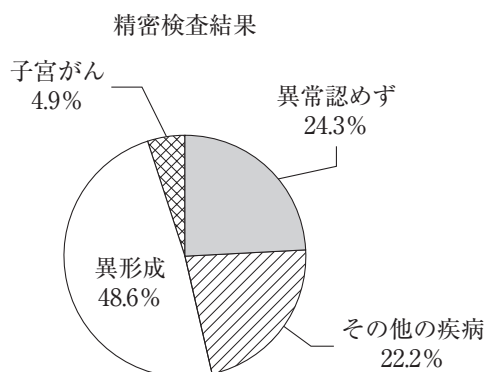
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一 次 検 診 結 果			要精検率 (%) c' = b' / a'
		要 精 検 者 数 b'	判 定 不 能	異 常 認 め ず	
保健事業団	10,921	25	0	10,896	0.23
病 院	6,966	42	10	6,914	0.60
診 療 所	13,560	155	9	13,396	1.14
計	31,447	222	19	31,206	0.71

b. 精密検査結果

一 次 検 診 機 関	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) e' = d' / b'	精 密 検 査 結 果								子宮がん 発 見 率 (%) l' = i' / a'	陽性反応 適 中 度 (%) m' = i' / b'
			異 常 認 め ず	そ の 他 の 疾 病	異 形 成 f' = g' + h'	軽 度 異 形 成 g'	高 度 異 形 成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内 が ん j'	浸潤 が ん k'		
保健事業団	22	88.0	8	3	10	7	3	1	0	1	0.009	4.0
病 院	26	61.9	9	8	8	4	4(3)	1	1	0	0.014	2.4
診 療 所	137	88.4	28	30	72	41	31(21)	7	2	5	0.052	4.5
計	185	83.3	45	41	90	52	38(24)	9	3	6	0.029	4.1

※（ ）内は中等度異形成を内数で計上



4) 平成28年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数							精密検査結果別人員						
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検受診 率 (%)	異 常 認めず	その他 の疾病	異形成	がん	有所見者	がん発見 率 (%)	陽性反応 適中度 (%)
A	B	C	D = B + C	E = D / A	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	Q = O / D	R = O / H	
鳥取市	41,588	3,153	6,306	9,459	22.7	12	53	65	0.69	57	87.7	16	19	21	1	41	0.011	1.5
米子市	32,218	30	7,796	7,826	24.3	0	88	88	1.12	76	86.4	13	11	45	7	63	0.089	8.0
倉吉市	11,532	695	1,335	2,030	17.6	0	7	7	0.34	4	57.1	0	0	4	0	4	0.000	0.0
境港市	7,734	321	1,467	1,788	23.1	0	18	18	1.01	12	66.7	3	2	7	0	9	0.000	0.0
岩美町	2,911	580	99	679	23.3	1	0	1	0.15	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000	0.0
八頭町	3,960	1,059	257	1,316	33.2	3	2	5	0.38	3	60.0	2	1	0	0	1	0.000	0.0
若桜町	941	253	33	286	30.4	2	1	3	1.05	3	100.0	0	1	2	0	3	0.000	0.0
智頭町	1,916	210	335	545	28.4	0	2	2	0.37	2	100.0	0	1	1	0	2	0.000	0.0
湯梨浜町	3,660	712	453	1,165	31.8	2	1	3	0.26	3	100.0	1	1	1	0	2	0.000	0.0
三朝町	1,636	339	113	452	27.6	1	0	1	0.22	1	100.0	0	0	0	1	1	0.221	100.0
北栄町	3,548	849	343	1,192	33.6	2	1	3	0.25	3	100.0	1	0	2	0	2	0.000	0.0
琴浦町	4,321	1,008	235	1,243	28.8	1	1	2	0.16	2	100.0	0	0	2	0	2	0.000	0.0
南部町	2,585	318	460	778	30.1	0	6	6	0.77	5	83.3	2	3	0	0	3	0.000	0.0
伯耆町	2,771	434	313	747	27.0	1	3	4	0.54	3	75.0	3	0	0	0	0	0.000	0.0
日吉津村	724	34	237	271	37.4	0	2	2	0.74	1	50.0	0	1	0	0	1	0.000	0.0
大山町	4,395	441	371	812	18.5	0	8	8	0.99	7	87.5	2	1	4	0	5	0.000	0.0
日南町	1,567	280	36	316	20.2	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	989	205	6	211	21.3	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	900	0	331	331	36.8	0	4	4	1.21	2	50.0	1	0	1	0	1	0.000	0.0
合 計	129,896	10,921	20,526	31,447	24.2	25	197	222	0.71	185	83.3	45	41	90	9	140	0.029	4.1
東 部	51,316	5,255	7,030	12,285	23.9	18	58	76	0.62	66	86.8	19	22	24	1	47	0.008	1.3
中 部	24,697	3,603	2,479	6,082	24.6	6	10	16	0.26	13	81.3	2	1	9	1	11	0.016	6.3
西 部	53,883	2,063	11,017	13,080	24.3	1	129	130	0.99	106	81.5	24	18	57	7	82	0.054	5.4

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		23 年 度			24 年 度			25 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	735		735	833		833	559		559
	受 診 者 数(人) B	626	76	702	672	105	777	443	84	527
	受 診 率(%) C = B / A	85.2		95.5	80.7		93.3	79.2		94.3
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	618			670			435		
	要 精 検 者 数(人) E	8			2			6		
	判 定 不 能(人) F	0			0			2		
精密検査	要 精 検 率(%) G = E / B	1.28			0.30			1.35		
	精 検 受 診 者 数(人) H	7			2			4		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	87.5			100.0			66.7		
	子宮がんの者(人) J	4(2)	2(3)	6(5)	1(0)	1(2)	2(2)	1(2)	0(1)	1(3)
	子宮がん発見率(%) K = J / B	0.64	2.63	0.85	0.15	0.95	0.26	0.23	0.00	0.19
確定調査 結 果	陽性反応適中度(%) L = J / H	50.00			50.00			16.67		
	確 定 が ん 数(人) M	4	2	6	1	1	2	1	0	1
	確 定 が ん 率(%) N = M / B			0.85			0.26			0.19

区 分		26 年 度			27 年 度			28 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	823		823	896		896	823		823
	受 診 者 数(人) B	709	78	787	806	15	821	748	7	755
	受 診 率(%) C = B / A	86.1		95.6	90.0		91.6	90.9		91.7
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	697			782			726		
	要 精 検 者 数(人) E	9			23			16		
	判 定 不 能(人) F	3			1			6		
精密検査	要 精 検 率(%) G = E / B	1.27			2.85			2.14		
	精 検 受 診 者 数(人) H	8			19			9		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	88.9			82.6			56.3		
	子宮がんの者(人) J	3(3)	0(0)	3(3)	6(2)	2(4)	8(6)	1(1)	0(2)	1(0)
	子宮がん発見率(%) K = J / B	0.42	0.00	0.38	0.74	13.33	0.97	0.13	0.00	0.13
確定調査 結 果	陽性反応適中度(%) L = J / H	33.33			26.09			6.25		
	確 定 が ん 数(人) M	3	0	3	6	2	8	0	—	0
	確 定 が ん 率(%) N = M / B			0.38			0.97			0.00

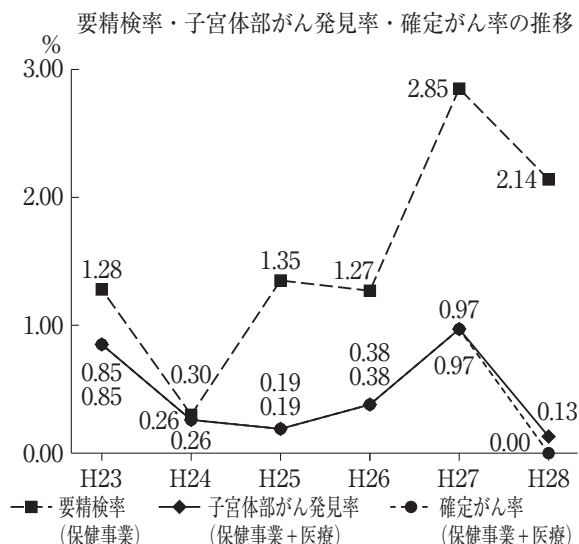
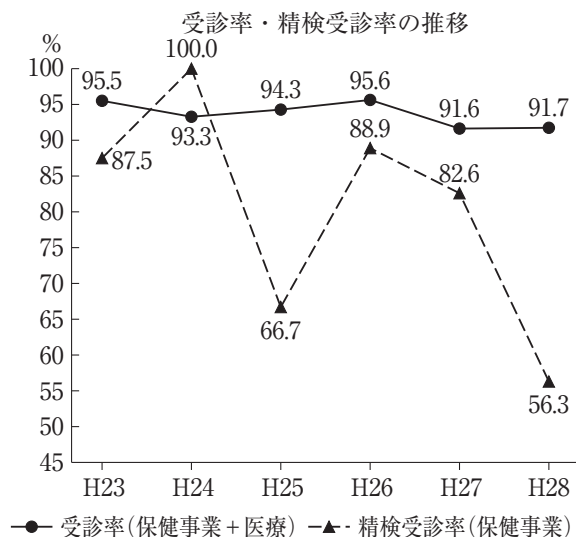
※「保健事業分」=車検診及び施設検診により検診を受けた者、「医療分」=車検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者。

※精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上。

※がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上。

※陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。

※確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。



(4) 平成28年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	体部がん検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検者数 f	判定不能	異常認めず	
20～24歳	486	2	0.41	2	100.0	0	0	2	0.00
25～29歳	1,220	12	0.98	12	100.0	0	0	12	0.00
30～34歳	2,321	37	1.59	34	91.9	0	1	33	0.00
35～39歳	2,730	59	2.16	54	91.5	0	1	53	0.00
40～44歳	3,362	126	3.75	115	91.3	3	0	112	2.61
45～49歳	2,773	180	6.49	169	93.9	5	0	164	2.96
50～54歳	2,593	162	6.25	146	90.1	1	2	143	0.68
55～59歳	2,934	94	3.20	83	88.3	3	1	79	3.61
60～64歳	3,582	51	1.42	42	82.4	0	0	42	0.00
65～69歳	4,384	48	1.09	45	93.8	2	1	42	4.44
70～74歳	2,637	33	1.25	31	93.9	1	0	30	3.23
75～79歳	1,613	14	0.87	10	71.4	1	0	9	10.00
80歳以上	812	5	0.62	5	100.0	0	0	5	0.00
計	31,447	823	2.62	748	90.9	16	6	726	2.14

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精 密 検 査 結 果				子宮がん 発見率 (%) k = j / d	陽性反応 適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子宮がん j		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	2	66.7	1	1	0	0	0.00	0.0
45～49歳	3	60.0	1	1	0	0	0.00	0.0
50～54歳	1	100.0	0	0	1	1	0.68	50.0
55～59歳	2	66.7	0	2	0	0	0.00	0.0
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
70～74歳	1	100.0	1	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	9	56.3	3	4	1	1	0.13	6.3

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果（年齢階級別）

年 齢	体部がん検査受診者数	精 密 検 査 結 果					子宮体部がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん	判定不能	
20～24歳	0	0	0	0	0	0	0.00
25～29歳	0	0	0	0	0	0	0.00
30～34歳	0	0	0	0	0	0	0.00
35～39歳	0	0	0	0	0	0	0.00
40～44歳	0	0	0	0	0	0	0.00
45～49歳	1	0	0	1	0	0	0.00
50～54歳	1	1	0	0	0	0	0.00
55～59歳	1	1	0	0	0	0	0.00
60～64歳	1	1	0	0	0	0	0.00
65～69歳	1	1	0	0	0	0	0.00
70～74歳	1	0	1	0	0	0	0.00
75～79歳	1	0	0	1	0	0	0.00
80歳以上	0	0	0	0	0	0	0.00
計	7	4	1	2	0	0	0.00

4) 平成28年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	対象者数	受診者数				要精検者数							精密検査結果別人員					
		車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	検 率 (%)	精検受診 率 (%)	異 常 認めず	その他 の疾病	子宮内膜 増殖症	がん	有所見者	がん発見 率 (%)
	A	B	C	D = B + C	E = D / A	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	Q = O / D	R = O / H
鳥取市	224	0	165	165	73.7	0	1	1	0.61	1	100.0	0	1	0	0	1	0.00	0.0
米子市	291	0	291	291	100.0	0	2	2	0.69	1	50.0	0	1	0	0	1	0.00	0.0
倉吉市	126	1	122	123	97.6	0	3	3	2.44	2	66.7	1	0	0	1	1	0.81	33.3
境港市	15	0	15	15	100.0	0	1	1	6.67	1	100.0	0	0	1	0	1	0.00	0.0
岩美町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
八頭町	30	4	22	26	86.7	4	2	6	23.08	3	50.0	1	2	0	0	2	0.00	0.0
若桜町	1	0	1	1	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	3	0	1	1	33.3	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
湯梨浜町	3	1	2	3	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
三朝町	12	0	12	12	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
北栄町	25	0	22	22	88.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	24	3	20	23	95.8	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
南部町	15	0	15	15	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
伯耆町	1	0	1	1	100.0	0	1	1	100.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日吉津村	6	0	6	6	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	19	2	17	19	100.0	1	0	1	5.26	1	100.0	1	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	28	0	25	25	89.3	0	1	1	4.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
合 計	823	11	737	748	90.9	5	11	16	2.14	9	56.3	3	4	1	1	6	0.13	6.3
東 部	258	4	189	193	74.8	4	3	7	3.63	4	57.1	1	3	0	0	3	0.00	0.0
中 部	190	5	178	183	96.3	0	3	3	1.64	2	66.7	1	0	0	1	1	0.55	33.3
西 部	375	2	370	372	99.2	1	5	6	1.61	3	50.0	1	1	1	0	2	0.00	0.0

(5) 平成28年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最 終 診 断	車 検 診		施 設 検 診	
	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度
異 形 成	18	8	128	79
頸 癌 0 期	2	0	7	4
頸 癌 I a 期	0	0	0	0
頸癌 I b 期以上	2	1	3	4
合 計	22	9	138	87

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最 終 診 断	平成27年度	平成28年度
内 膜 増 殖 症	6	3
体 癌 I A 期	3	0
体癌 I B 期以上	5	0
合 計	14	3

表3 発見子宮がん症例（I B期以上）のがん検診受診歴

受 診 歴	車 検 診	施 設 検 診	計
前 年 受 診	0	0	0
2 年 間 隔	0	0	0
3 年以上の間隔	0	0	0
初 回 受 診	1	4	5

表4 治療機関

	上皮内癌	頸癌 I A 期	頸癌 I B 期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	1	0	4	5
鳥 取 県 立 中 央 病 院	1	0	0	1
鳥 取 市 立 病 院	0	0	1	1
博 愛 病 院	2	0	0	2
計	4	0	5	9

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

平成28年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）189,132人のうち、受診者数54,679人、受診率28.9%で前年度に比べ受診者数366人減であったが、受診率は同率であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数28,288人、受診率36.8%で、全国平均（平成27年度）11.1%に比べ高い。

このうち要精検者は1,864人、要精検率3.41%で前年度より228人、0.39ポイント減少した。精密検査受診者は1,680人、精検受診率90.1%で前年度よりそれぞれ197人減少、0.4ポイント増加した。要精検率は国の指標（許容値）である3.0%以下をいまだに上回っているが、年々減少傾向にある。精検受診率は高く、その結果、肺がん37人、がん疑い52人の計89人が発見された。肺がん発見率は0.07%で、前年度より4人（0.01%）増加した。これは国の指標（許容値）0.03%より2倍以上の高率である。また、陽性反応適中度は2.0%となり、前年度より0.4ポイント増加し、国の指標（許容値）1.3%を上回っている。平成28年度の結果からも、鳥取県は肺がん罹患率が高く、要精検率が高い中で多くの肺がんが発見され、精度管理も良好と考えられる。施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診3.86%、車検診2.92%であり、施設検診の方が0.94ポイント高く、特に西部地区の施設検診が4.91%と高率であった。要精検率には東・中・西部で地域差があり、継続して精度管理には注意を払う必要がある。

追跡調査の結果、確定肺がんは50人（原発性46人、転移性4人）で、確定がん率は0.084%となり、前年度よりも0.001%減少した。肺がん疑いの者は28人残っており、今後も定期的にフォローする方針である。

X線受診者総数54,679人のうち経年受診者は39,237人、経年受診率71.8%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は7,261人（13.3%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,381人で、X線検査受診者の4.4%であった。そのうち要精検者は2人、要精検率0.08%で、いずれも異常なしであった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.041%で、非経年受診者のがん発見率0.136%で、非経年受診者の方が3.33倍高かった。また、高危険群所属者7,261人のうちがんが10人発見され、がん発見率0.138%、非高危険群所属者47,418人のうちがんが27人発見され、がん発見率0.057%で、高危険群所属者の方が2.42倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (%)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	26,408 (48.3%)	772	2.92	2.49	2.08	3.95
施 設 検 診 (病院・診療所)	28,271 (51.7%)	1,092	3.86	3.29	4.44	4.91
計	54,679 (100%)	1,864	3.41	3.04	2.74	4.36

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	676	87.6	15	0.057	0.088	0.060	0.029
施 設 検 診	1,004	91.9	22	0.078	0.081	0.093	0.065
計	1,680	90.1	37	0.068	0.083	0.070	0.045

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	7,925	197	2.49	162	82.2	3	7	0.088
中 部	8,268	172	2.08	144	83.7	11	5	0.060
西 部	10,215	403	3.95	370	91.8	16	3	0.029
計	26,408	772	2.92	676	87.6	30	15	0.057

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	17,345	571	3.29	528	92.5	15	14	0.081
中 部	3,221	143	4.44	133	93.0	4	3	0.093
西 部	7,705	378	4.91	343	90.7	3	5	0.065
計	28,271	1,092	3.86	1,004	91.9	22	22	0.078

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体 (X線受診者数)			経年受診者数 (%)		
	男	女	計	男	女	計
H26	21,008	32,200	53,208	14,462 (68.8%)	22,445 (69.7%)	36,907 (69.4%)
H27	21,707	33,338	55,045	15,133 (69.7%)	23,328 (70.0%)	38,461 (69.9%)
H28	21,871	32,808	54,679	15,547 (71.1%)	23,690 (72.2%)	39,237 (71.8%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍 (非経年／経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H26	36,907	17	0.046	16,301	29	0.178	3.86
H27	38,461	7	0.018	16,584	26	0.157	8.61
H28	39,237	16	0.041	15,442	21	0.136	3.33

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体（X線受診者数）			高危険群所属者数（％）		
	男	女	計	男	女	計
H26	21,008	32,200	53,208	6,751 (32.1%)	404 (1.3%)	7,155 (13.4%)
H27	21,707	33,338	55,045	6,632 (30.6%)	324 (1.0%)	6,956 (12.6%)
H28	21,871	32,808	54,679	6,941 (31.7%)	320 (1.0%)	7,261 (13.3%)

(2) がん発見率の推移

年 度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険／非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H26	7,155	10	0.140	46,053	36	0.078	1.79
H27	6,956	22	0.316	48,089	11	0.023	13.83
H28	7,261	10	0.138	47,418	27	0.057	2.42

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年 度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査 受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	がん	がん発見率
H26	7,155	2,610	2	0.08	0	0	0.000
H27	6,956	2,566	4	0.16	3	2	0.078
H28	7,261	2,381	2	0.08	2	0	0.000

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数（人）

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
H26	55	53	2	0
H27	34	32	1	1
H28	37	37	0	0

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成28年までの29年間における発見肺がんは1,313人（発見率10万対78人）であった。発見方法は胸部X線1,210人（92.2%）、喀痰細胞診56人、両者45人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合は激減している。平均年齢は72.0歳、性差は男性788人、女性525人、組織型は腺癌が814例（61.9%）と最多であった。近年の傾向として女性肺がん、腺癌の増加が著しい。臨床病期はⅠ期が753人（57.3%）で過半数を占め、823人（62.7%）に手術が行われた。

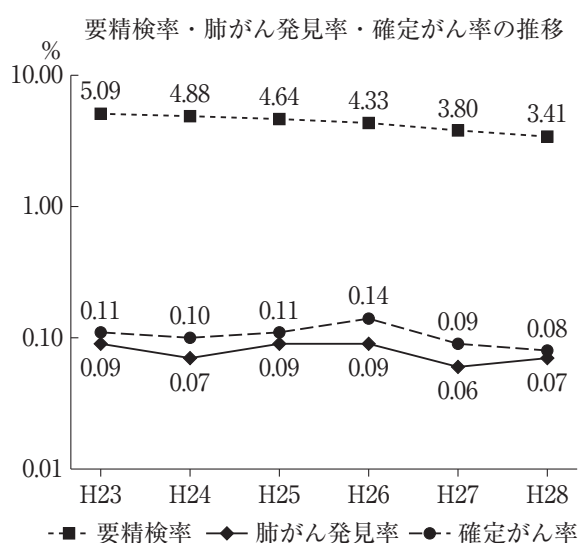
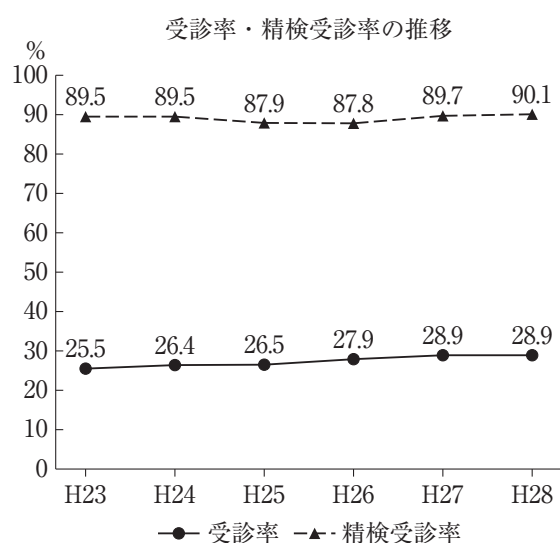
2) 平成28年度調査結果

原発性肺がん46人が発見され、発見率は人口10万対84人であった。46人（100.0%）すべてが胸部X線で発見された。原発性肺がんの平均年齢は73.0歳、女性は14例（30.4%）、臨床病期はⅠ期28人（60.9%）、腺がんは35人（76.1%）と例年に比べていずれも増加した。手術症例は28人（60.9%）と減少したが、術後病期Ⅰ期の肺がんは24人（85.7%）、腺がんは23人（82.1%）と両者の割合は増加した。腫瘍径は平均28.6mmと前年より1.8mm小さかったが、20mm以下は15人（32.6%）で、前年度より1.4ポイント減少した。本年度は例年よりも早期の肺腺がんの割合が高かったが、手術症例は多くなかった。転移性肺腫瘍は4人発見され、原発巣は乳癌2例、大腸癌1例、甲状腺癌1例であった。

(1) 肺がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		23 年 度	24 年 度	25 年 度	26 年 度	27 年 度	28 年 度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	190,556	190,556	190,556	190,556	190,559	189,132
	受 診 者 数(人) B	48,513	50,376	50,569	53,208	55,045	54,679
	受 診 率(%) C = B / A	25.5	26.4	26.5	27.9	28.9	28.9
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	46,046	47,916	48,225	50,905	52,953	52,815
	要 精 検 者 数(人) E	2,467	2,460	2,345	2,303	2,092	1,864
	要 精 検 率(%) F = E / B 指標：許容値3.0%以下	5.09	4.88	4.64	4.33	3.80	3.41
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,208	2,201	2,062	2,021	1,877	1,680
	精 検 受 診 率(%) H = G / E 指標：目標値90%以上	89.5	89.5	87.9	87.8	89.7	90.1
精密検査結果	肺 が ん の 者(人) I	44 (70)	35 (58)	45 (68)	55 (74)	33 (78)	40 (52)
	上記のうち原発性肺がん数(人) J				46	33	37
	肺 が ん 発 見 率(%) K = J / B 指標：許容値0.03%以上	(0.09)	(0.07)	(0.09)	0.09	0.06	0.07
	陽性反応適中度(%) L = J / E 指標：許容値1.3%以上	(1.8)	(1.4)	(1.9)	2.0	1.6	2.0
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) M	61	54	62	81	48	50
	上記のうち原発性肺がん数(人) N	55	49	58	74	47	46
	確 定 が ん 率(%) O = N / B	0.11	0.10	0.11	0.14	0.09	0.08

- * 1 精密検査結果中の（ ）内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 平成25年度以前のがん発見率及び陽性反応適中度は、肺がんの者（I）を分子として算出し、（ ）書きとした。
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精検者数（E）、精検受診者数（G）、肺がんの者（I）、確定がん数（M）については、E判定者数を計上。



(2) 平成28年度肺がん検診結果

1) 一次検診結果（年齢階級別）

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査										エックス線フィルム読影結果						
			一次検診 受診者数		受診率（％）			経年受診者数 再掲※		経年受診者 割合 （％）		要精検者数		異常認めず		要精検率 （％）			
	a	b	c = b / a			d		e = d / b		f		g = f / b							
	男	女	男	女	男	女	計	男	女			男	女	男	女	男	女	計	
40～44歳	2,702	3,950	821	1,474	30.4	37.3	34.5	285	565	34.7	38.3	15	28	806	1,446	1.83	1.90	1.87	
45～49歳	2,391	3,400	602	1,168	25.2	34.4	30.6	305	650	50.7	55.7	8	16	594	1,152	1.33	1.37	1.36	
50～54歳	2,494	3,868	580	1,268	23.3	32.8	29.0	333	760	57.4	59.9	12	21	568	1,247	2.07	1.66	1.79	
55～59歳	3,464	5,767	907	2,031	26.2	35.2	31.8	524	1,317	57.8	64.8	30	48	877	1,983	3.31	2.36	2.65	
60～64歳	7,789	11,161	2,435	4,137	31.3	37.1	34.7	1,454	2,779	59.7	67.2	84	111	2,351	4,026	3.45	2.68	2.97	
65～69歳	13,314	16,514	5,587	7,278	42.0	44.1	43.1	3,912	5,502	70.0	75.6	183	212	5,404	7,066	3.28	2.91	3.07	
70～74歳	11,961	15,344	4,190	5,599	35.0	36.5	35.9	3,271	4,364	78.1	77.9	172	186	4,018	5,413	4.11	3.32	3.66	
75～79歳	11,039	16,002	3,388	4,757	30.7	29.7	30.1	2,700	3,826	79.7	80.4	148	189	3,240	4,568	4.37	3.97	4.14	
80歳以上	18,509	39,463	3,361	5,096	18.2	12.9	14.6	2,763	3,927	82.2	77.1	181	218	3,180	4,878	5.39	4.28	4.72	
計	73,663	115,469	21,871	32,808	29.7	28.4	28.9	15,547	23,690	71.1	72.2	833	1,029	21,038	31,779	3.81	3.14	3.41	
合計	189,132		54,679		28.9			39,237		71.8		1,862		52,817		3.41			

※経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中 高危険群所属者※		喀痰細胞診 受診者数 h		喀痰細胞診結果					
					要精検者数 i		精 検 不 要		要精検率（％） j = i / h	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	10	1	7	0	0	0	7	0	0.00	0.00
45～49歳	7	2	3	4	0	0	3	4	0.00	0.00
50～54歳	163	23	56	10	0	1	56	9	0.00	10.00
55～59歳	292	35	105	14	0	0	105	14	0.00	0.00
60～64歳	944	58	312	21	0	0	312	21	0.00	0.00
65～69歳	2,243	93	747	26	0	0	747	26	0.00	0.00
70～74歳	1,520	61	503	23	0	0	503	23	0.00	0.00
75～79歳	925	30	303	18	0	0	303	18	0.00	0.00
80歳以上	837	17	223	6	1	0	222	6	0.45	0.00
計	6,941	320	2,259	122	1	1	2,258	121	0.04	0.82
合 計	7,261		2,381		2		2,379		0.08	

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	要精検者数 (再掲)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
								異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん							
	k	l	m = l / k							n		o = n / b			p = n / k						
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	15	28	14	24	93.3	85.7	88.4	9	20	4	4	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	8	16	7	12	87.5	75.0	79.2	5	7	2	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	12	22	9	22	75.0	100.0	91.2	9	14	0	8	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	30	48	25	39	83.3	81.3	82.1	13	26	11	13	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	84	111	72	103	85.7	92.8	89.7	32	51	34	48	5	3	1	1	0.041	0.024	0.030	1.2	0.9	1.0
65～69歳	183	212	165	202	90.2	95.3	92.9	75	90	79	104	3	7	8	1	0.143	0.014	0.070	4.4	0.5	2.3
70～74歳	172	186	151	178	87.8	95.7	91.9	60	74	85	95	2	6	4	3	0.095	0.054	0.072	2.3	1.6	2.0
75～79歳	148	189	132	179	89.2	94.7	92.3	54	74	69	97	4	5	5	3	0.148	0.063	0.098	3.4	1.6	2.4
80歳以上	182	218	153	193	84.1	88.5	86.5	54	86	82	98	8	7	9	2	0.268	0.039	0.130	4.9	0.9	2.8
計	834	1,030	728	952	87.3	92.4	90.1	311	442	366	472	24	28	27	10	0.123	0.030	0.068	3.2	1.0	2.0
合計	1,864		1,680		90.1			753		838		52		37		0.068			2.0		
X線の必要精検	1,862		1,678		90.1			751		838		52		37					2.0		
喀痰の必要精検	2		2		100.0			2		0		0		0					0.0		
X線＋喀痰要精検	0		0		0.0			0		0		0		0					0.0		

3) 検診機関別

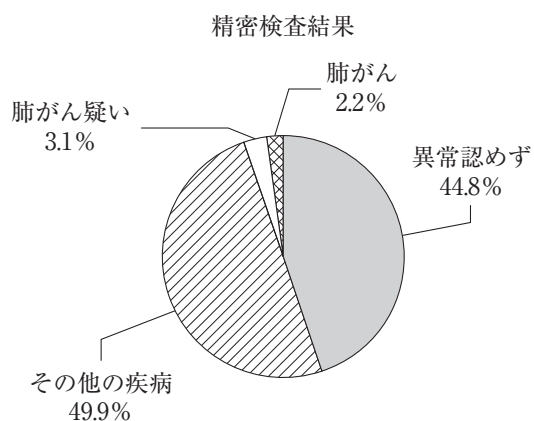
a. 一次検診結果

一次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診者中高危険群 所 属 者	
	受診者数 a′		経年受診者数再掲		要精検者数 b′		異常認めず		要精検率(%) c′=b′/a′				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	9,574	16,052	7,329	12,245	303	426	9,271	15,626	3.16	2.65	2.84	3,062	131
中国労働衛生協会	324	458	229	367	19	24	305	434	5.86	5.24	5.50	33	1
病 院	3,961	5,378	2,713	3,609	157	196	3,804	5,182	3.96	3.64	3.78	1,234	59
診 療 所	8,012	10,920	5,276	7,469	354	383	7,658	10,537	4.42	3.51	3.89	2,612	129
計	21,871	32,808	15,547	23,690	833	1,029	21,038	31,779	3.81	3.14	3.41	6,941	320
合 計	54,679		39,237		1,862		52,817		3.41			7,261	

一次検診機関	喀痰容器 提出者数		喀痰細胞診結果						X線・喀 痰細胞診 も 精 検		一次検診総合結果				
			要精検者数		精検不要		要精検率 (%)				要精検者数		要精検率 (%)		
	d'		e'		f' = e' / d'		g'		h' = (b' + e') - g'		i' = h' / a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	772	56	0	0	772	56	0.00	0.00	0	0	303	426	3.16	2.65	2.84
中国労働衛生協会	25	1	0	0	25	1	0.00	0.00	0	0	19	24	5.86	5.24	5.50
病 院	500	24	1	1	499	23	0.20	4.17	0	0	158	197	3.99	3.66	3.80
診 療 所	962	41	0	0	962	41	0.00	0.00	0	0	354	383	4.42	3.51	3.89
計	2,259	122	1	1	2,258	121	0.04	0.82	0	0	834	1,030	3.81	3.14	3.41
合 計	2,381		2		2,379		0.08		0		1,864		3.41		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 j'		精密検査受診率 (%) k'=j'/h'			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%) m'=l'/a'			陽性反応適中度 (%) n'=l'/h'		
						異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん l'							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保 健 事 業 団	245	391	80.9	91.8	87.2	110	186	112	186	12	17	11	2	0.115	0.012	0.051	3.6	0.5	1.8
中国労働衛生協会	16	24	84.2	100.0	93.0	6	10	9	12	0	1	1	1	0.309	0.218	0.256	5.3	4.2	4.7
病 院	140	168	88.6	85.3	86.8	58	72	75	91	3	1	4	4	0.101	0.074	0.086	2.5	2.0	2.3
診 療 所	327	369	92.4	96.3	94.4	137	174	170	183	9	9	11	3	0.137	0.027	0.074	3.1	0.8	1.9
計	728	952	87.3	92.4	90.1	311	442	366	472	24	28	27	10	0.123	0.030	0.068	3.2	1.0	2.0
合 計	1,680		90.1			753		838		52		37		0.068			2.0		



4) 平成28年度肺がん検診受診状況

市町村名	対象者数	受診者数				要精検者数						精密検査結果別人員						
		車検	施設検診	計	受診率 (%)	車検	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異認めず	その他の疾病	がん疑い	がん発見者	がん発見率 (%)	陽性反応 適中度(%)	
A	B	C	D = B + C	E = D / A	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	Q = O / D	R = O / H	
鳥取市	59,003	3,770	15,621	19,391	32.9	84	506	590	3.04	541	91.7	246	266	15	14	295	0.072	2.4
米子市	44,119	3,715	5,192	8,907	20.2	147	241	388	4.36	368	94.8	179	174	11	4	189	0.045	1.0
倉吉市	17,150	1,285	1,858	3,143	18.3	33	68	101	3.21	83	82.2	33	45	3	2	50	0.064	2.0
境港市	11,206	1,374	1,306	2,680	23.9	42	64	106	3.96	97	91.5	32	64	1	0	65	0.000	0.0
岩美町	4,582	1,145	268	1,413	30.8	34	5	39	2.76	32	82.1	14	16	1	1	18	0.071	2.6
八頭町	6,230	2,278	678	2,956	47.4	58	31	89	3.01	71	79.8	31	36	2	2	40	0.068	2.2
若桜町	1,539	276	270	546	35.5	9	9	18	3.30	18	100.0	7	10	0	1	11	0.183	5.6
智頭町	3,027	456	508	964	31.8	12	20	32	3.32	28	87.5	10	15	0	3	18	0.311	9.4
湯梨浜町	5,676	1,728	721	2,449	43.1	39	32	71	2.90	68	95.8	32	30	3	3	36	0.122	4.2
三朝町	2,574	957	147	1,104	42.9	23	18	41	3.71	32	78.0	15	16	0	1	17	0.091	2.4
北栄町	5,516	1,813	375	2,188	39.7	41	17	58	2.65	53	91.4	26	22	4	1	27	0.046	1.7
琴浦町	6,751	2,485	120	2,605	38.6	36	8	44	1.69	41	93.2	12	23	5	1	29	0.038	2.3
南部町	4,011	506	1,207	1,713	42.7	24	73	97	5.66	77	79.4	28	46	1	2	49	0.117	2.1
伯耆町	4,257	1,446	0	1,446	34.0	53	0	53	3.67	45	84.9	26	19	0	0	19	0.000	0.0
日吉津村	1,008	243	0	243	24.1	7	0	7	2.88	7	100.0	4	2	1	0	3	0.000	0.0
大山町	6,967	1,305	0	1,305	18.7	50	0	50	3.83	48	96.0	26	20	2	0	22	0.000	0.0
日南町	2,551	644	0	644	25.2	26	0	26	4.04	22	84.6	11	11	0	0	11	0.000	0.0
日野町	1,553	290	0	290	18.7	11	0	11	3.79	9	81.8	5	2	2	0	4	0.000	0.0
江府町	1,412	692	0	692	49.0	43	0	43	6.21	40	93.0	16	21	1	2	24	0.289	4.7
合 計	189,132	26,408	28,271	54,679	28.9	772	1,092	1,864	3.41	1,680	90.1	753	838	52	37	927	0.068	2.0
東 部	74,381	7,925	17,345	25,270	34.0	197	571	768	3.04	690	89.8	308	343	18	21	382	0.083	2.7
中 部	37,667	8,268	3,221	11,489	30.5	172	143	315	2.74	277	87.9	118	136	15	8	159	0.070	2.5
西 部	77,084	10,215	7,705	17,920	23.2	403	378	781	4.36	713	91.3	327	359	19	8	386	0.045	1.0

(3) 平成28年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1,313、転移性145） 1,458例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総 計 1,470例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成 元年	平成 2年	平成 3年	平成 4年	平成 5年	平成 6年	平成 7年	平成 8年	平成 9年
原 発 性 肺 癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38	53
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4	2
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42	55

	平成 10年	平成 11年	平成 12年	平成 13年	平成14 年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年
原 発 性 肺 癌	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52
転移性肺腫瘍	7	7	6	7	6	3	2	5	6	7	3
合 計	47	48	48	37	54	68	52	62	68	55	55

	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	合計
原 発 性 肺 癌	41	65	55	49	58	74	47	46	1,313
転移性肺腫瘍	8	4	6	5	4	7	1	4	145
合 計	49	69	61	54	62	81	48	50	1,458

2) 原発性肺がん診断方法

					〔H28年度集計〕						
胸	X	間	接	Dのみ	245例	}	1,210例(92.2%)	Dのみ	0例	}	46例(100.0%)
				Eのみ	965例			Eのみ	46例		
(E1：36例、E2：10例)											
細	胞	診	Dのみ	21例	}	56例(4.3%)	Dのみ	0例	}	0例(0.0%)	
			Eのみ	35例			Eのみ	0例			
胸X線間接と細胞診			D＋D	10例	}	45例(3.4%)	D＋D	0例	}	0例(0.0%)	
			D＋E	9例			D＋E	0例			
			E＋D	6例			E＋D	0例			
			E＋E	20例			E＋E	0例			
			不明	2例	2例(0.1%)	不明	0例	0例(0.0%)			
計					1,313例	計					46例

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(87.9%)	58	115
H26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
H27	55,045	2,092(3.80%)	1,877(89.7%)	47	85
H28	54,679	1,864(3.41%)	1,680(90.1%)	46	84
計	1,690,127	30,656(1.81%)	26,600(86.8%)	1,313	78

4) 原発性肺癌 (1,313例)

(1) 年齢・性別

〔H28年度集計〕

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	83例	6.3
60～69歳	398	30.3
70～79歳	603	45.9
80～	229	17.5
計	1,313	100.0

平均年齢=72.0
男：女=788例：525例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	2例	4.4
60～69歳	14	30.4
70～79歳	18	39.1
80～	12	26.1
計	46	100.0

平均年齢=73.0
男：女=32例：14例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

〔H28年度集計〕

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	543(41.4)
I B	210
II A	54
II B	68
III A	155
III B	83
IV	164
不明	34
計	1,313

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	19(41.3)
I B	9
II A	2
II B	2
III A	4
III B	1
IV	9
不明	0
計	46

} 28
(60.9%)

b. 組織型

〔H28年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	291例
腺癌	814(61.9)
大細胞癌	17
小細胞癌	78
腺扁平上皮癌	12
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	101
計	1,315*

組織型	(%)
扁平上皮癌	8例
腺癌	35(76.1)
大細胞癌	0
小細胞癌	2
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	1
計	46

* 2例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

〔H28年度集計〕

(823例、手術率：62.7%)

原発性肺癌の手術症例

a. 臨床病期、術後病期

(28例、手術率：60.9%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	477(58.0)	I A	422(51.3)
I B	171	I B	185
II A	34	II A	38
II B	41	II B	49
III A	74	III A	83
III B	15	III B	24
IV	8	IV	19
不明	1	不明	1
計	823	計	823

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	17(60.7)	I A	15(53.5)
I B	7	I B	9
II A	2	II A	0
II B	1	II B	1
III A	1	III A	2
III B	0	III B	0
IV	0	IV	1
不明	0	不明	0
計	28	計	28

} 24
(85.7%)

b. 組織型分類

〔28年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	163例
腺癌	606(73.6)
大細胞癌	13
小細胞癌	10
腺扁平上皮癌	13
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	16
計	823

組織型	(%)
扁平上皮癌	4例
腺癌	23(82.1)
大細胞癌	0
小細胞癌	1
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	0
計	28

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)
0～10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4
11～20	9 (22.5)	10	15 (35.7)	11 (36.7)	17 (35.4)	11	17 (34.7)	11	26 (41.9)	14 (31.8)
21～30	6	15 (36.6)	7	6	13	13	10	16 (28.6)	15	18
31～40	6	9	8	9	8	17 (26.2)	12	11	10	5
41～50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3
51～	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm
	最高90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm

腫瘍径 (mm)	H20年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)	H27年度 (%)	H28年度 (%)
0～10	3	2	2	1	4	3	3	0	1
11～20	21 (40.4)	10	13	16 (29.1)	14 (28.6)	16	28 (37.8)	16 (34.0)	14 (30.4)
21～30	6	13 (31.7)	26 (40)	16 (29.1)	13	20 (34.5)	21	8	10
31～40	14	8	15	6	8	8	7	14	13
41～50	5	6	6	4	6	5	6	6	5
51～	1	2	2	11	2	6	5	3	2
不明	2	0	1	1	2	0	4	0	1
計	52	41	65	55	49	58	74	47	46
平均	26.1mm	25.9mm	29.4mm	33.2mm	28.4	28.3mm	26.7	30.4	28.6
	最高71mm	68mm	80mm	90mm	100mm	60mm	70mm	70mm	56mm

5) 転移性肺腫瘍 (145例)

大腸癌：32例 乳癌：20例 前立腺癌：13例 甲状腺癌：12例 腎臓癌：11例
 肝臓癌：9例 胃癌：6例 子宮癌：5例 胆管癌：4例 膵臓癌：4例
 尿管癌：4例 胆のう癌：3例 肺癌：2例 食道癌：2例 卵巣癌：2例
 膀胱癌：2例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 顎下腺癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 卵管肉腫：1例 不明：7例

〔H28年度集計〕(4例)

乳癌：2例、大腸癌：1例、甲状腺癌：1例

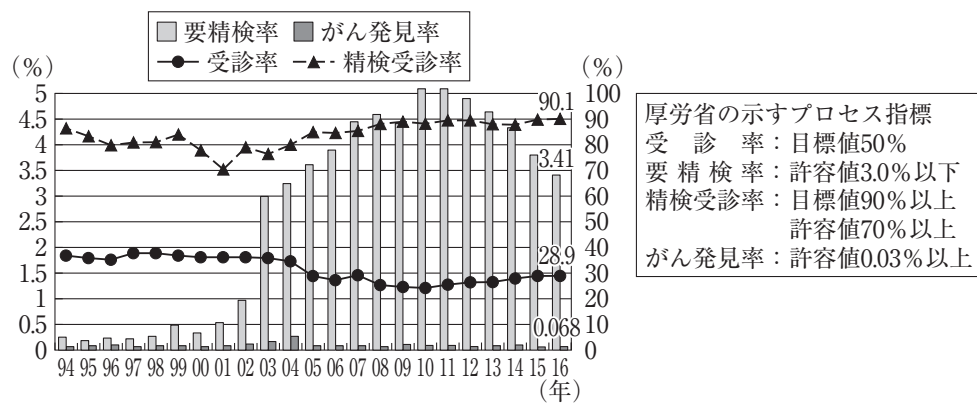
平成28年度肺がん検診で発見された肺がん症例の特徴

1. 受診者数は昨年より366名減少したが、受診率は28.9%と昨年と同じであった。要精検率は3.41%（-0.39%）と減少、精検受診率は90.1%（+0.4%）と増加した。肺がんは40名（+6名）発見され、うち原発性肺がんは37名、がん発見率は0.068%（+0.006%）、陽性反応適中度2.0%（+0.4%）と昨年来上回った。
2. がん発見率は0.068%（+0.006%）、陽性反応適中度2.0%（+0.4%）と昨年来上回った。
3. 予後調査では原発性肺がん46例、転移性肺腫瘍4例、合計50例の肺がん確定診断を得た。最終報告で52名あった肺がん疑いは、その後の予後調査により原発性肺がんが9名、転移性肺腫瘍が1名発見され、肺がん疑いのままが8名、良性が6名、異常なしが8名、現在なお調査中が20名という結果であった。肺がん疑いと調査中の28名は今後2年間フォローを続ける予定である。
4. 発見された原発性肺がんの46例すべて（100%）が胸部X線で発見され、喀痰細胞診で発見された肺がんはなかった。
5. 原発性肺がんの平均年齢は73.0歳、女性肺がんは14例（30.4%）、臨床病期はⅠ期28例（60.9%）、腺癌は35例（76.1%）と例年どおりⅠ期の肺腺がん割合が多かった。
6. 手術症例の割合は28例（60.9%）、術後病期Ⅰ期の肺がんは24例（85.7%）、腺癌が23例（82.1%）であった。
7. 腫瘍径は平均28.6mm（-1.8mm）と昨年より小さくなった。11—20mmが14例（30.4%）であった。
8. 転移性肺腫瘍は4例で、原発巣は乳癌2例、甲状腺癌1例、大腸癌1例であった。

6）平成28年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

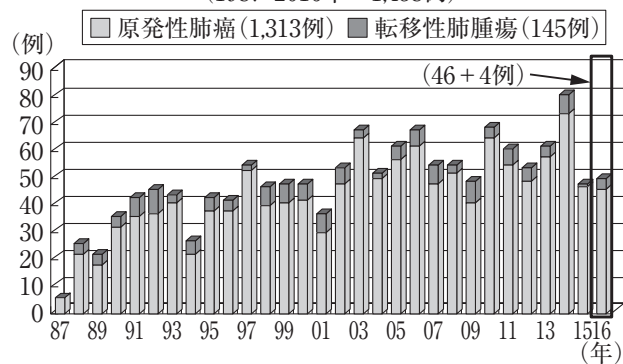
	車 検 診	施 設 検 診
受診者数	26,408	28,271
要精検数	772 (2.9%) 東部：197 (2.5%) 中部：172 (2.1%) 西部：403 (3.9%)	1,092 (3.9%) 東部：571 (3.3%) 中部：143 (4.4%) 西部：378 (4.9%)
確定者数	22名 (0.083%) (東部7、中部8、西部7)	24名 (0.085%) (東部16、中部4、西部4)
発見方法	E1判定 18名 E2判定 4名	E1判定 18名 E2判定 6名
年 齢	75.0歳	71.1歳
性 差	男14名、女8名	男18名、女6名
臨床病期	ⅠA 13名、ⅠB 1名 ⅡA 1名、ⅡB 1名 ⅢA 1名、Ⅳ 5名	ⅠA 6名、ⅠB 9名 ⅡA 0名、ⅡB 1名 ⅢA 3名、ⅢB 1名 Ⅳ 4名
組 織 型	扁平上皮癌2名、腺癌20名 大細胞癌0名、小細胞癌0名	扁平上皮癌6名、腺癌15名 大細胞癌0名、小細胞癌2名 不明1名
手 術	あり14名、なし8名	あり14名、なし10名
腫 瘍 径	25.3mm	31.8mm

7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移



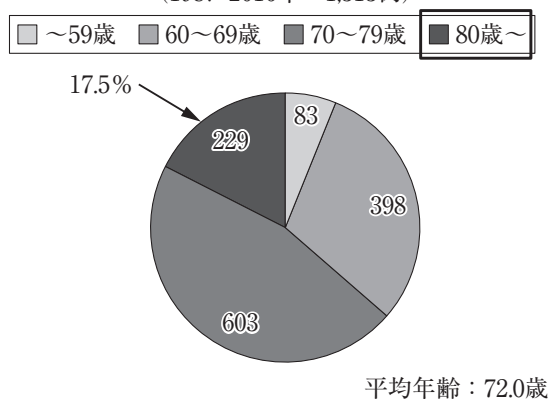
8) 検診で発見された肺癌の推移

(1987-2016年：1,458例)

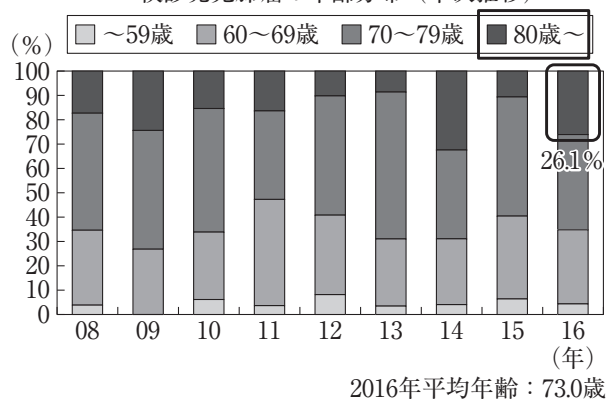


9) 検診発見肺癌の年齢

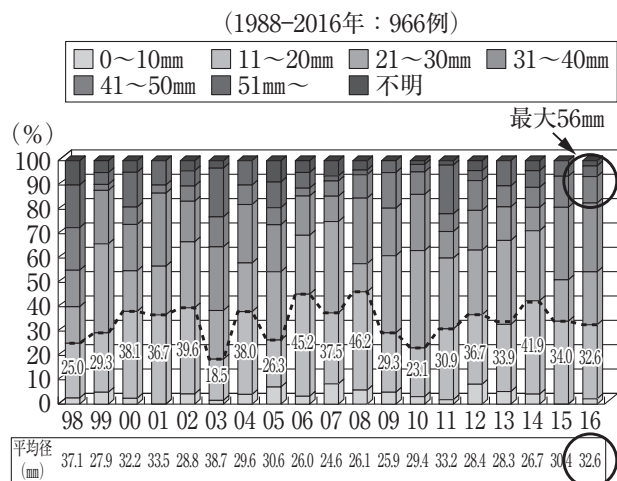
(1987-2016年：1,313例)



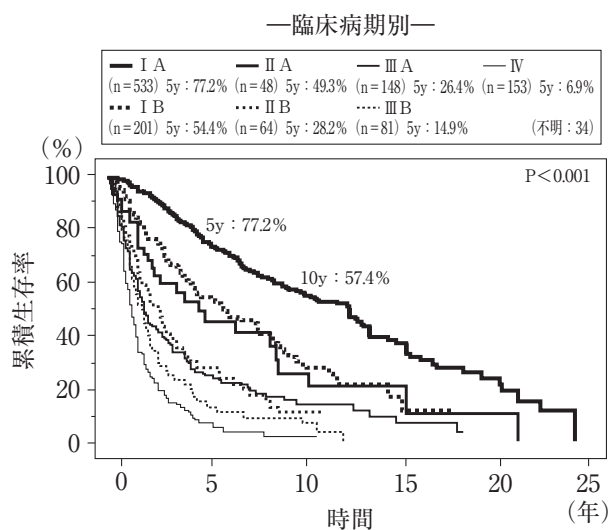
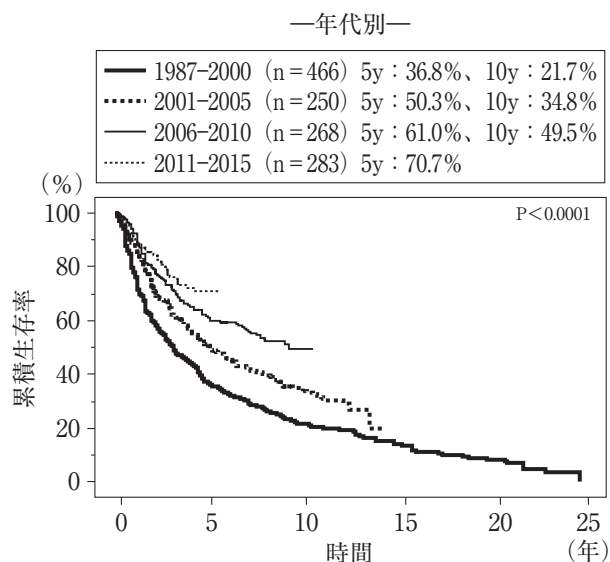
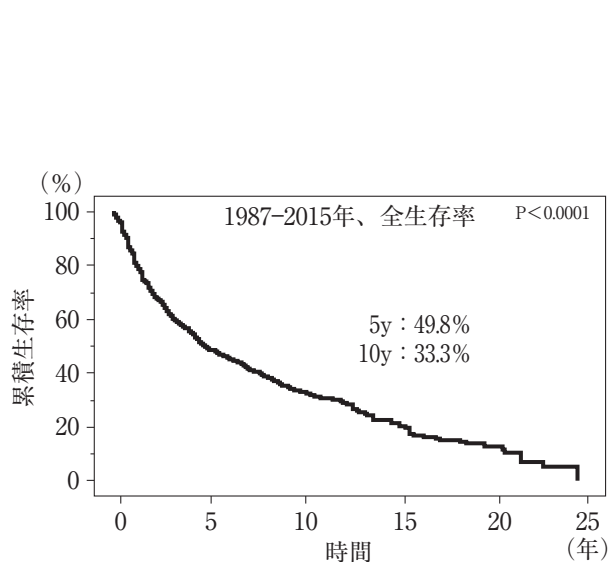
検診発見肺癌の年齢分布 (年次推移)



10) 検診発見肺癌の腫瘍径



11) 検診発見肺癌の予後 1267例



4. 乳 が ん 検 診

1. 乳がん検診実績

平成28年度の実施体制は、18市町村は「視触診及びマンモグラフィ併用」、1市のみ「マンモグラフィのみ」であった。実績は以下のとおりである。

平成28年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として市町村が把握している人数）は115,469人で、受診者数は19,245人、受診率16.7%で前年度より0.8ポイント低下した。2年合わせた最終受診率は27.6%であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数44,660人、受診者数9,802人、受診率21.9%で、全国平均（平成27年度）19.8%に比べ高い。

要精検者数1,244人、要精検率6.46%で前年度より1.71ポイントの低下であった。精検受診者数1,172人、精検受診率は94.2%で、前年度より1.1ポイント低下した。

精検の結果、乳がん67人、がん発見率（がん/受診者数）0.35%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）5.39%であり、平成27年度に比べ、発見がんが24人、がん発見率は0.09ポイント減少した。

検診受診率は近年16～17%台で推移しており、大きな変動は認めていない。国の目標値との比較では、要精検率、精検受診率、検診発見がん率、陽性反応適中度では、いずれも達成できていた。鳥取市ではマンモグラフィ単独検診に移行していたが、がん発見率の低下は認めず、精度は保たれていた。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診（視触診、マンモグラフィ併用）

区 分	受診者数（%）	要精検者数	要精検率（%）
車 検 診 (保健事業団、中国労働衛生協会)	6,394 (48.3%)	434	6.79
施 設 検 診 (病院、診療所)	6,832 (51.7%)	527	7.71
計	13,226 (100%)	961	7.27

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
車 検 診	401	92.4	21	0.33
施 設 検 診	495	93.9	28	0.41
計	896	93.2	49	0.37

〈圏域別結果〉

(1) 視触診・マンモグラフィー併用

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,081	1,751	3.88	92	5.25	85	92.4	2	0.11
中 部	22,648	3,722	16.43	264	7.09	240	90.9	16	0.43
西 部	47,740	7,753	16.24	605	7.80	571	94.4	31	0.40
計	115,469	13,226	11.45	961	7.27	896	93.2	49	0.37

(2) 視触診のみ（参考）

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,081	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.00
中 部	22,648	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.00
西 部	47,740	2	0.004	2	100.0	2	100.0	0	0.00
計	115,469	2	0.001	2	100.0	2	100.0	0	0.00

【参考：鳥取市】

1 概要

対象者数(40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として鳥取市が把握している人数)は35,981人で、このうち受診者数は6,019人（マンモグラフィーのみ）で、受診率は16.7%であった。

※(参考)40～69歳の数値 対象者数15,050人 受診者数4,961人 受診率33.0%

要精検者数は283人、要精検率は4.70%であった。

精密検査の受診者数は、276人（平成29年10月31日現在）であり、精密検査の受診率は97.5%であった。

精密検査の結果、乳がんであった者は18人であった。

また、がん発見率は0.30%であった。

陽性反応適中度は6.36%であった。

2 検診方法別結果

区 分	受診者数（率）		要精検者数	要精検率 (%)	がん	がん発見率 (%)
	H27年度	H28年度				
H27年度は併用 H28年度はマンモのみ	6,371	6,019	283	4.70	18	0.30

3 検診機関別受診結果

※車検診＝医師雇上、保健事業団、中国労働衛生協会

・一次検診

施設検診＝病院、診療所

区 分	受診者数（率）		要精検者数	要精検率（％）
	H27年度	H28年度		
車 検 診	2,764 (43.4％)	2,360 (39.2％)	127	5.38
施 設 検 診	3,607 (56.6％)	3,659 (60.8％)	156	4.26
計	6,371 (100％)	6,019 (100％)	283	4.70

・精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (％)	がん	がん発見率 (％)
車 検 診	123	96.9	7	0.30
施 設 検 診	153	98.1	11	0.30
計	276	97.5	18	0.30

4 圏域別結果

マンモグラフィーのみ

区分	対象者数	受診者数	受診率 (％)	要精検者数	要精検率 (％)	精 検 受診者数	精検受診率 (％)	がん	がん発見率 (％)
鳥取市	35,981	6,019	16.73	283	4.70	276	97.5	18	0.30

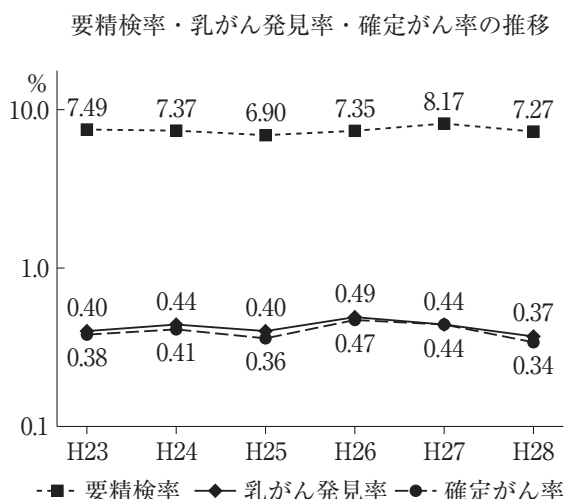
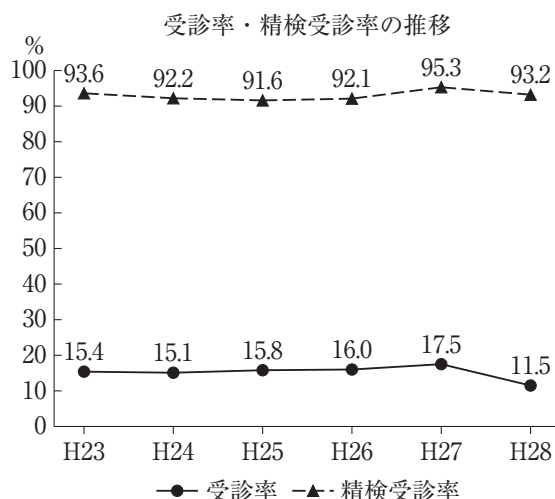
2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

平成28年度の確定乳がんは63例で、このうち非浸潤癌は6例であった。60代の患者数が最も多く、患者の平均年齢も高くなっている。早期癌は42例（66.7％）であり、早期癌患者の比率が前年度より低下した。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度・鳥取市分含
一次検診	対 象 者 数(人) A		118,248	118,248	118,248	118,248	118,248	115,469	115,469
	受 診 者 数(人) B		18,194	17,818	18,715	18,959	20,666	13,226	19,245
	受 診 率(%) C = B/A		29.3	29.2	29.6	30.5	32.3	27.6	—
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D		16,832	16,504	17,423	17,566	18,977	12,265	18,001
	要 精 検 者 数(人) E		1,362	1,314	1,292	1,393	1,689	961	1,244
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標 11.0%以下		7.49	7.37	6.90	7.35	8.17	7.27	6.46
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G		1,275	1,211	1,184	1,283	1,609	896	1,172
	精 検 受 診 率(%) H = G/E		93.6	92.2	91.6	92.1	95.3	93.2	94.2
精密検査結果	乳 が ん の 者(人) I		72(3)	78(1)	74(2)	92(5)	91(3)	49(2)	67(3)
	乳 が ん 発 見 率(%) J = I/B 指標 0.23%以上		0.40	0.44	0.40	0.49	0.44	0.37	0.35
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標 2.5%以上		5.29	5.94	5.73	6.60	5.39	5.10	5.39
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) L		70(69)	73	67	90	90	45	63
	確 定 が ん 率(%) M = L/B		0.38	0.41	0.36	0.47	0.44	0.34	0.33

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 平成19年度報告より、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上
- * 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。平成20年度報告より視・マンモ併用検診で発見された数。()内の数値は、視触診のみ検診で発見された数を含んだ数。



(2) 平成28年度乳がん検診（視触診及びマンモグラフィ併用）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモともに要精検	
				要精検者数 d	異常認めず		要精検者数 f	要精検率 (%) g = f/b	要精検者数 h	要精検率 (%) i = h/b	要精検者数 j	要精検率 (%) k = j/b
40～44歳	3,950	1,684	42.6	169	1,515	10.04	18	1.07	136	8.08	15	0.89
45～49歳	3,400	1,291	38.0	149	1,142	11.54	20	1.55	114	8.83	15	1.16
50～54歳	3,868	1,202	31.1	113	1,089	9.40	17	1.41	87	7.24	9	0.75
55～59歳	5,767	1,405	24.4	102	1,303	7.26	12	0.85	85	6.05	5	0.36
60～64歳	11,161	1,885	16.9	107	1,778	5.68	14	0.74	78	4.14	15	0.80
65～69歳	16,514	2,335	14.1	140	2,195	6.00	10	0.43	124	5.31	6	0.26
70～74歳	15,344	1,772	11.5	100	1,672	5.64	8	0.45	81	4.57	11	0.62
75～79歳	16,002	1,070	6.7	56	1,014	5.23	3	0.28	48	4.49	5	0.47
80歳以上	39,463	582	1.5	25	557	4.30	2	0.34	22	3.78	1	0.17
計	115,469	13,226	11.5	961	12,265	7.27	104	0.79	775	5.86	82	0.62

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査 受診者数 l	精検受診率 (%) m=l/d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) o=n/b	陽性反応 適 中 度 (%) p=n/d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	159	94.1	60	97	0	2	0.12	1.18
45～49歳	130	87.2	46	81	0	3	0.23	2.01
50～54歳	107	94.7	46	58	0	3	0.25	2.65
55～59歳	92	90.2	45	42	0	5	0.36	4.90
60～64歳	99	92.5	42	47	0	10	0.53	9.35
65～69歳	135	96.4	61	64	0	10	0.43	7.14
70～74歳	97	97.0	48	37	2	10	0.56	10.00
75～79歳	50	89.3	35	11	0	4	0.37	7.14
80歳以上	27	108.0	14	11	0	2	0.34	8.00
計	896	93.2	397	448	2	49	0.37	5.10

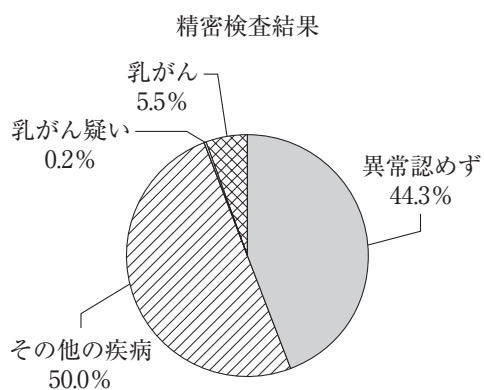
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'	一次検診結果		要精検率 (%) c'=b'/a'	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモともに要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず		要精検者数 d'	要精検率 (%) e'=d'/a'	要精検者数 f'	要精検率 (%) g'=f'/a'	要精検者数 h'	要精検率 (%) i'=h'/a'
保健事業団	6,394	434	5,960	6.79	24	0.38	376	5.88	34	0.53
病 院	5,074	399	4,675	7.86	56	1.10	303	5.97	40	0.79
診 療 所	1,758	128	1,630	7.28	24	1.37	96	5.46	8	0.46
計	13,226	961	12,265	7.27	104	0.79	775	5.86	82	0.62

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 j'	精検受診率 (%) k'=j'/b'	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) m'=l'/a'	陽性反応 適 中 度 (%) n'=l'/b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	401	92.4	188	190	2	21	0.33	4.84
病 院	369	92.5	153	191	0	25	0.49	6.27
診 療 所	126	98.4	56	67	0	3	0.17	2.34
計	896	93.2	397	448	2	49	0.37	5.10



4) 平成28年度乳がん検診受診状況（視触診及びマンモグラフィ併用）

市町村名	対象者数	受診者数			要精検者数						精密検査結果別人員							
		車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	検 率	精検受診 率 (%)	異 常 認めず	その他 の疾病	がん 疑い	がん 有所見者	がん発見 率 (%)	陽性反応 適中度(%)
A		B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H
鳥取市	35,981	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
米子市	27,725	867	3,367	4,234	15.3	74	234	308	7.27	301	97.7	111	174	1	15	190	0.35	4.9
倉吉市	10,453	569	618	1,187	11.4	33	72	105	8.85	90	85.7	47	34	0	9	43	0.76	8.6
境港市	6,910	434	716	1,150	16.6	39	59	98	8.52	91	92.9	30	55	0	6	61	0.52	6.1
岩美町	2,704	117	324	441	16.3	13	12	25	5.67	24	96.0	11	11	0	2	13	0.45	8.0
八頭町	3,681	668	133	801	21.8	26	13	39	4.87	33	84.6	14	19	0	0	19	0.00	0.0
若桜町	908	163	21	184	20.3	10	1	11	5.98	11	100.0	6	5	0	0	5	0.00	0.0
智頭町	1,807	147	178	325	18.0	6	11	17	5.23	17	100.0	10	7	0	0	7	0.00	0.0
湯梨浜町	3,347	533	154	687	20.5	35	15	50	7.28	47	94.0	30	16	0	1	17	0.15	2.0
三朝町	1,544	301	30	331	21.4	18	5	23	6.95	22	95.7	9	13	0	0	13	0.00	0.0
北栄町	3,260	583	115	698	21.4	36	11	47	6.73	45	95.7	21	24	0	0	24	0.00	0.0
琴浦町	4,044	681	138	819	20.3	34	5	39	4.76	36	92.3	17	13	0	6	19	0.73	15.4
南部町	2,416	290	379	669	27.7	28	30	58	8.67	51	87.9	29	17	1	4	22	0.60	6.9
伯耆町	2,584	248	184	432	16.7	17	13	30	6.94	26	86.7	12	13	0	1	14	0.23	3.3
日吉津村	649	92	63	155	23.9	4	5	9	5.81	9	100.0	7	2	0	0	2	0.00	0.0
大山町	4,109	333	172	505	12.3	29	19	48	9.50	46	95.8	15	27	0	4	31	0.79	8.3
日南町	1,521	228	30	258	17.0	14	2	16	6.20	14	87.5	10	4	0	0	4	0.00	0.0
日野町	962	140	0	140	14.6	18	0	18	12.86	17	94.4	8	8	0	1	9	0.71	5.6
江府町	864	0	210	210	24.3	0	20	20	9.52	16	80.0	10	6	0	0	6	0.00	0.0
合 計	115,469	6,394	6,832	13,226	11.5	434	527	961	7.27	896	93.2	397	448	2	49	499	0.37	5.1
東 部	45,081	1,095	656	1,751	3.9	55	37	92	5.25	85	92.4	41	42	0	2	44	0.11	2.2
中 部	22,648	2,667	1,055	3,722	16.4	156	108	264	7.09	240	90.9	124	100	0	16	116	0.43	6.1
西 部	47,740	2,632	5,121	7,753	16.2	223	382	605	7.80	571	94.4	232	306	2	31	339	0.40	5.1

【参考】

平成28年度乳がん検診（視触診のみ）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一 次 検 診 者 数	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%)
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
40 ～ 44 歳	0	0	0	0.00
45 ～ 49 歳	0	0	0	0.00
50 ～ 54 歳	0	0	0	0.00
55 ～ 59 歳	2	2	0	100.00
60 ～ 64 歳	0	0	0	0.00
65 ～ 69 歳	0	0	0	0.00
70 ～ 74 歳	0	0	0	0.00
75 ～ 79 歳	0	0	0	0.00
80 歳 以 上	0	0	0	0.00
計	2	2	0	100.00

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査 受診者数	精密検査 受診率 (%)	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%)	陽性反応 適 中 度 (%)
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん		
40～44歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
45～49歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
50～54歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
55～59歳	2	100.0	1	1	0	0	0.00	0.0
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	2	100.0	1	1	0	0	0.00	0.0

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

検 診 機 関	一 次 検 診 者 数	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%)
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
保健事業団	1	1	0	100.00
病 院	1	1	0	100.00
診 療 所	0	0	0	0.00
そ の 他	0	0	0	0.00
計	2	2	0	100.00

b. 精密検査結果

検 診 機 関	精密検査 受診者数	精密検査 受診率 (%)	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%)	陽性反応 適 中 度 (%)
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん		
保健事業団	1	100.0	0	1	0	0	0.00	0.0
病 院	1	100.0	1	0	0	0	0.00	0.0
診 療 所	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
そ の 他	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	2	100.0	1	1	0	0	0.00	0.0

【参考】

平成28年度乳がん検診（マンモグラフィーのみの受診者）

1）一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数	一次検診 受診者数	受診率 (%)	一次検診結果		要精検率 (%)
				要精検者数	異常認めず	
40～44歳	3,950	984	24.9	64	920	6.50
45～49歳	3,400	581	17.1	40	541	6.88
50～54歳	3,868	794	20.5	34	760	4.3
55～59歳	5,767	604	10.5	25	579	4.14
60～64歳	11,161	1,152	10.3	46	1,106	3.99
65～69歳	16,514	847	5.1	36	811	4.25
70～74歳	15,344	646	4.2	19	627	2.94
75～79歳	16,002	256	1.6	11	245	4.30
80歳以上	39,463	156	0.4	9	147	5.77
計	115,469	6,020	5.2	284	5,736	4.72

2）精密検診結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査 受診者数	精密検査 受診率 (%)	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%)	陽性反応 適 中 度 (%)
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん		
40～44歳	61	95.3	24	34	0	3	0.30	4.69
45～49歳	37	92.5	17	18	0	2	0.34	5.00
50～54歳	34	100.0	13	19	0	2	0.25	5.88
55～59歳	25	100.0	14	10	0	1	0.17	4.00
60～64歳	46	100.0	26	15	1	4	0.35	8.70
65～69歳	36	100.0	20	12	0	4	0.47	11.11
70～74歳	18	94.7	10	7	0	1	0.15	5.26
75～79歳	11	100.0	8	3	0	0	0.00	0.00
80歳以上	9	100.0	6	2	0	1	0.64	11.11
計	277	97.5	138	120	1	18	0.30	6.34

3）検診機関別

a．一次検診結果

検 診 機 関	一 次 検 診 受 診 者 数	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%)
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
保 健 事 業 団	2,310	128	2,182	5.54
病 院	3,659	156	3,503	4.26
診 療 所	0	0	0	0.00
中国労働衛生協会・医師雇上	51	0	51	0.00
計	6,020	284	5,736	4.72

b．精密検査結果

検 診 機 関	精密検査 受診者数	精密検査 受診率 (%)	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%)	陽性反応 適 中 度 (%)
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん		
保 健 事 業 団	124	96.88	64	52	1	7	0.30	5.47
病 院	153	98.08	74	68	0	11	0.30	7.05
診 療 所	0	0.00	0	0	0	0	0.00	0.00
中国労働衛生協会・医師雇上	0	0.00	0	0	0	0	0.00	0.00
計	277	97.5	138	120	1	18	0.30	6.34

4) 平成28年度乳がん検診受診状況 (マンモグラフィーのみの受診者)

市町村名	対象者数 A	受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員						がん発見率 (%) Q=N/D R=N/H	陽性反応 適中率(%) R=N/H			
		集団検診 B	医療機関 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	集団検診 F	医療機関 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診率 (%) K=J/H	異常 認めず L	有所見者 M=N+O+P			がん N	がん疑い O	その他の 疾病 P
鳥取市	35,981	2,360	3,659	6,019	16.7	127	156	283	4.7	276	97.5	138	138	18	1	119	0.299	6.4
米子市	27,725	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
倉吉市	10,453	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
境港市	6,910	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
岩美町	2,704	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
八頭町	3,681	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
若桜町	908	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
智頭町	1,807	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
湯梨浜町	3,347	1	0	1	0.0	1	0	1	100.0	1	100	0	1	0	0	1	0.000	0.0
三朝町	1,544	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
北栄町	3,260	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
琴浦町	4,044	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
南部町	2,416	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
伯耆町	2,584	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日吉津村	649	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
大山町	4,109	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日南町	1,521	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	962	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	864	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
合 計	115,469	2,361	3,659	6,020	5.2	128	156	284	4.72	277	97.5	138	139	18	1	120	0.299	6.3
東 部	45,081	2,360	3,659	6,019	13.4	127	156	283	4.70	276	97.5	138	138	18	1	119	0.299	6.4
中 部	22,648	1	0	1	0.004	1	0	1	100.00	1	100	0	1	0	0	1	0.000	0.0
西 部	47,740	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0

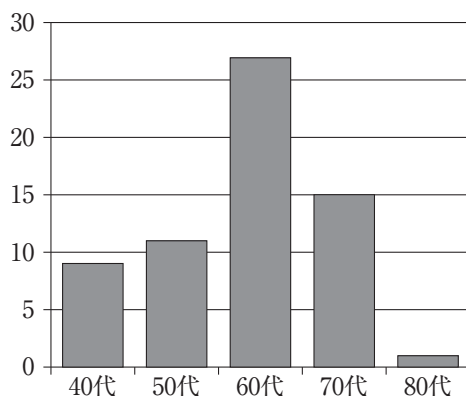
(3) 平成28年度検診発見乳がん追跡調査結果

1) 登録届け出数 70

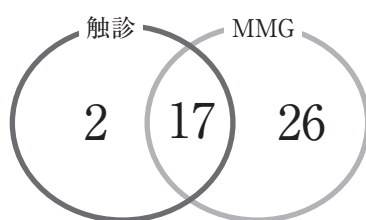
組織学的に確定された乳癌 63

鳥取市 18例 米子市 13例 倉吉市 8例 境港市 6例
 岩美町 2例 湯梨浜町 1例 琴浦町 6例 大山町 3例 南部町 4例
 伯耆町 1例 日野町 1例

2) 年齢構成 平均年齢：63.0歳

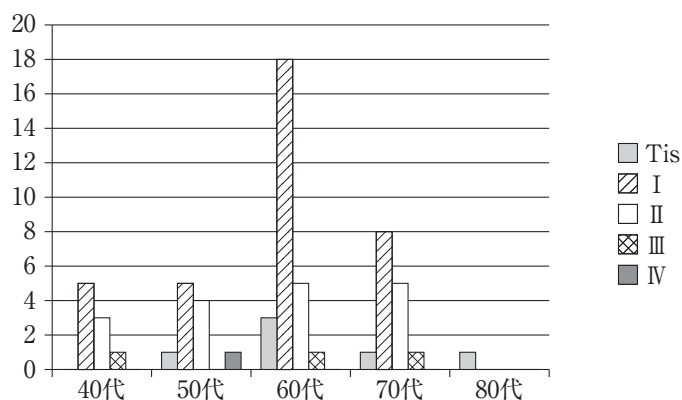
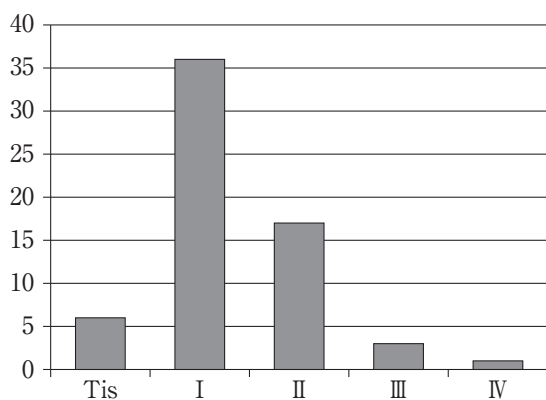


3) 触診とMMGの結果（鳥取市の結果を除く45例）



検診発見乳癌45例中2例が視触診のみで発見されている。

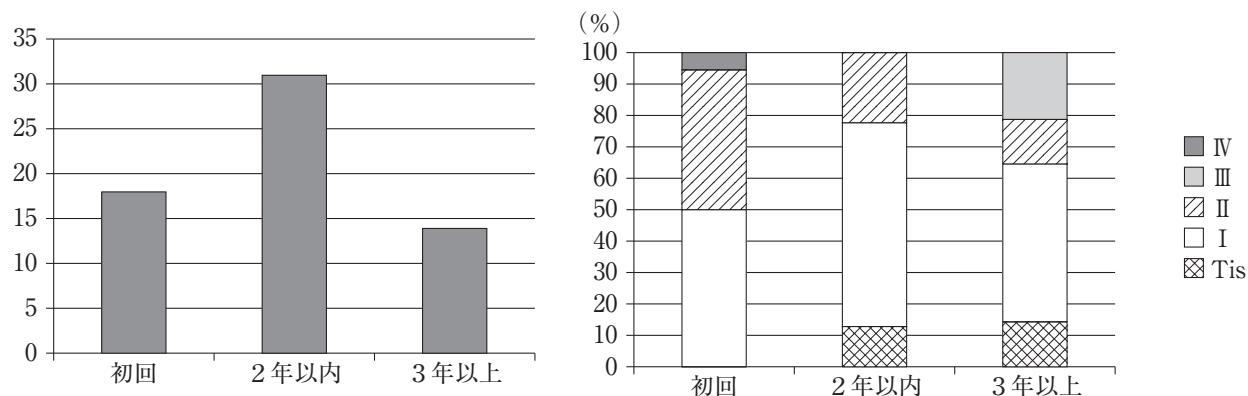
4) 病期分類



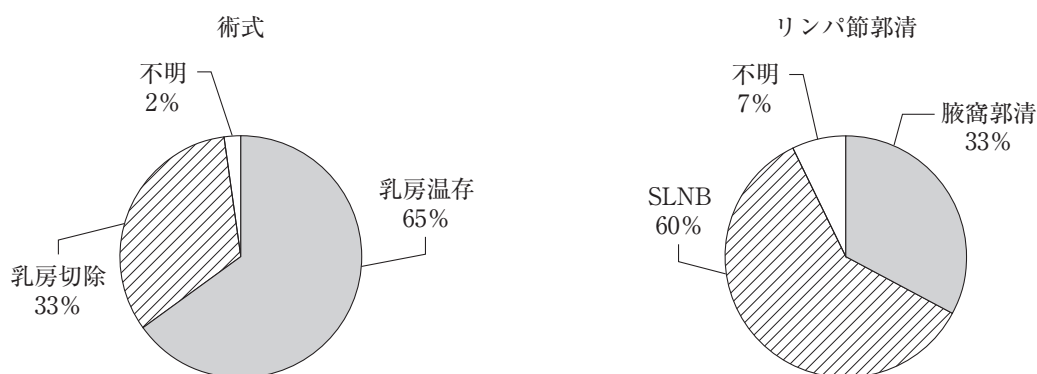
5) 組織型

非浸潤癌 7例 浸潤性乳管癌 49例 特殊型 7例

6) 検診歴と病期



7) 手術療法



8) その他の治療

化学療法	18
内分泌療法	51
放射線	36
トラスツズマブ	5

(重複あり)

まとめ

1. 平成28年度の確定乳癌は現時点で63例で前年度の約70%に減少していた。平均年齢は前年度とほぼ同じであり、前年度同様、60代の患者が多かった。
2. 鳥取市のみマンモグラフィ単独検診をおこなっていたが、県内の全症例に対する症例数は28.6%で、前年度の22.2%より高かった。従って、視触診の廃止による発見症例数の減少は認めなかった。
3. 非浸潤癌は6例、Stage I が36例で、早期癌の比率は66.7%であった。早期癌比率は前年度より低下した。
4. 触診のみで発見された乳癌は2例（4.4%）であり、マンモグラフィ単独検診になると乳癌症例の4～5%は見逃される可能性がある。
5. 2年以内の検診歴をもつ経年受診者で早期乳癌の比率が高かった。
6. 術式、リンパ節郭清に関しては、乳房温存手術、センチネルリンパ節生検のみの症例が多い傾向に変化はなかった。

5. 大 腸 が ん 検 診

1. 大腸がん検診実績

平成28年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は189,132人で、このうち受診者数は57,917人、受診率は30.6%で、前年度に比べ受診者数2,412人、受診率は1.1ポイント減少した。平成20年度以降、無料クーポン補助事業が行われたことにより、受診者数、受診率とも上昇傾向が続いていたが今回減少となった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数31,851人、受診率41.5%で、全国平均（平成27年度）受診率13.8%に比較し高い。

このうち要精検者数は5,321人、要精検率9.19%で、平成27年度より0.04ポイント増加となり、プロセス指標の目標値である7.0%も上回っている。要精検者のうち精密検査を受診したのは4,102人、精検受診率は77.1%（前年度と同率）で、プロセス指標の目標値90%は下回るが許容値の70%以上は維持されている。また、精検の結果、大腸がんであった者が177人で、がん発見率は0.31%（前年度比0.03ポイント増）、陽性反応適中度は3.3%（前年度比0.3ポイント増）であった。要精検率は国が示す許容値を上回っているが、がん発見率、陽性反応的中度は許容値を満たしている状況は例年通りであった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数(%)	要精検者数	要精検率(%)			
			計	東部	中部	西部
地域検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	21,733 (37.5%)	1,622	7.5	7.3	7.7	7.4
施設検診 (病院・診療所)	36,184 (62.5%)	3,699	10.2	9.6	12.0	10.6
計	57,917 (100%)	5,321	9.2	8.8	8.9	9.7

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率(%)			
				計	東部	中部	西部
地 域 検 診	1,264	77.9	51	0.235	0.216	0.220	0.278
施 設 検 診	2,838	76.7	126	0.348	0.296	0.383	0.396
計	4,102	77.1	177	0.306	0.270	0.267	0.364

〈圏域別結果〉

(1) 地域検診

区 分	受 診 者 数	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	7,866	574	7.3	449	78.2	0	17	0.216
中 部	7,743	594	7.7	458	77.1	0	17	0.220
西 部	6,124	454	7.4	357	78.6	4	17	0.278
計	21,733	1,622	7.5	1,264	77.9	4	51	0.235

(2) 施設検診

区 分	受 診 者 数	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	16,903	1,615	9.6	1,276	79.0	4	50	0.296
中 部	3,137	377	12.0	272	72.1	2	12	0.383
西 部	16,144	1,707	10.6	1,290	75.6	4	64	0.396
計	36,184	3,699	10.2	2,838	76.7	10	126	0.348

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い191例について確定調査を行った結果、確定癌181例（地域検診51例、施設検診130例）、腺腫1例、その他9例（他院受診4件、治療拒否2件、化学療法1件（いずれも臨床データが記入されていない））、調査中1件であった。そのうち早期がんは109例、早期癌率は60.2%で、平成27年度に比べ早期がんが増えている。

調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り60歳以上からがんが多く発見され、70歳代が一番多かった。65歳以上の占める割合が平成27年度75%だったのが、平成28年度は85%で高齢者のがんが増えている。40歳代男性からがんが3例発見され、早期がん2例、進行がん1例で、初回直腸2型SS（A）であった。
- (2) 部位では「R」と「S」が56.3%で、例年に比べ、A、Cが少し多く見つかった。肉眼分類では「2」29.3%であった。早期癌109例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が56.8%であった。早期癌が多く発見されている。
- (3) 深達度「m」が45.9%で、前年度の36%に比べ、約10%も多くなっている。
- (4) Dukes分類は「A」が60.8%、組織型分類は「Well」が53.6%、「Mod」が36.5%であった。Dukes分類の記入漏れが多かった。
- (5) 治療方法は外科手術が19例（10.5%）、内視鏡下手術82例（45.3%）、内視鏡治療は77例（43.1%）であった。内視鏡下手術の割合が増え、外科手術の割合が年々減少している。
- (6) 逐年検診発見進行大腸がんは24例（東部7例、中部2例、西部15例）であった。例年に比べ、件数が非常に増えたこと、特徴としては、上行結腸、盲腸が多かった。
各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

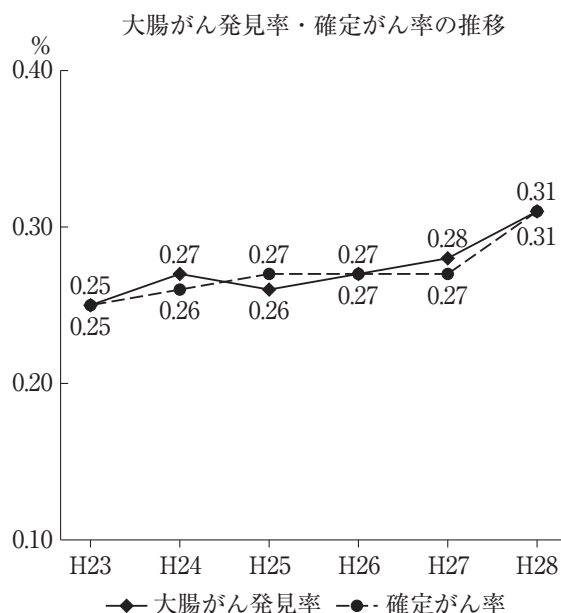
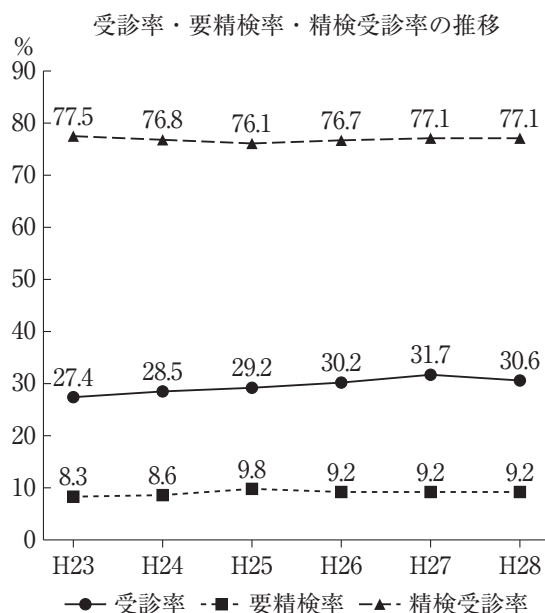
区 分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	190,556	190,556	190,556	190,556	190,556	189,132
	受 診 者 数(人) B	52,192	54,362	55,556	57,502	60,329	57,917
	受 診 率(%) C = B / A	27.4	28.5	29.2	30.2	31.7	30.6
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	47,885	49,693	50,100	52,222	54,810	52,596
	要 精 検 者 数(人) E	4,307	4,669	5,456	5,280	5,519	5,321
	要 精 検 率(%) F = E / B 指標：許容値7.0%以下	8.25	8.59	9.82	9.18	9.15	9.19
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	3,340	3,588	4,151	4,049	4,253	4,102
	精 検 受 診 率(%) H = G / E 指標：目標値90%以上	77.5	76.8	76.1	76.7	77.1	77.1
精密検査結果	大 腸 が ん の 者(人) I	131(9)	149(4)	146(9)	156(10)	166(14)	177(14)
	大腸がん発見率(%) J = I / B 指標：許容値0.13%以上	0.25	0.27	0.26	0.27	0.28	0.31
	陽性反応適中度(%) K = I / E 指標：許容値1.9%以上	3.0	3.2	2.7	3.0	3.0	3.3
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) L	131	142	148	155	165	181
	確 定 が ん 率(%) M = L / B	0.25	0.26	0.27	0.27	0.27	0.31

※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上。

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。

※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。



(2) 平成28年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数		一 次 検 診 受 診 者 数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
								要精検者数		異常認めず				
	a	b	c = b / a	d			e = d / b							
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	979	1,893	36.2	47.9	43.2	55	138	924	1,755	5.6	7.3	6.7
45～49歳	2,391	3,400	792	1,657	33.1	48.7	42.3	55	102	737	1,555	6.9	6.2	6.4
50～54歳	2,494	3,868	732	1,831	29.4	47.3	40.3	55	109	677	1,722	7.5	6.0	6.4
55～59歳	3,464	5,767	1,101	2,642	31.8	45.8	40.5	84	156	1,017	2,486	7.6	5.9	6.4
60～64歳	7,789	11,161	2,656	4,621	34.1	41.4	38.4	258	307	2,398	4,314	9.7	6.6	7.8
65～69歳	13,314	16,514	5,502	7,445	41.3	45.1	43.4	548	563	4,954	6,882	10.0	7.6	8.6
70～74歳	11,961	15,344	4,255	5,753	35.6	37.5	36.7	488	523	3,767	5,230	11.5	9.1	10.1
75～79歳	11,039	16,002	3,384	4,839	30.7	30.2	30.4	438	460	2,946	4,379	12.9	9.5	10.9
80歳以上	18,509	39,463	3,253	4,582	17.6	11.6	13.5	476	506	2,777	4,076	14.6	11.0	12.5
計	73,663	115,469	22,654	35,263	30.8	30.5	30.6	2,457	2,864	20,197	32,399	10.8	8.1	9.2
合 計	189,132		57,917		30.6			5,321		52,596		9.2		

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査 受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応適中度 (%) j = h / d		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん h							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	35	91	63.6	65.9	65.3	17	48	18	41	0	0	0	2	0.000	0.106	0.070	0.0	1.4	1.0
45～49歳	40	75	72.7	73.5	73.2	15	43	25	31	0	0	0	1	0.000	0.060	0.041	0.0	1.0	0.6
50～54歳	33	78	60.0	71.6	67.7	9	42	23	32	0	0	1	4	0.137	0.218	0.195	1.8	3.7	3.0
55～59歳	54	123	64.3	78.8	73.8	13	59	40	59	0	0	1	5	0.091	0.189	0.160	1.2	3.2	2.5
60～64歳	182	251	70.5	81.8	76.6	36	106	139	136	1	1	6	8	0.226	0.173	0.192	2.3	2.6	2.5
65～69歳	411	467	75.0	82.9	79.0	72	169	309	284	1	2	29	12	0.527	0.161	0.317	5.3	2.1	3.7
70～74歳	403	440	82.6	84.1	83.4	83	157	291	261	4	2	25	20	0.588	0.348	0.450	5.1	3.8	4.5
75～79歳	352	372	80.4	80.9	80.6	75	103	255	255	1	2	21	12	0.621	0.248	0.401	4.8	2.6	3.7
80歳以上	345	350	72.5	69.2	70.8	74	118	256	217	0	0	15	15	0.461	0.327	0.383	3.2	3.0	3.1
計	1,855	2,247	75.5	78.5	77.1	394	845	1,356	1,316	7	7	98	79	0.433	0.224	0.306	4.0	2.8	3.3
合計	4,102		77.1			1,239		2,672		14		177		0.306			3.3		

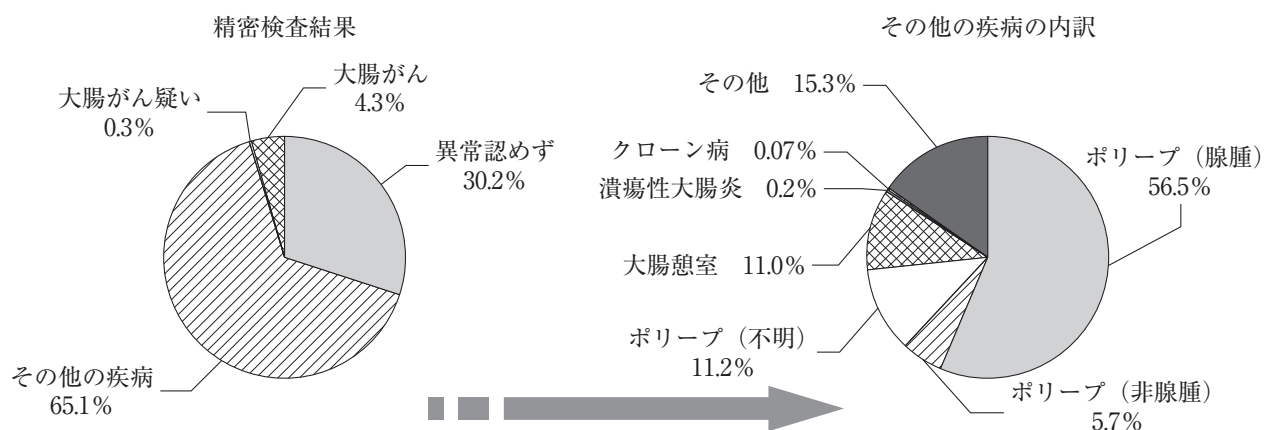
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'		一 次 検 診 結 果				要精検率（％）		
			要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	8, 031	12, 907	727	843	7, 304	12, 064	9. 1	6. 5	7. 5
中国労働衛生協会	325	470	30	22	295	448	9. 2	4. 7	6. 5
地 域 検 診 小 計	8, 356	13, 377	757	865	7, 599	12, 512	9. 1	6. 5	7. 5
病 院	4, 241	6, 058	568	609	3, 673	5, 449	13. 4	10. 1	11. 4
診 療 所	10, 057	15, 828	1, 132	1, 390	8, 925	14, 438	11. 3	8. 8	9. 7
施 設 検 診 小 計	14, 298	21, 886	1, 700	1, 999	12, 598	19, 887	11. 9	9. 1	10. 2
計	22, 654	35, 263	2, 457	2, 864	20, 197	32, 399	10. 8	8. 1	9. 2
合 計	57, 917		5, 321		52, 596		9. 2		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精 密 検 査 結 果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	548	679	75.4	80.5	78.2	106	283	409	377	1	3	32	16	0.398	0.124	0.229	4.4	1.9	3.1
中国労働衛生協会	21	16	70.0	72.7	71.2	6	7	14	7	0	0	1	2	0.308	0.426	0.377	3.3	9.1	5.8
地域検診小計	569	695	75.2	80.3	77.9	112	290	423	384	1	3	33	18	0.395	0.135	0.235	4.4	2.1	3.1
病 院	402	453	70.8	74.4	72.6	96	164	289	280	2	0	15	9	0.354	0.149	0.233	2.6	1.5	2.0
診 療 所	884	1,099	78.1	79.1	78.6	186	391	644	652	4	4	50	52	0.497	0.329	0.394	4.4	3.7	4.0
施設検診小計	1,286	1,552	75.6	77.6	76.7	282	555	933	932	6	4	65	61	0.455	0.279	0.348	3.8	3.1	3.4
計	1,855	2,247	75.5	78.5	77.1	394	845	1,356	1,316	7	7	98	79	0.433	0.224	0.306	4.0	2.8	3.3
合 計	4,102		77.1			1,239		2,672		14		177		0.306			3.3		



4) 平成28年度大腸がん検診受診状況

市町村名	対象者数 A	受診者数			要精検者数					精密検査結果別人員								
		地域検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	地域検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診率 (%) K=J/H	異 認めず L	その他の 疾病 M	がん疑い N	が 人 O	有所見者 P=M+N+O	がん発見率 (%) Q=O/D	陽性反応 適中度 R=O/H
鳥取市	59,003	4,016	14,666	18,682	31.7	268	1,438	1,706	9.1	1,342	78.7	410	877	3	52	932	0.278	3.0
米子市	44,119	0	12,065	12,065	27.3	0	1,230	1,230	10.2	951	77.3	296	604	2	49	655	0.406	4.0
倉吉市	17,150	1,347	1,950	3,297	19.2	129	225	354	10.7	265	74.9	84	166	2	13	181	0.394	3.7
境港市	11,206	1,105	2,364	3,469	31.0	98	232	330	9.5	285	86.4	69	195	2	19	216	0.548	5.8
岩美町	4,582	1,141	370	1,511	33.0	99	34	133	8.8	108	81.2	20	85	1	2	88	0.132	1.5
八頭町	6,230	2,204	623	2,827	45.4	161	61	222	7.9	159	71.6	42	111	0	6	117	0.212	2.7
若桜町	1,539	282	365	647	42.0	23	24	47	7.3	45	95.7	15	28	0	2	30	0.309	4.3
智頭町	3,027	223	879	1,102	36.4	23	58	81	7.4	71	87.7	14	52	0	5	57	0.454	6.2
湯梨浜町	5,676	1,480	666	2,146	37.8	103	83	186	8.7	136	73.1	57	74	0	5	79	0.233	2.7
三朝町	2,574	707	170	877	34.1	49	21	70	8.0	50	71.4	16	33	0	1	34	0.114	1.4
北栄町	5,516	2,393	232	2,625	47.6	187	32	219	8.3	156	71.2	53	97	0	6	103	0.229	2.7
琴浦町	6,751	1,816	119	1,935	28.7	126	16	142	7.3	123	86.6	37	82	0	4	86	0.207	2.8
南部町	4,011	494	1,183	1,677	41.8	29	200	229	13.7	128	55.9	27	98	0	3	101	0.179	1.3
伯耆町	4,257	1,331	0	1,331	31.3	82	0	82	6.2	63	76.8	27	33	1	2	36	0.150	2.4
日吉津村	1,008	277	242	519	51.5	18	14	32	6.2	22	68.8	10	11	0	1	12	0.193	3.1
大山町	6,967	1,248	254	1,502	21.6	95	24	119	7.9	86	72.3	24	56	2	4	62	0.266	3.4
日南町	2,551	644	36	680	26.7	59	7	66	9.7	53	80.3	17	35	1	0	36	0.000	0.0
日野町	1,553	379	0	379	24.4	31	0	31	8.2	26	83.9	10	16	0	0	16	0.000	0.0
江府町	1,412	646	0	646	45.8	42	0	42	6.5	33	78.6	11	19	0	3	22	0.464	7.1
合 計	189,132	21,733	36,184	57,917	30.6	1,622	3,699	5,321	9.2	4,102	77.1	1,239	2,672	14	177	2,863	0.306	3.3
東 部	74,381	7,866	16,903	24,769	33.3	574	1,615	2,189	8.8	1,725	78.8	501	1,153	4	67	1,224	0.270	3.1
中 部	37,667	7,743	3,137	10,880	28.9	594	377	971	8.9	730	75.2	247	452	2	29	483	0.267	3.0
西 部	77,084	6,124	16,144	22,268	28.9	454	1,707	2,161	9.7	1,647	76.2	491	1,067	8	81	1,156	0.364	3.7

(3) 平成28年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表 1 報告癌と確定癌

	地 域 検 診				施 設 検 診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報 告 癌	17	17	21	55	54	14	68	136	71	31	89	191
確 定 癌	17	16	18	51	52	14	64	130	69	30	82	181
腺 腫	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
そ の 他	0	0	3	3	2	0	4	6	2	0	7	9

※その他の内訳：他院受診 4 件、治療拒否 2 件、化学療法 1 件（いずれも臨床データ記入されてない）、調査中 1 件、異常なし 1 件

腺腫のケースも含め、組織診断が判明する前に、報告票を提出してしまっている。

表 2 性及び年齢

年 齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地 域	男	0	0	0	0	2	10	5	10	4	31
	女	1	0	1	0	3	4	5	2	4	20
	計	1	0	1	0	5	14	10	12	8	51
施 設	男	0	0	1	1	5	19	23	10	9	68
	女	1	1	3	5	3	9	17	11	12	62
	計	1	1	4	6	8	28	40	21	21	130
計	男	0	0	1	1	7	29	28	20	13	99
	女	2	1	4	5	6	13	22	13	16	82
総 計		2	1	5	6	13	42	50	33	29	181

※40代 3名内訳（初回上行結腸 I s M癌、初回直腸 2 型SS（A）、経年 S 状結腸 I s SM癌）

高齢者の割合が増加傾向。

表 3 部 位

	地 域 検 診				施 設 検 診				総計（％）
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	5	6	3	14	13	4	11	28	42(23.2)
S	8	4	6	18	15	6	21	42	60(33.1)
D	0	1	1	2	3	2	4	9	11(6.1)
T	1	0	2	3	5	0	3	8	11(6.1)
A	2	4	3	9	8	2	16	26	35(19.3)
C	1	1	3	5	8	0	9	17	22(12.2)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	16	18	51	52	14	64	130	181

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	7	6	7	20	11	4	11	26	46(25.4)
11～20	5	4	4	13	20	4	20	44	57(31.5)
21～50	2	5	5	12	17	6	29	52	64(35.4)
51～	3	1	2	6	4	0	4	8	14(7.7)
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	16	18	51	52	14	64	130	181

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	31	78	109(60.2)
1	4	6	10(5.5)
2	15	38	53(29.3)
3	0	5	5(2.7)
4	0	1	1(0.6)
5	0	1	1(0.6)
不明	1	1	2(1.1)
計	51	130	181

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	6	19	25(22.9)
I sp	11	26	37(33.9)
I s	6	7	13(11.9)
II a	5	12	17(15.6)
II a + II c	3	3	6(5.5)
II b	0	0	0
II c	0	4	4(3.7)
III	0	0	0
その他	0	7	7(6.4)
不明	0	0	0
計	31	78	109

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	6	9	7	26	8	27	83(45.9)
sm	4	2	4	4	3	11	28(15.5)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	10	11	11	30	11	38	111(61.4)
mp	0	3	3	6	0	6	18(9.9)
ss	4	1	3	11	2	15	36(19.9)
se	3	1	1	4	1	4	14(7.7)
si	0	0	0	1	0	1	2(1.1)
不明	0	0	0	0	0	0	0
計	17	16	18	52	14	64	181

表8 Dukes分類

Dukes分類	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	10	12	15	28	12	33	110(60.8)
B	4	0	0	7	1	12	24(13.3)
C	1	0	2	7	0	11	21(11.6)
D	0	1	0	0	0	2	3(1.7)
不明	2	3	1	10	1	6	23(12.7)
計	17	16	18	52	14	64	181

表9 組織型分類

組織型	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	11	12	11	25	10	28	97(53.6)
Mod	5	3	7	23	2	26	66(36.5)
Por	0	0	0	1	0	2	3(1.7)
Muc	0	1	0	1	0	3	5(2.8)
その他	0	0	0	0	0	1	1(0.5)
不明	1	0	0	2	2	4	9(5.0)
計	17	16	18	52	14	64	181

※その他：pap

表10 治療法

治療方法	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外 科 手 術	2	0	1	0	3	13	19(10.5)
内視鏡下手術	7	7	11	27	4	26	82(45.3)
内 視 鏡 治 療	7	9	6	25	7	24	78(43.1)
そ の 他 不 明	1	0	0	0	0	1	2(1.1)
計	17	16	18	52	14	64	181

内視鏡下手術の割合が増え、外科手術の割合が減った。

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40～70歳の5歳刻み）＋節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ＋未受診者）＋節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成28年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成28年度は19市町村で実施し、対象者数221,491人（前年度196,150人）のうち、受診者数は6,292人（前年度7,179人）で、受診率は2.8％（前年度3.7％）であった。要精検者数は、HBs抗原陽性者90人、HCV抗体陽性者16人で、受診者数の1.68％（前年度1.84％）であった。受診者数におけるHBs抗原陽性率は1.4％（前年度1.6％）、HCV抗体陽性率は0.3％（前年度0.3％）であった。また、要精検者数105人のうち精検受診者数は62人、精検受診率は59.0％（前年度62.1％）で、前年度に比べ3.1ポイントの減であった。精検受診者数62人のうち、肝臓がん確定は0人（前年度1人）であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は15市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導 対 象 者 (人)	定期検査 受診者数 (人)	定期検査結果（人・％）			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,859	907	143 (15.8)	8 (0.9)	2 (0.2)	1 (0.1)
C型肝炎ウイルス陽性者	758	373	118 (31.6)	15 (4.0)	8 (2.1)	2 (0.5)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成28年度の22年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数154,738人、推計受診率80.5%である。そのうちHBs抗原陽性者は3,459人（陽性率2.24%）、HCV抗体陽性者は3,706人（陽性率2.40%）であった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- (1) 平成28年度肝炎ウイルス検査からは肝がん疑いと診断されたが、調査の結果、CTにて腫瘍なしと診断されている。肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が5名であった。
- (2) 平成7～28年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、30例が確定癌であり、そのうち26例は死亡、生存中の4例のうち、2例は再発、2例は再発されていない。また、平成10～28年度定期検査確定がんが157例で、そのうち119例（他病死を含む）が死亡である。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

(1) 一次検診

年 度	受 診 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率 (%)	HCV陽性者	HCV陽性率 (%)
H26	8,321	124	1.5	26	0.3
H27	7,179	112	1.6	20	0.3
H28	6,292	90	1.4	16	0.3

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

(2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
H26	150	97	64.7	2	0.02
H27	132	82	62.1	1	0.01
H28	105	62	59.0	0	0.00

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 年齢階級別受診状況

区 分	平成28年度			平成7～28年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率 (%)	HCV陽性率 (%)	受 診 者 数	HBs陽性率 (%)	HCV陽性率 (%)
40～44歳	1,217	0.9	0.2	14,915	2.05	0.61
45～49歳	546	0.9	0.2	11,464	3.01	1.25
50～54歳	514	1.6	0.0	13,188	3.12	1.50
55～59歳	601	1.3	0.0	16,502	2.65	1.99
60～64歳	1,082	2.0	0.2	27,531	2.29	2.48
65～69歳	1,272	1.7	0.4	29,168	2.20	2.84
70～74歳	725	1.4	0.6	24,070	1.77	3.26
75～79歳	166	1.2	0.6	10,123	1.49	3.75
80歳以上	169	1.2	0.0	7,777	1.39	3.46
計	6,292	1.4	0.3	154,738	2.24	2.40

(2) 平成28年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一次検診 受診者数 a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) e = (b + d)/a			HCV抗体陽性率 (%) f = (c + d)/a		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b		HCV抗体 のみ陽性 c		HBs・HCV ともに陽性 d							
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	457	760	449	754	7	4	1	2	0	0	1.5	0.5	0.9	0.2	0.3	0.2
45～49歳	189	357	186	354	3	2	0	1	0	0	1.6	0.6	0.9	0.0	0.3	0.2
50～54歳	185	329	183	323	2	6	0	0	0	0	1.1	1.8	1.6	0.0	0.0	0.0
55～59歳	209	392	207	386	2	6	0	0	0	0	1.0	1.5	1.3	0.0	0.0	0.0
60～64歳	510	572	497	561	12	10	1	1	0	0	2.4	1.7	2.0	0.2	0.2	0.2
65～69歳	681	591	668	578	10	11	3	1	0	1	1.5	2.0	1.7	0.4	0.3	0.4
70～74歳	335	390	326	385	7	3	2	2	0	0	2.1	0.8	1.4	0.6	0.5	0.6
75～79歳	77	89	77	86	0	2	0	1	0	0	0.0	2.2	1.2	0.0	1.1	0.6
80歳以上	66	103	66	101	0	2	0	0	0	0	0.0	1.9	1.2	0.0	0.0	0.0
計	2,709	3,583	2,659	3,528	43	46	7	8	0	1	1.6	1.3	1.4	0.3	0.3	0.3
合 計	6,292		6,187		89		15		1		1.4			0.3		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	区 分	精密検査 受診者		精 密 検 査 結 果																肝臓がん 発見率 h = g / a		
				健康指導対象者診断名																		
				無症候性キャリア		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病				その他
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
40～44歳	B型陽性	5	2	3	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	6	2	3	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
45～49歳	B型陽性	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	0	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
50～54歳	B型陽性	0	4	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	0	4	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.000	
55～59歳	B型陽性	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	1	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
60～64歳	B型陽性	7	7	6	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	7	7	6	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
65～69歳	B型陽性	5	9	3	9	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	ともに陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	7	10	3	10	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.000	
70～74歳	B型陽性	5	3	4	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	6	4	4	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
75～79歳	B型陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
80歳以上	B型陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
計	B型陽性	23	31	16	28	0	0	7	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	4	3	0	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	ともに陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	27	35	16	31	1	1	9	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0.000	
合 計	B型陽性	54		44		0		9	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	7		2		2		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	ともに陽性	1		1		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	62		47		2		11	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0.000	

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認めた者を指す。
 ※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数 a'		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) e' = (b' + d') / a'			HCV抗体陽性率 (%) f' = (c' + d') / a'		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b'		HCV抗体 のみ陽性 c'		HBs・HCV ともに陽性 d'							
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
直 営	53	44	53	44	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	758	1,132	749	1,116	8	13	1	3	0	0	1.1	1.1	1.1	0.1	0.3	0.2
中国労働衛生協会	41	31	41	31	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病 院	379	559	371	550	7	8	1	1	0	0	1.8	1.4	1.6	0.3	0.2	0.2
診 療 所	1,478	1,817	1,445	1,787	28	25	5	4	0	1	1.9	1.4	1.6	0.3	0.3	0.3
計	2,709	3,583	2,659	3,528	43	46	7	8	0	1	1.6	1.3	1.4	0.3	0.3	0.3
合 計	6,292		6,187		89		15		1		1.4			0.3		

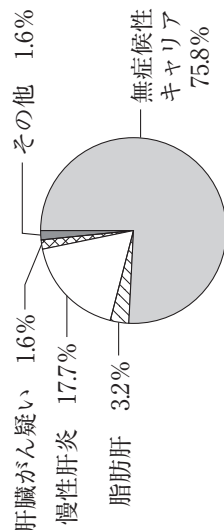
b. 精密検査結果

二次 一 検診機関	区 分	精 密 検 査 者 受 診		精 密 検 査 結 果												肝臓がん 発 見 率 h' = g' / a'				
				健 康 指 導 対 象						結 果										
				無症候性キャリア		脂 肪 肝		慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん g'			その他の疾病		そ の 他	
直 営	B 型陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C 型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全 体	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000		
保健事業団	B 型陽性	4	11	3	11	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C 型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全 体	4	12	3	11	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000		
中国労働 衛生協会	B 型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C 型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000		
病 院	B 型陽性	2	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
	C 型陽性	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全 体	3	3	1	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.000		
診 療 所	B 型陽性	17	17	12	15	0	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C 型陽性	3	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		
	ともに陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全 体	20	19	12	17	0	0	7	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0.000		
計	B 型陽性	23	31	16	28	0	0	7	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
	C 型陽性	4	3	0	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		
	ともに陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全 体	27	35	16	31	1	1	9	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0.000		
合 計	B 型陽性	54	44	30	44	0	0	9	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
	C 型陽性	7	2	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		
	ともに陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全 体	62	47	32	47	2	0	11	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0.000		

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認めた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

精密検査結果（肝炎ウイルス検査）



4) 平成28年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況

実施市町村数=19

市町村名	対象者数 A	受診者数			陽性者数							精密検査結果					人員		
		集団検診 B	医療機関 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	HBs抗原 のみ陽性 F	HCV抗体 のみ陽性 G	HBs抗原 HCV抗体 ともに陽性 H	HBs抗原 陽性率 (%) I=(F+H)/D	HCV抗体 陽性率 (%) J=(G+H)/D	精 受診者数 K	精 受診率 (%) L=K/(F+G+H)	無症候性 キャリア M	その他 の疾病 N	がん疑い O	がん P	有所見者 Q=N+O+P	がん 発見率 (%) R=P/D	
鳥取市	68,321	729	1,741	2,470	3.6	34	6	0	1.4	0.2	18	45.0	11	6	1	0	7	0.000	
米子市	66,067	0	1,677	1,677	2.5	25	4	1	1.6	0.3	22	73.3	17	5	0	0	5	0.000	
倉吉市	17,969	163	282	445	2.5	6	3	0	1.3	0.7	6	66.7	4	2	0	0	2	0.000	
境港市	11,206	96	275	371	3.3	5	0	0	1.3	0.0	4	80.0	4	0	0	0	0	0.000	
岩美町	4,582	86	0	86	1.9	3	0	0	3.5	0.0	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000	
八頭町	6,230	279	0	279	4.5	5	0	0	1.8	0.0	2	40.0	2	0	0	0	0	0.000	
若桜町	1,539	13	14	27	1.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
智頭町	3,301	49	30	79	2.4	1	0	0	1.3	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000	
湯梨浜町	5,676	43	37	80	1.4	2	0	0	2.5	0.0	2	100.0	1	1	0	0	1	0.000	
三朝町	2,574	84	28	112	4.4	0	1	0	0.0	0.9	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
北栄町	5,516	65	37	102	1.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
琴浦町	6,751	115	0	115	1.7	4	0	0	3.5	0.0	3	75.0	3	0	0	0	0	0.000	
南部町	4,011	44	74	118	2.9	2	1	0	1.7	0.8	1	33.3	1	0	0	0	0	0.000	
伯耆町	4,257	118	0	118	2.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
日吉津村	1,008	16	0	16	1.6	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
大山町	6,967	97	0	97	1.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
日南町	2,551	27	38	65	2.5	2	0	0	3.1	0.0	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000	
日野町	1,553	3	0	3	0.2	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
江府町	1,412	32	0	32	2.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	
合 計	221,491	2,059	4,233	6,292	2.8	89	15	1	1.4	0.3	62	59.0	47	14	1	0	15	0.000	
東 部	83,973	1,156	1,785	2,941	3.5	43	6	0	1.5	0.2	23	46.9	16	6	1	0	7	0.000	
中 部	38,486	470	384	854	2.2	12	4	0	1.4	0.5	11	68.8	8	3	0	0	3	0.000	
西 部	99,032	433	2,064	2,497	2.5	34	5	1	1.4	0.2	28	70.0	23	5	0	0	5	0.000	

(3) 平成7～28年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成28年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年 齢	健康指導対象者 (平成28年4月 1日現在の実 人員)		受 診 者 数 (平成29年10月 31日現在の実 人員)		定 期 検 査 結 果												そ の 他			
	健康指導対象者 (平成28年4月 1日現在の実 人員)				健 康 指 導 対 象 者 診 断 名															
	無症候性 キャリア				脂 肪 肝		慢 性 肝 炎		肝 硬 変		アルコール性 肝 障 害		肝臓がん疑い		肝 臓 が ん				その他の疾病	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	29	43	8	2	6	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	23	63	3	10	3	8	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	42	69	5	23	4	18	0	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	61	130	22	34	17	27	1	2	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	102	184	23	75	17	56	1	2	3	14	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1
65～69歳	152	211	57	121	36	93	5	5	13	18	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0
70～74歳	145	156	86	118	58	93	5	5	18	16	1	1	0	0	1	0	0	2	3	1
75～79歳	65	121	57	90	39	80	1	1	14	6	0	0	1	0	0	0	1	2	2	0
80歳以上	78	185	64	109	45	88	0	0	10	13	2	0	1	0	0	0	0	0	5	3
計	697	1,162	325	582	225	465	13	16	65	78	6	2	3	0	1	0	0	2	5	15
合計 (比率(%))	1,859		907 (100)		690 (76.1)		29 (3.2)		143 (15.8)		8 (0.9)		3 (0.3)		1 (0.1)		2 (0.2)		20 (2.2)	11 (1.2)

2) 平成28年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年 齢	健康指導対象者 (平成28年4月 1日現在の実 人員)		受 診 者 数 (平成29年10月 31日現在の実 人員)		定 期 検 査 結 果												そ の 他	
	健康指導対象者 (平成28年4月 1日現在の実 人員)		受 診 者 数 (平成29年10月 31日現在の実 人員)		健 康 指 導 対 象 者 診 断 名													
					肝 臓 が ん													
					無症候性 キャリア		脂 肪 肝		慢 性 肝 炎		肝 硬 変		アルコール性 肝 障 害		肝臓がん疑い		肝 臓 が ん	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
40～44歳	6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
45～49歳	6	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
50～54歳	8	19	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
55～59歳	11	29	1	9	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	4	
60～64歳	37	32	10	12	5	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	7	
65～69歳	49	56	16	24	3	5	0	1	2	8	1	2	0	0	0	10	8	
70～74歳	30	81	18	38	3	8	0	1	3	7	1	2	0	0	0	1	9	
75～79歳	34	84	27	62	7	13	0	0	7	18	1	2	0	0	1	3	8	
80歳以上	65	197	41	110	14	36	0	1	16	49	1	4	0	0	1	2	6	
計	246	512	117	256	32	65	1	4	31	87	5	10	0	1	2	6	37	
合計 (比率(%))	758		373 (100)		97 (26.0)	5 (1.3)	118 (31.6)	15 (4.0)	0 (0.0)	2 (0.5)	8 (2.1)	112 (30.0)	2	8 (2.1)	16 (4.3)			

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不要であると認めた者を指す。

(4) 平成7～28年度肝臓がん検診結果

年齢	一次検診 受診者数 A		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 B		陽性率（％） C = B/A			陽性者数 D		陽性率（％） E = D/A		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	4,923	9,992	126	180	2.56	1.80	2.05	41	50	0.83	0.50	0.61
45～49歳	3,597	7,867	129	216	3.59	2.75	3.01	41	102	1.14	1.30	1.25
50～54歳	3,888	9,300	143	269	3.68	2.89	3.12	41	157	1.05	1.69	1.50
55～59歳	4,924	11,578	134	304	2.72	2.63	2.65	79	249	1.60	2.15	1.99
60～64歳	10,461	17,070	294	337	2.81	1.97	2.29	211	473	2.02	2.77	2.48
65～69歳	12,218	16,950	302	340	2.47	2.01	2.20	307	522	2.51	3.08	2.84
70～74歳	9,956	14,114	192	234	1.93	1.66	1.77	314	470	3.15	3.33	3.26
75～79歳	3,947	6,176	67	84	1.70	1.36	1.49	150	230	3.80	3.72	3.75
80歳以上	2,865	4,912	33	75	1.15	1.53	1.39	114	155	3.98	3.16	3.46
計	56,779	97,959	1,420	2,039	2.50	2.08	2.24	1,298	2,408	2.29	2.46	2.40
合 計	154,738		3,459		2.24			3,706		2.40		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成28年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	
1	51	女	肝臓がん疑い							無	B	1.71		生存	CTにて腫瘍なし、経過観察

2) 平成28年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	
1	73	男	FNH疑い	未治療 経過観察			S8		腫瘍	無	B	1.8		生存	未治療 経過観察
2	49	男	肝臓がん疑い	経過観察		単発		20×20	腫瘍	無	C	3.8	27	生存	CTでは腫瘍なし
3	80	女	肝臓がん	TAE・RFA	28. 9. 23	単発	S7	29×29	腫瘍	無	C	4.1	123	生存	S4に再発 RFA施行
4	90	女	肝臓がん	RFA	25. 5	2 個	S68	14×13 11×10	腫瘍	無	C	15.5	12	死亡	他病死 脳出血
5	81	男	肝臓がん	RFA	28.10. 5	単発	S8	14×14	腫瘍	有	C	7.0	19	生存	H29. 8再発なし
6	79	女	肝臓がん	RFA	28. 6. 15	単発	S6	7×8	腫瘍	無	C	1.6	14.6	生存	SVR後発癌
7	73	女	肝臓がん	無治療		単発	S8	10×10	腫瘍	有	C	7.0	62	生存	Pugh 10にて無 治療を希望 H 30. 1. 15現在22 mmに増大

3) 平成10年度～平成28年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備 考
1	71	男	切除	95. 8.	単 発			腫瘍	有	C	再発、6年11か月後死亡
2	63	男	切除	97. 2. 26	単 発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2 個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単 発	S2	10×10	腫瘍	無	C	12年11か月後他病死
5	59	男	TAE	98. 5.	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単 発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単 発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4 個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11	> 4 個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単 発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2 個	S5/6, 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単 発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡
13	66	男	切除	00. 9. 27	2 個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単 発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28	単 発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14	> 4 個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単 発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11.	> 4 個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単 発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死
20	70	女		01. 7. 2						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単 発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19	単 発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単 発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単 発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単 発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単 発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単 発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6. 27	> 4 個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26	単 発	S3	30×30	浸潤	無	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単 発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単 発	S8	40×40	腫瘍	無	C	1年3か月後他病死
32	75	男	切除	03. 6. 3	単 発	S6	20×20	腫瘍	無	B	再発、10年8か月後死亡
33	76	男	切除	04. 3. 10	2 個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、3年5か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単 発	S8	25×20	腫瘍	有	C	再発、9年8か月後死亡
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単 発	S5/6	22×21	腫瘍	無	C	再発、6年8か月後死亡
36	80	男	RFA	04. 8. 3	> 4 個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡
37	91	女	未治療		> 4 個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	2か月後死亡
38	74	女	TAE		> 4 個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 10.	単 発	S8	23×23	腫瘍	有	C	再発、4年2か月後死亡
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単 発	S8	30×20	腫瘍	無	C	再発、6年4か月後死亡
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単 発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単 発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	再発、7年3か月後死亡
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3 個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後死亡
44	68	男	切除	04. 9. 13	単 発	S6	30×20	腫瘍	有	C	再発、8年2か月後死亡
45	72	女	T/R	04. 10.	2 個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不 明	不明	不明	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
47	86	女	TAE	04. 6	単 発	S8	40×40	腫瘍	有	C	5か月後死亡
48	73	男	切除	00. 3.	単 発	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5. 12	単 発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	4年3か月後再発H28. 3. 3 S3部分切除 再発なし
50	64	男	TAE	09. 1.	単 発	S5	10×10	腫瘍	有	C	再発、3年3か月後死亡
51	73	女	未治療		> 4 個	S278	7×7	腫瘍	有	C	4年10か月後死亡
52	75	男	切除	06. 3. 29	単 発	S7/8	43×25	浸潤	無	C	再発、3年10か月後死亡
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単 発	S7	18×18	腫瘍	有	C	5年5か月後死亡
54	75	男	T/R	05. 8.	2 個	S67	25×25	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡
55	87	女	未治療		単 発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死
56	89	女	T/P	05. 12.	単 発	S2	15×15	腫瘍	無	C	4年1か月後他病死
57	82	女	T/R	05. 10.	単 発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死
58	77	女	切除	04. 11. 7	2 個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発 H28. 9. 26 死亡
59	59	女	RFA	06. 1.	単 発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	再発、7年7か月後死亡
60	67	女	RFA	04. 4.	単 発	S5	15×15	腫瘍	無	B	6年3か月後再発
61	68	男	肝臓否定		(単 発)	S6	13×13)		無	B	生存中
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2 個	S57	15×15	腫瘍	有	C	再発、3年6か月後死亡
63	79	男	TAE	06. 11.	多 発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単 発	S4	16×23	腫瘍	無	C	再発、6年4か月後死亡
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単 発	S8	30×30	腫瘍	無	C	再発、6年10か月後他病死
66	82	女	TAE	06. 3. 14	単 発	S8	35×35	腫瘍	無	C	再発、7年3か月後死亡
67	69	男	切除	06. 9. 26	2 個	S67	22×20	腫瘍	無	C	H28. 5再発 治療希望されず
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単 発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年10か月後死亡
69	81	女	切除	97. 3. 24	単 発	S8		腫瘍	無	C	再発、12年11か月後死亡
70	80	男	T/R	06. 8. 31	> 4 個	S84	31×27	腫瘍	有	C	再発、6年1か月後死亡

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備 考
71	73	女	TAE	06. 2. 21	> 4 個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1 年 6 か月後死亡
72	64	男	切除	07. 1. 12	単 発	S5	35×35	腫瘍	無	C	2 年10か月後再発
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単 発	S1	20×20	腫瘍	有	C	再発、1 年後死亡
74	80	女	RFA	02. 9. 1	単 発	S8		腫瘍	有	C	再発、9 年 6 か月後死亡
75	63	女	T/R	07. 5. 8	単 発	S8	16×16			B	7 年 1 か月後再発
76	73	男	M/R	03. 8. 5	> 4 個	S348	15×15		無	B	再発、8 年後死亡
77	73	男	切除	05. 3. 14	単 発	S45	42×28	腫瘍	有	B	再発、3 年後死亡
78	74	男	切除	06.12.21	単 発	S458	35×30	腫瘍	無	C	再発、8 年10か月後死亡
79	60	女	RFA	07. 7. 1	単 発	S7	17×12	腫瘍	有	C	3 年 4 か月後再発
80	87	女	未治療		単 発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2 年 7 か月後他病死
81	80	女	TAE	03. 3. 1	単 発	S2/3	20×20		有	C	再発、8 年 7 か月後死亡
82	77	女	TAE	08.10. 7	単 発	S6	50×50	腫瘍	有	C	再発、2 年後死亡
83	70	男	RFA		単 発	S5	12×12	腫瘍	有	B	H29. 3 月 S1 2.5cm 再発肝切除
84	77	女	TAE	09. 3. 24	2 個	S58	25×25	腫瘍	有	C	1 年 3 か月後肝不全死
85	84	女	T/P	09. 9. 7	単 発	S7	30×30	腫瘍	有	C	2 年 1 か月後肝不全死
86	72	女	TAE	09.12.18	> 4 個		40×40	腫瘍	有	C	再発、3 年 2 か月後死亡
87	79	女	TAE	10.11.18	2 個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	4 年 1 か月後再発
88	89	男	TAE	09.10. 6	> 4 個		20×20	腫瘍	有	C	3 年 9 か月後死亡
89	76	女	T/R	08. 5. 12	単 発	S3	25×25	腫瘍	有	C	5 年 2 か月後再発
90	76	女	T/R	09. 7. 22	2 個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	1 年 7 か月後死亡
91	79	男	T/R	10. 3. 25	単 発	S7	23×23		有	C	2 年11ヶ月後他病死
92	85	女	切除	10. 3. 1	単 発	S3	25×25	腫瘍	無	C	再発、3 年後死亡
93	66	男	TAE	09. 7. 1	> 4 個	S1		浸潤	有	B	1 年10か月後死亡
94	73	女	切除	09.10.20	単 発	S5	40×40	腫瘍	無	B	無再発生存中
95	68	女	切除	09. 8. 21	> 4 個	S348	15×15	腫瘍	無	B	生存中
96	75	男	TAE	08. 1. 1	> 4 個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	再発、5 年 3 か月後死亡
97	78	男	精査中							C	
98	75	男	TAE	07. 2. 11	単 発	S6			無	B	再発、7 年 5 か月後死亡
99	66	男	TAE	11. 1. 20	2 個	S5/6	12×12	腫瘍	有	C	5 年10か月後再発、8 か月後死亡
100	80	女	RFA	10.11.09	単 発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	3 年 8 か月後再発
101	64	女	TAE	10. 11. 1	単 発	S6	5 × 5	腫瘍	有	C	再発、5 年 1 か月後死亡
102	75	女	切除	08. 7. 30					無	C	H27. 1 再発
103	75	男	TAE	10.12.08	> 4 個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘍	有	C	再発、2 年 5 か月後死亡
104	69	女	RFA	10. 4. 1	単 発	S6	18×18		無	C	3 年10か月後再発
105	79	男	TAI	09.10.26	2 個	S7/8	18×15	腫瘍	有	C	2 年 8 か月後死亡
106	71	女	切除	07. 8. 17	単 発	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	再発、4 年 5 か月後死亡
107	85	女	RFA	10. 7. 1	2 個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	再発、5 年 4 か月後他病死
108	84	女	RFA	09.10.30	単 発	S8	15×15	腫瘍	有	C	無再発生存中
109	65	男	T/R	10.03. 1	単 発	S5	24×24		有	B	再発、4 年11か月後死亡
110	57	女	切除	11. 1. 18	単 発	S6	40×25	腫瘍	無	B	無再発生存中
111	78	女	肝がん否定		単 発	S5	5 × 5		有	C	5 か月後腫瘍消失、他病死
112	87	男	RFA	11. 4. 7	単 発	S5	15×16	腫瘍	無	C	死亡詳細不明
113	67	男	肝がん否定							C	
114	77	女	RFA	11. 7. 1	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	C	再発、3 年 8 か月後死亡
115	92	女	TAE	11.10. 4	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	C	再発、2 年 5 か月後死亡
116	78	女	T/R	10. 3. 24	単 発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	9 か月後再発
117	76	男	切除	11. 7. 26	単 発	S7	80×75	腫瘍	無	C	無再発 H24. 6. 24死亡
118	75	男	RFA	11. 7. 1	単 発	S6	14×14	腫瘍	有	B	3 年 2 か月後再発
119	84	男	転移性肝癌	肺大細胞癌)						B	5 か月後死亡
120	75	男	RFA	13.10. 2	単 発	S7	15×14	腫瘍	有	B	1 年11か月後再発
121	75	男	切除	11. 6. 1					有	B	4 年 0 か月後他病死
122	70	女	PEI	12. 5. 9	単 発	S4	27×20	腫瘍	有	C	再発、8 か月後死亡
123	83	男	TAE	11. 8. 30	単 発	S6	35×30	腫瘍	無	C	2 年 7 か月後再発
124	75	女	RFA	8. 10. 1	単 発	S5	20×20	腫瘍	無	C	7 年 6 か月後再発
125	80	女	TAE	12.11.20	単 発	S1	40×40	腫瘍	無	C	再発、1 年11か月後死亡
126	86	男	T/R	13.11. 1	3 個	S146	13×13	腫瘍	無	C	無再発生存中
127	78	女	RFA	12. 3. 1	単 発	S4	8 × 9	腫瘍	有	C	1 年10か月後再発
128	82	女	RFA	12. 3. 14	単 発	S7	13×9	腫瘍	有	C	2 年10か月後死亡
129	87	女	TAE	12. 7. 6	2 個	S3	20×15	腫瘍	有	C	再発、2 年 5 か月後死亡
130	85	女	RFA	12. 2. 13	単 発	S5	10×17	腫瘍	有	C	再発、3 年 8 か月後死亡
131	76	男	TAE	12. 6. 20	> 4 個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	3 年 1 か月後死亡
132	81	女	TAE	10.11.10	単 発	S3	15×15	腫瘍	有	C	再発、2 年 6 か月後死亡
133	68	男	切除	13. 5. 20	単 発	S5	35×38	腫瘍	無	B	2 年 9 か月後死亡、死因不明
134	60	女	TAE	13. 8. 26	単 発	S3	18×15	腫瘍	有	B	1 年 9 か月後再発
135	70	女	RFA	14. 4. 1	単 発	S1	14×14	腫瘍	無	B	無再発生存中
136	83	女	T/R	13.10. 1	単 発	S7	26×26	腫瘍	無	C	2 年 5 か月後再発
137	88	男	TAE	13.10.31	> 4 個	S4278	34×34	腫瘍	有	C	1 年後再発 肺転移 左副腎転移 肝内再発
138	79	女	切除	13. 3. 1	単 発	S8	45×45	浸潤	無	C	1 年 3 か月後死亡
139	73	男	T/R	13. 7. 2	> 4 個	両葉	24×24		無	C	1 年 8 か月後死亡
140	80	女	T/P	13. 5. 1	単 発	S5	30×30	腫瘍	無	C	9 か月後再発
141	94	男		12. 8. 6						C	2 年 4 か月後死亡

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備 考
142	83	女	TAE	7	> 4 個	S157		浸潤	有	C	再発、7年後死亡
143	67	男	切除	14. 5. 27	単 発	S5	20×20	腫瘍	無	B	再発なし
144	66	女	T/R	14. 9. 10	単 発	S3	25×25	腫瘍	有	B	2年6か月後再発 TACE
145	73	女	T/R	14. 4. 16	2 個	S45	10×17		有	B	
146	77	女	TAE	12. 10. 17	2 個	S6	7×14	腫瘍	有	C	3年2か月後死亡
147	78	女	切除	15. 12. 17	単 発	S5	15×15	腫瘍		C	
148	89	女								B	死亡
149	85	男	TAE	15. 11. 13	単 発	S8	32×28	腫瘍	無	B	追跡不可
150	74	男	T/R	15. 9. 7	単 発	S4	24×22	腫瘍	無	B	無再発生存中
151	76	女	不詳		> 4	S5678	36×33	腫瘍	有	C	連絡取れず
152	76	男	切除	16. 3. 16	単 発	S8	23×20	腫瘍	有		無再発生存中
153	73	男	未治療 経過観察			S8		腫瘍	無	B	未治療 経過観察
154	49	男	経過観察		単 発		20×20	腫瘍	無	C	CTでは腫瘍なし
155	80	女	TAE・ RFA	16. 9. 23	単 発	S7	29×29	腫瘍	無	C	1年後再発 RFA施行
156	90	女	RFA	15. 5	2 個	S6S8	14×13 11×10	腫瘍	無	C	2年4か月後 他病死 脳 出血
157	81	男	RFA	16. 10. 5	単 発	S8	14×14	腫瘍	有	C	無再発生存中
158	79	女	RFA	16. 6. 15	単 発	S6	7×8	腫瘍	無	C	SVR後発癌
159	73	女	無治療		単 発	S8	10×10	腫瘍	有	C	Pugh 10にて無治療を希望 現在22mmに増大

(4) 平成7年度～平成28年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備 考
1	74	女	切除	95. 10. 24	単 発	S4	55×55	腫瘍	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96. 2. 20	単 発	S8	40×38	腫瘍	無	C	再発、2年1か月後死亡
3	63	女	切除	96. 3. 13	単 発	S7	30×23	腫瘍	有	C	再発、15年1か月後死亡
4	83	男	TAE	96. 7. 15	単 発	S4	12×12	腫瘍	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96. 8. 29	> 4 個	S5678	35×35	腫瘍	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96. 10. 25	> 4 個	S67	67×57	腫瘍	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96. 11. 1	2 個	S6	20×20	腫瘍	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96. 11. 22	単 発	S5	25×25	腫瘍	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97. 1. 7	単 発	S7	10×9	腫瘍	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97. 11. 17	> 4 個	S234	80×60	腫瘍	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97. 11. 17	3 個	S568	15×10	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97. 12. 4	単 発	S7/8	40×32	腫瘍	有	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98. 3. 3	単 発	S1	70×50	腫瘍	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98. 7. 31	単 発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99. 12. 15	> 4 個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00. 12. 23	単 発	S8	50×50	腫瘍	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01. 9. 19	単 発	S6	100×100	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04. 8. 2	2 個	S1, 5	25×25	腫瘍	有	C	再発、3年11か月後死亡
19	83	男	T/R/P	05. 10. 17	2 個	S1, 4	30×30	腫瘍	有	C	再発、3年11か月死亡
20	67	女	切除	06. 08. 09	単 発	S8	25×25			B	無再発生存中
21	79	男	T/R	06. 11.	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	C	3年後再発
22	72	男	切除	08. 4. 21	単 発	右葉	100×100			C	37日後死亡
23	60	男	TAE	08. 4.	> 4 個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	2年6か月後死亡
24	61	男	動注/ 放射	11. 10.	> 4 個	骨転移 あり				B	10か月後死亡
25	78	男	切除	12. 4. 19	単 発	S3	20×20	腫瘍	有	C	1年5か月後再発、3年 8か月後死亡
26	77	男	切除	13. 12. 17	単 発	S4	53×53	腫瘍	有	B	無再発生存中
27	72	男	TAE	13. 11	> 4 個	S4	44×39	腫瘍	有	B	1年5か月後死亡
28	74	女	TAE	15. 3. 26	2 個	S45	72×72	腫瘍	有	C	死亡
29	86	女	緩和治療		> 4 個	S24578	68×60		有	C	死亡
30	48	男	切除	16. 7. 13	単 発	S7	23×19	腫瘍	無	C	2016. 12動注 2017. 3ネ クサパール

7. 全国がん検診実績との比較

平成27年度〈※69歳以下の実績〉

(単位：人 %)

区 分		平成27年度実績 (鳥取県)	平成27年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	82,800	37,745,408	○受診者・がん発見＝(鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者＝「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く(以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	29,097	2,370,328	
	受診率 (%)	35.1	6.3	
	要精検者数 (人)	651	171,943	
	要精検率 (%)	8.14	7.25	
	精検受診者数(人)	526	138,315	
	精検受診率 (%)	80.8	80.4	
	がんの者 (人)	67	2,206	
	がん発見率 (%)	0.23	0.09	
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	66,672	30,794,291	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(4,199,634) + (3,914,800) - (1,027,541)}{(30,794,291)} = 23.0$ 鳥取 $\frac{(26,215) + (27,368) - (14,801)}{(66,672)} = 58.2$
	受診者数 (人)	27,368	3,914,800	
	受診率 (%)	41.0(58.2)	(23.0)	
	要精検者数 (人)	295	85,434	
	要精検率 (%)	1.08	2.18	
	精検受診者数(人)	258	63,504	
	精検受診率 (%)	87.5	74.3	
	がんの者 (人)	14	1,544	
	がん発見率 (%)	0.05	0.04	
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	82,800	37,728,674	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値(「喀痰のみ」は除く) ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数 (人)	29,060	4,195,477	
	受診率 (%)	35.1	11.1	
	要精検者数 (人)	898	63,272	
	要精検率 (%)	3.09	1.51	
	精検受診者数(人)	795	52,557	
	精検受診率 (%)	88.5	83.1	
	がんの者 (人)	18	1,527	
	がん発見率 (%)	0.06	0.04	

区 分		平成27年度実績 (鳥取県)	平成27年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	49,435	20,160,077	○「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,182,448) + (2,119,473) - (312,513)}{(20,160,077)} = 19.8$ 鳥取 $\frac{(14,812) + (16,191) - (1,368)}{(49,435)} = 59.9$
	受診者数 (人)	16,191	2,119,473	
	受診率 (%)	32.8(59.9)	(19.8)	
	要精検者数 (人)	1,405	169,377	
	要精検率 (%)	8.68	7.99	
	精検受診者数(人)	1,345	147,682	
	精検受診率 (%)	95.7	87.2	
	がんの者 (人)	64	7,024	
	がん発見率 (%)	0.40	0.33	
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	82,800	37,924,707	
	受診者数 (人)	33,912	5,246,461	
	受診率 (%)	41.0	13.8	
	要精検者数 (人)	2,585	342,309	
	要精検率 (%)	7.62	6.52	
	精検受診者数(人)	1,981	235,503	
	精検受診率 (%)	76.6	68.8	
	がんの者 (人)	80	9,941	
	がん発見率 (%)	0.24	0.19	

(出典) 鳥取県数値＝鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値＝地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

(注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。

2 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定

精検受診者＝「要精検者－(未受診者＋精検結果未把握の者)」

3 平成25年度から全国数値は、69才以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69才以下の実績で比較している。

4 平成27年度から「地域保健・健康増進事業報告」対象者数は、各がん検診の対象年齢の「全住民」を報告することとなった。

厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
プロセス指標と本県実績との比較

平成28年度実績

		胃 が ん				
		国指標	鳥取県実績			
			年齢上限なし	～69才まで	備 考	
がん検診受診率	目標値	50%達成	26.8%		36.8%	
要精検率[X線のみ]	許容値	11.0%以下	8.6%	○	7.6%	○
精検受診率[X線のみ]	許容値	70%以上	86.5%	○	84.2%	○
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.13%	○	0.22%	○
陽性反応的中度[X線のみ]	許容値	1.0%以上	1.5%	○	1.3%	○

		肺 が ん				
		国指標	鳥取県実績			
			年齢上限なし	～69才まで	備 考	
がん検診受診率	目標値	50%達成	28.9%		36.8%	
要精検率	許容値	3.0%以下	3.4%		2.7%	○
精検受診率	許容値	70%以上	90.1%	◎	90.2%	◎
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.07%	○	0.04%	○
陽性反応的中度	許容値	1.3%以上	2.0%	○	1.4%	○

		大 腸 が ん				
		国指標	鳥取県実績			
			年齢上限なし	～69才まで	備 考	
がん検診受診率	目標値	50%達成	30.6%		41.5%	
要精検率	許容値	7.0%以下	9.2%		7.6%	
精検受診率	許容値	70%以上	77.1%	○	75.7%	○
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.31%	○	0.22%	○
陽性反応的中度	許容値	1.9%以上	3.3%	○	2.8%	○

		子 宮 が ん				
		国指標	鳥取県実績			
			年齢上限なし	～69才まで	備 考	
がん検診受診率	目標値	50%達成	24.2%		44.6%	
要精検率	許容値	1.4%以下	0.71%	○	0.82%	○
精検受診率	許容値	70%以上	83.3%	○	82.9%	○
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.03%		0.03%	
陽性反応的中度	許容値	4.0%以上	4.1%	○	3.7%	

		乳 が ん				
		国指標	鳥取県実績			
			年齢上限なし	～69才まで	備 考	
がん検診受診率	目標値	50%達成	11.5%		22.0%	
要精検率	許容値	11.0%以下	7.27%	○	7.96%	○
精検受診率	許容値	80%以上	93.2%	◎	92.6%	◎
	目標値	90%以上				
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.37%	○	0.34%	○
陽性反応的中度	許容値	2.5%以上	5.10%	○	4.23%	○

※子宮がん、乳がんの受診率は単年度計算

Ⅲ．平成29年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成29年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業	名	開	催	日	時	場	所	出席者	内	容
胃	がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成30年2月24日(土)	午後4時～午後6時			米子市 鳥取県西部医師会館		144名	演題：「H. pylori陰性時代の上消化管診療」 講師：鳥取大学医学部統合内科医学講座機能病態内科学 磯本 一先生 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 中部—1例：野島病院 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 相見正史先生 山本敏雄先生 八島一夫先生	
子宮	がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会	平成29年5月14日(日)	午後3時30分～午後5時10分			米子市 国際ファーマリープラザ		56名	演題：「子宮頸部液状検体細胞診と多施設共同研究」 講師：東邦大学医療センター大橋病院婦人科 教授 久布白兼行先生 症例提示4例	
			平成30年2月18日(日)	午後4時～午後5時40分			倉吉市 鳥取県保健事業団中部健康管理センター		50名	演題：「子宮頸がん検診アップデパート」 講師：鳥取大学医学部附属病院女性診療科群 講師 大石徹郎先生 症例提示5例	
肺	がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成30年2月17日(土)	午後4時～午後6時			倉吉市 鳥取県保健事業団中部健康管理センター		74名	演題：「胸部CTでみつかると小さな病変の診断とフォローアップ」 講師：国立がん研究センター東病院放射線診断科 科長 楠本昌彦先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：鳥大医 胸部外科 中崎博文先生 兒玉 渉先生 門脇太一先生	
乳	がん	乳がん検診従事者講習会及び第25回鳥取県乳がん症例検討会	平成29年9月9日(土)	午後4時～午後6時			倉吉市 鳥取県保健事業団中部健康管理センター		38名	演題：「乳がん検診における画像検査の位置づけ」 講師：水島協同病院外科医局長兼検診担当科長 石部洋一先生 症例検討 東部—2例：鳥取市立病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：山陰労災病院 小寺正人先生 大田里香子先生 山根祥晃先生	
大腸	がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成29年10月21日(土)	午後4時～午後6時			鳥取市 鳥取県健康会館		66名	演題：「大腸がん検診の諸問題と検診で発見される病変」 講師：がん研有明病院下部消化管内科顧問 五十嵐正広先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：山陰労災病院 濱田晋太郎先生 佐藤 徹先生 香田正晴先生	
肝臓	がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成30年3月3日(土)	午後4時～午後5時45分			倉吉市 鳥取県保健事業団中部健康管理センター		76名	演題：「鳥取県中部地区のC型肝炎治療の現状について～IFNフリー時代の肝がん診療を含めて～」 講師：鳥取県立厚生病院消化器内科医長 永原天和先生 症例検討 東部—11例：鳥取赤十字病院 西部—1例：山陰労災病院 満田朱理先生 西向栄治先生	

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成30年2月24日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 相 見 正 史

70歳代、男性

既往歴：胃癌EMR（2003）、HP除菌後（2003）、狭心症（2014）

経 過：2003年に早期胃癌に対しEMR施行。以後、毎年ドックにて上部消化管内視鏡検査を受けていた。2017年11月の上部消化管内視鏡にて前庭部小彎に不整な発赤隆起を認め、生検でtub1の診断であった。精査の結果、粘膜内癌で明らかな転移所見なく、ESDを行った。病理結果はAdenocarcinoma、L、Less、Ⅱc＋Ⅱa、19×18mm、tub1、m、UL-、ly-、v-、LM0、VM0、pT1a（N0）、Stage I Aであった。

考 察：2016年の内視鏡写真を見返すと、すでに早期胃癌として指摘できた病変であった。人材不足などあり、当時はシングルチェックによる検査となっていた。幸い内視鏡治療で根治できたものの、ダブルチェックや内視鏡カンファレンスによる振り返りが重要であることを再認識させられた。（2017年度よりダブルチェックの体制を整えた）

〔中部症例〕

提出者：野島病院 山 本 敏 雄

40歳代、女性

既往歴なし

検診歴：平成24年10月胃がん検診（車検診）で異常なし。

平成27年6月胃がん検診（車検診）で体部後壁レリーフ異常（④）を指摘された。

経 過：平成27年8月近医で胃内視鏡検査を受け、検診指摘部にⅡc病変認め生検で低分化腺癌と診断された。その後当院へ紹介来院、当院内視鏡ではⅡcSMmassiveと診断した。CTでは明らかな肝転移、リンパ節転移等の所見はなかった。同月入院、腹腔鏡下幽門側胃切除術を行った。

術後所見ではⅡc＋Ⅲ、T1（SM）、N0、P0、H0でStage I A、D1とした。しかし組織検査結果では：Ⅱc、Size：（20×20mm）、sm以深浸潤35×20mm、Type：Por2、Depth：pT2（MP）、INFc、sci、ly1、v0、n2（5/14内No.3・No.7【5/7】）、Stage II Bとなった。術後TS1を1年間服用し経過観察中。

考 察：平成24年の胃がん検診では病変の指摘はできない。3年後の今回胃がん検診でははっきりと病変を指摘できるが、この間検診を受けていればもう少し早く発見できたと思われる。また今回術前の内視鏡ではSM浸潤を指摘したが、病変はさらに深部へ浸潤し、リンパ節転移もあった。毎年の検診または内視鏡による検診の必要性があると考えられる。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 八 島 一 夫

70歳代、女性

既往歴：胃潰瘍、高血圧

検診歴：平成26年10月、平成27年9月車検診では異常を指摘されなかった。

平成28年9月車検診で「胃体部襞集中」を指摘される。

経 過：上記精査目的にて前医にて上部消化管内視鏡検査施行され、胃体部大彎に不整潰瘍を伴うひだ集中を認め、生検にてadenocarcinomaと診断された。精査加療目的にて当科紹介となった。内視鏡像および超音波内視鏡にてmp浸潤と判断、CTでは肝S8に15mm大の肝転移を認めた（肝生検で診断）。化学療法2コースにて転移巣縮小し、幽門側胃切除および肝転移巣切除を施行した。

病 理：M、Type0-IIc、2.8×2.0cm、tub1、pT2（MP）、ly2、v1、N0、M1、StageIV

考 察：平成26年、平成27年の胃X線画像を遡及的に検討したが、病変の指摘は困難であった。逐年胃X線検診を受診されていたが、肝転移を伴う進行胃癌として発見され、胃X線検診の限界を感じた症例であった。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成29年5月14日（日） 午後4時～午後6時

場 所 国際ファミリープラザ

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科大石徹郎講師の進行により、集団検診2例、施設検診2例の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科工藤明子助教により下記の4症例が提示された。

症例1は平成27年度検診でother malignancy、肉腫が推定され、二次検診にてSCC、組織診断が扁平上皮癌であった。症例2は平成27年度検診でASC-US、二次検診にてSCC、組織診断が扁平上皮癌であった。症例3は32歳、平成27年度検診でHSIL、円錐切除標本にて子宮頸癌IB1期、扁平上皮癌であった。症例4は閉経前後の不正出血があり、平成26年度の検診で内膜細胞診が陰性、27年度の検診で内膜細胞診疑陽性であり、子宮体癌IB期、類内膜癌G2の診断となった。

子宮頸癌の症例は初回検診ないし数年未受診後の検診であり、未受診者の受診勧奨の重要性があらためて認識された。また検診結果がASC-USであっても、浸潤癌が潜んでいる場合もあるため、注意が必要である。閉経前後の不正出血がある場合には異型増殖症や子宮体癌を念頭に置き、注意深く鏡検する必要がある。

日 時 平成30年2月18日（日） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県保健事業団中部健康管理センター

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科大石徹郎講師の進行により、施設検診5例の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科工藤明子助教より下記の5症例が提示された。

症例1は平成27年度検診で扁平上皮系の異常（ASC-US）、HPV18型陽性を指摘され、精査で異常を認めず、経過観察となり、28年度検診で腺異型（AGC）を指摘されたもの、症例3は28年度検診で腺異型（AGC-NOS）、HPV18型陽性を指摘されたもので、いずれも最終病理組織診断は上皮内腺癌であった（症例3はCIN3が併存）。症例2、4、5はいずれも初回検診であった。症例2は28年度検診でASC-H、HPV16・18型陽性であり、浸潤子宮頸癌の診断に至った。症例4は28年度検診でSCC、HPV16型陽性を指摘され、浸潤子宮頸癌と診断された。症例5は28年度検診でASC-US、HPV16型陽性を指摘され、併せて子宮頸部腫瘍を認めたため、再検したところNILM、二次検診にてSCC、組織診断が扁平上皮癌であった。

腺系の異常は扁平上皮系の異常に比して細胞診やコルポ診による診断が難しく、比較的若年者に多く認められるため、注意が必要である。浸潤癌の症例はいずれも初回受診であり、未受診者の受診勧奨の重要性があらためて認識された。また検診結果がASC-USであっても、浸潤癌が潜んでいる場合もあるため、注意が必要である。

平成28年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

(H29. 5. 14)

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TNM分類	
症例1	36歳	北栄町	H21. 12. 11 H27. 7. 12	鳥取県保健事業団	class II Other Malig (sarcoma疑)	鳥取大学医学部 附属病院	扁平上皮癌	I B II期	PT(1a)N(0)M(0)	鳥取大学医学部 女性診療科
症例2	67歳	大山町	H21. 9. 15 H27. 11. 8	鳥取県保健事業団	class II ASC-US	博愛病院	非角化型扁平 上皮癌	III B期	T3bN0M0	鳥取大学医学部 女性診療科
症例3	32歳	米子市	H27. 9. 12	母と子の長田産科 婦人科クリニック	HSIL	博愛病院	扁平上皮癌	I B I期	PT(1b1)N(0)M(0)	鳥取大学医学部 女性診療科
症例4	57歳	南部町	H23. 1. 31 H26. 9. 29 H27. 7. 13	西伯病院	陰性 陰性 疑陽性	博愛病院	類内膜腺癌 G1	I B期	PT(1b)N(0)M(0)	鳥取大学医学部 女性診療科

平成29年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

(H30. 2. 18)

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TNM分類	
症例1	32歳	鳥取市	H27. 8. 4	鳥取産院	ASC-US	鳥取産院	HPV陽性 経過観察			鳥取県立中央病院
			H28. 8. 31		AGC	鳥取産院	AIS			
症例2	29歳	米子市	H28. 7. 2	中曽産科婦人科医院	ASC-H	鳥取大学医学部 女性診療科	SCC	I B1期	T1b1N0M0, pT1b1N0M0	鳥取大学医学部 女性診療科
症例3	32歳	米子市	H26. 4. 30	ミオ・ファティリティ・クリニック	NILM(直接塗抹法)					
			H27. 7. 28	母と子の長田産科婦人科クリニック	NILM					
			H28. 9. 3	ミオ・ファティリティ・クリニック	AGC	鳥取大学医学部 女性診療科	AIS		TisN0M0, pTisNxM0	鳥取大学医学部 女性診療科
症例4	36歳	米子市	H28. 9. 21	中曽産科婦人科医院	SCC	鳥取大学医学部 女性診療科	SCC	II B期	T2bN1M0	鳥取大学医学部 女性診療科
症例5	45歳	米子市	H28. 10. 1	母と子の長田産科婦人科クリニック	ASC-US	鳥取大学医学部 女性診療科	SCC	II A2期	T2a2N0M0, ypT2bN0M0	鳥取大学医学部 女性診療科

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成30年2月17日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県保健事業団中部健康管理センター

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 中 崎 博 文

症 例：64歳、女性

主 訴：特になし

既往歴：右肺腺癌術後、気管支喘息

生活歴：喫煙なし、飲酒なし

現病歴：10年前に右上葉肺腺癌（stage I A）のため右肺上葉切除術を施行し、その後2年間UFTを内服、5年前までCTで術後フォローを行っていた。特に自覚症状はなかったが、人間ドックで左肺門部結節影を指摘されたため、当院受診となった。

臨床経過：胸部CTにて左肺下葉に22mm大のsolid tumorを認め、精査の結果、肺腺癌cT1cN0M0 stage I A3の診断となった。胸腔鏡下左下葉切除術が行われたが、術後検体で左肺門部リンパ節転移と同一肺葉内の不連続な副腫瘍結節を認め、術後病期はT3N1M0 stage III Aであった。

考 察：過去の画像を後方的に検討すると、5年前のCTで同部位に5mm程度の小結節を認めた。2年前、1年前の人間ドックのレントゲンでは心陰影・肺動脈の影に隠れていることもあり指摘は困難であった。微小結節の場合、経過を追うべきか判断に迷う場合もあるが、慎重な対応が必要であると考えられた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 兒 玉 渉

症 例：50歳代、男性

主 訴：胸部異常陰影

既往歴：特記事項無し 常用薬：なし

生活歴：喫煙 20本×34年、飲酒ビール1200ml/日×30年（週6回）

現病歴：毎年肺がん検診を受けており、平成29年7月の肺がん検診胸部X線E1判定を指摘され、当院を受診。

臨床経過：胸部X線で左下肺野に1.5cm大の結節影を認めた。昨年までの胸部X線では認めなかった。CT所見は重喫煙者であったが、重度な気腫肺は認めなかった。左下葉S8に1.7cmの充実性結節を認めた。気管支鏡では組織が採取できないと考え、CTガイド下生検を行い、小細胞癌の診断となった。腫瘍マーカーは、CEAのみ上昇（5.6ng/ml）を認めた。全身精査で、c-T1bN0M0 c-Stage I A2の診断で手術を行った。手術はVATS左下葉切除術＋ND2a-2を行った。手術時間は3時間26分、出血量70g。術後経過は良好で12PODに退院した。最終病理結果は、病変径・充実径；1.9×1.6cm、p-T1bN0M0、pI0d0e0pm0（pI0）、p-Stage I A2、胸腔洗浄細胞診は陰性だった。術後補助化学療法CDDP＋VP-16を4クール行った。

考 察：第8版肺癌取り扱い規約は肺小細胞癌と肺大細胞神経内分泌癌（以下LCNEC）をあわせて肺神経内分泌癌とするよう改変となり、2008年～2017年において当院で肺葉切除以上の手

術を行った肺神経内分泌癌10例の臨床病理学的特徴と予後を検討した。肺神経内分泌癌の特にⅠ期に対し肺葉切除術＋術後補助化学療法（プラチナ＋エトポシド）を4コース以上行うことで無再発、あるいは5年以上の長期生存が期待できる。Ⅰ期に対する肺葉切除であっても、肺神経内分泌癌は、手術単独療法では、極めて予後不良となる。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 門 永 太 一

症 例：60歳代、男性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：毎年検診受診され、異常を指摘されていなかった。平成29年の検診で右上肺野の異常を指摘され、当院受診された。

既往歴：高脂血症、肝血管腫

喫煙歴：10本/日×40年、3年前に禁煙

常用薬：アトルバスタチン

臨床経過：胸部X線で右上肺野縦隔側にシルエットサイン陰性の7cm大の腫瘤影を認めた。CTで右上葉S2に60×52×64mmの類円形腫瘤影を認めた。肺門・縦隔リンパ節腫大は認めなかった。FDG-PETで腫瘤に早期相9.75および後期相13.61の集積を認めた。気管支鏡検査では悪性所見出ず、CTガイド下生検で小細胞癌の診断となった。リンパ節転移、遠隔転移を認めず、手術適応と判断した。初診時から手術までの1ヶ月間に腫瘤は16mm増大し、右肺小細胞癌cT4N0M0 stageⅢAと診断し、開胸右上葉切除＋S6部分切除＋ND2a-2を施行した。術後病理はSmall cell carcinoma、pT4 (9.0×8.3×5.8cm、inv. 9.0cm)、葉間p13、G4、Ly1、V1、pm0、R0、pN0 (0/16)、pstageⅢAであった。現在、術後補助化学療法中である。

考 察：本症例は後方視的に確認すると平成27年の検診胸部X線から第1肋骨・肋軟骨接合部に淡い陰影を認め、平成28年の胸部X線では増大傾向となっていた。胸部X線読影のピットフォールとなる部位であり、比較読影が重要な症例であったと考えられた。また、小細胞癌は肺癌検診で発見率が低く、発見時は進行例の場合が多いという特徴がある。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成29年9月9日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県保健事業団中部健康管理センター

〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 小 寺 正 人

「1 cm以下で発見された乳癌」

症例1：60才、女性、閉経後

主 訴：検診発見（カテゴリー4/カテゴリー1、右U領域の腫瘤影）

経 過：ほぼここ5年間は1-2年毎に検診を受けていたが異常を指摘されず。本年の検診でマンモグラフィーで右U領域の腫瘤影の増大を指摘された。後方視的には平成24年から腫瘤影を認め、継続的に増大傾向を認めていたが、直近の比較においては明らかな増大は今回が初めてであった。針生検で乳癌が確定。乳腺部分切除とセンチネルリンパ節生検を施行。術後病理診断は「浸潤性乳管癌、乳頭腺管癌、約9mm×7mm 核グレード1 n(-) ER：90% PgR：70% Ki67：3% HER2陰性 pT1bpN0病期I」であった。比較読影において緩徐な発育をする乳癌を逆に見落とすことがある。石灰化の出現・境界部の変化などを見落とさないよう注意が必要である。

症例2：42才、女性、閉経前

主 訴：検診（ドック）発見（カテゴリー1/カテゴリー3、左IOのFAD、視触診では異常なし）

経 過：マンモグラフィーのCCにおいて、左IOの乳腺後隙に、非常に小さな腫瘤影を認めた。

高濃度乳腺ではあったが、もともと乳腺密度が比較的低い乳腺後隙に存在していたため、鋸歯状の辺縁もわずかだが観察可能であった。

乳腺エコー・乳腺MRIでも、左の12時方向に長径8mmの腫瘤影を認め、針生検で乳癌が確定。乳腺部分切除とセンチネルリンパ節生検を施行。

術後病理診断は「浸潤性乳管癌、乳頭腺管癌、約10×7mm、核グレード1 n(-) ER：90% PgR：90% Ki67：10% HER2陰性 pT1bpN0病期I」であった。

マンモグラフィーで高濃度乳腺でも、乳腺後隙・内側領域（I領域）・腋窩寄り（U領域）などでは乳腺密度が比較的低く、注意すれば見つけれられる乳癌がある。高濃度乳腺だからとあきらめないのが肝要である。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 大 田 里香子

「石灰化フォロー中に判明したDCISの1例」

鳥取県立厚生病院 胸部外科1)、血管外科2)

大田里香子1)、吹野俊介1)、松岡佑樹1)、田中裕子1)、兒玉 渉1)、西村謙吾2)、浜崎尚文2)

症 例：60歳代、女性。2013年乳がん検診MGで石灰化カテゴリー3のため要精査となり、当科初診。既往歴、家族歴に特記事項なし。初診時、MG左MOに微小円形石灰化の集簇：カテゴリー3、VAB施行し乳腺症の診断で経過観察となった。3ヶ月後、9ヶ月後、1年3ヶ月後著変なし。初診から2年5ヶ月後、石灰化のわずかな増加あり、CNBで悪性所見なく経過観察とした。初診から3年5ヶ月後、石灰化が区域性に分布し、CNBで非浸潤性乳管癌を認め、左上外側部乳癌cTisN0M0 stage0の診断で左乳房切除+センチネルリンパ

節生検を施行した。術後診断：左上外側部乳癌pTisN0M0 stage0。術後補助療法としてTAM内服し、経過良好である。

初診時の石灰化集簇は初診から約2年半でわずかな変化を認めたのみであったが、その後上外側領域で大きな変化を認めた。石灰化病変がある場合には、局所にとらわれずに乳腺全体に注意を向け、慎重に根気よくフォローすることが重要であることを改めて認識した。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 山 根 祥 晃

「検診要精査にてフォロー中に発見し得た乳癌の一例」

症 例：50歳代、女性。検診マンモグラフィー（以下、MMG）で、MMG初回、左C-3（FAD）にて精査目的にて来院。当院外来にて行った超音波検査（以下、エコー）で、左CD領域8.5×4.3mm径の扁平な腫瘤を指摘。エラストグラフィースコア（以下、ES）2であった。1年時USで7.9×5.3mm径、2年時に16×5.2mm径、ES2、穿刺吸引細胞診でクラスⅢ、針生検施行したが陰性（悪性細胞検出し得ず）にて経過観察。3年時28.5×11mm、ES3で穿刺吸引細胞診・針生検で悪性、手術（左乳房温存療法）を施行した。病理組織診断にて、髄様癌の特徴を伴う充実腺管癌（G3）の像、非定型髄様癌atypical medullary carcinomaに相当、pT2、N1、pStageⅡB（T2N1）ER陽性、PgR陰性、HER2（3+）、サブタイプはルミナールBにて、術後化学療法および分子標的治療を行った。初診時は小さな扁平型腫瘤で経過中2年時よりエコー・MMGで腫瘤影が明瞭となり診断し得た。MMG要精密例において、以降の注意深いフォローが重要と思われる。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成29年10月21日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 濱 田 晋太郎

症 例：68歳、男性

主 訴：便潜血陽性

現病歴：健診で便潜血陽性を指摘されて当科受診となった。

既往歴：特記事項なし

常用薬：アムバロ配合錠サンド

生活歴：飲酒、焼酎を3合 喫煙、なし

家族歴：弟、大腸癌

内視鏡所見：

上行結腸に22mm大のIs腫瘤を認めた。NBI拡大内視鏡ではJNET Type2B相当のVessel pattern及びSurface patternを認め、早期大腸癌と考えEMRを施行した。直腸Rsに全周の3分の1を占めるBorrmann 1型腫瘤を認め、3箇所より生検を施行した。病理組織診にて上行結腸EMR後病変より脈管浸潤を認めたこと、直腸Rs病変よりAdenocarcinomaを認めたことから、当院外科にて腹腔鏡補助下直腸低位前方切除術及び結腸右半切除術が施行された。術後は経過観察の方針である。

病理結果：上行結腸：〔EMR標本〕

Adenocarcinoma, tub2, pT1 (SM, head invasion) ly1 (D2-40)、v0 (VB)、pHM0、pVM0
〔手術標本〕EMR後癒痕のみ、リンパ節転移なし。

直腸Rs：Adenocarcinoma, tub1>tub2, pT4a/SE, INFb, ly1, v1, PN1a, pPM0, pDM0、pRM0、pR0、pCur A

検 討：大腸癌が多発する頻度は同時性、異時性を問わず2-13%（金沢暁太郎：外科1986）と報告されており、他の消化器癌と比べて高率である。下部消化管内視鏡検査においては病変が1ヶ所のみとは限らないことを念頭におく必要がある。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 佐 藤 徹

症 例：70歳代、女性

主 訴：下腹部痛

既往歴：特記すべきものなし

現病歴：下腹部痛を主訴に前医受診。便潜血陽性であり当院紹介受診。

検査・治療経過：下部消化管内視鏡検査（CS）を勧めたが、希望なく、大腸CT検査施行した。上行結腸に平坦な隆起性病変を認めた。

CSを了解され施行した。上行結腸に浅い陥凹をもった平坦な隆起性病変を認めた。

大腸CT検査で指摘された病変と考えた。NBI観察などでSM深部浸潤の可能性を考えたが、局注も施行した。病変は局注にても挙上しなかった。

生検結果はAdenocarcinoma, tub1であった。

腹腔鏡下右側結腸切除術施行した。病変の大きさは15×10mm。

病理所見：Adenocarcinoma、tub1、SM (500 μm)、int、INFb、ly0、v0、簇出grade1、pm (-)、dm (-)、rm (-)、N0

検 討：大腸CT検査はCS拒否症例において有用な検査と考えられた。

〔西部症例〕

提出者：米子医療センター 香 田 正 晴

症 例：76歳、男性

主 訴：特になし

既往歴：8年前に他医院にて大腸ポリープ切除

生活歴：30年前より禁煙（以前は40本/日） 飲酒：ワイン1本/2日

現病歴：昨年度の大腸がん検診では便潜血陰性であったが、本年度の検診で便潜血陽性（+/+）を指摘され精査目的に当院受診。

大腸内視鏡所見：下行結腸に1/3周を占拠する2型tumorを認め、生検組織結果は、tub2であった。

腹部造影CT検査：下行結腸に明らかな壁肥厚は認めず、腹部大動脈領域にも腫大LNは認めなかったが、肝S6に2cm大の肝転移を疑うmass formationを認めた。

EOB-MRI検査：CTにて認められた肝S6の病変以外に肝S8の横隔膜下に1cm弱の転移を疑うmass formationを認めた。

経 過：肝転移を有した下行結腸癌として、原発巣および肝転移巣を外科的に切除し化学療法を導入する方針となる。

大腸癌切除標本：15×10mm大の2型腫瘤を認め、断面では腫瘍は固有筋層に連続性に浸潤を認めた。

大腸病理組織学的結果：腫瘍は中心部潰瘍を作り、潰瘍底には比較的大きな胞巣を作って増殖している。腫瘍腺管は分岐融合して複雑な腺管群になっており、静脈侵襲は明瞭。腫瘍は連続性に固有筋層に浸潤し、漿膜下に非連続性に結節を形成している。

EGFR陽性、RAS遺伝子変異なし。

肝転移切除標本・組織：肝S6：31×21mm (72g)、S8：7×5mm (11g)

線維性皮膜を有した結節を作り、中心壊死を来している。

病理診断：Moderately diff adenocarcinoma、D、Type2、Size；15×10mm、Int、Tub2 ss、pm0、dm0、INFa、ly1、v2、M1 (H1)、pT3、pN1、pStageIV、Lymph nodes: Metastasis #231 (1/6)、232 (0/3)、241 (0/4)、242 (0/3)、253 (0)

Liver：Metastasis (H1, GradeA) S6；31×21mm、S8；7×5mm

検 討：本症例は前年度も大腸がん検診を受けている通年検査の症例であるが、やはり前年度陰性でも継続して検査を行っていくことが改めて重要であると示唆される症例であると思われる。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成30年3月3日（土） 午後4時～午後5時45分

場 所 鳥取県保健事業団中部健康管理センター

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 満 田 朱 理

「DAAs治療後のHCC初発症例」

日本肝臓学会のC型肝炎診療ガイドラインにおいては、「IFNフリーDAA治療によってHCVが排除された場合、IFN治療と同程度の肝発癌抑制効果が得られるとする報告が増えつつある」、「抗ウイルス治療によってHCVが排除された後でも、長期予後改善のため肝発癌に対するフォローアップを行う必要がある。ことに高齢かつ線維化が進行した高発癌リスク群では肝発癌に対する厳重な注意が必要である」と記載されている。

当院では今までに199人の慢性C型肝炎患者にDAAs治療を導入した。その中でDAAs治療後にHCCを初めて発症した初発症例は11例であった。そのすべてはSVRが得られている症例である。下記にそれらをまとめて表とした。

表1

症例	性	年齢	DAAs治療後から HCC治療までの期間	飲酒歴	糖尿病	IFN歴	DAAの種類	肝硬変
1	男	72	12か月	有	有	無	DCA/ASV	有
2	男	73	3カ月	有	無	有	DCA/ASV	有
3	女	76	6か月	無	有	無	DCA/ASV	有
4	男	80	7か月	無	無	無	LDV/SOF	有
5	男	59	0ヶ月	有	有	有	LDV/SOF	無
6	女	80	3か月	無	無	無	LDV/SOF	無
7	女	67	19か月	無	無	有	LDV/SOF	有
8	女	70	11か月	無	無	有	LDV/SOF	無
9	女	81	15カ月	無	無	無	SOF/RBV	有
10	女	68	6カ月	有	無	無	OBT/PTV/r	無
11	男	71	1ヶ月	無	有	有	EBR/GZR	有

表2

症例	診断時 ALT	AFP値			PIVKA II		HCC 最大径	HCC 個数	HCC 治療法	HCC 再発
		DAAs前	DAAs後	診断時	DAAs後	診断時				
1	32	10	7	7	14	98	15	2	TACE	有
2	28	32	6	10	17	31	17	1	TACE	有
3	17	10	5	5	16	22	12	1	RFA	無
4	17	105	19	7	27	19	14	1	RFA	無
5	46	28	10	10	82	82	20	1	肝切除	無
6	11	22	17	19	31	35	11	1	RFA	有
7	15	47	12	5	10	17	17	1	RFA	無
8	60	10	7	15	19	55	12	1	肝切除	無
9	42	13	10	9	48	42	9	1	RFA	無
10	10	28	23	41	23	82	11	1	TACE/RFA	無
11	5	18	28	39	20	28	16	1	RFA	無

当院でのSVR後のHCC初発例ではほとんどが高齢であり、男性5例、女性6例とやや女性に多かった。AFP値はDAAs治療前と比べ低下しているものが多く、HCC再発時にさらに低下している例もあった。よって、AFPの推移だけ見ても、HCC発生を見逃す可能性があり、画像によるサーベイランスが重要である。それに対しPIVKA IIはHCC発生時に上昇しているものもあり、定期的測定は有用であると考え。また、殆どが小肝細胞癌、単発で見つかり、治癒が望めるHCCであり、早期発見早期治療ができたと言える。アルコール多飲、糖尿病の罹患の症例は多くはなかった。また、11例中7例とDAAs治療前に肝硬変に至っているものが過半数を占めており、やはり線維化進行例ではDAAs治療後もより厳重なフォローが必要であると考えられた。

慢性C型肝炎はDAAs治療により100%に近い治癒率が得られる時代となったが、肝発がんを完全に抑制できるものではなく、継続して定期フォローアップを欠かさないことが、長期予後改善につながると考える。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

「肝機能正常の大酒家、糖尿病患者に発症した肝臓癌の1例」

山陰労災病院 消化器内科 ○西向荣治、岸本幸廣、前田直人、星野由樹、川田壮一郎、角田宏明、
向山智之、謝花典子、川崎寛中
外科 山根成之、大井健太郎、野坂仁愛
放射線科 井隼孝司、山本修一、○同病理 庄盛浩平

近年、高齢者で、非B非C型の初発肝細胞癌の割合が増えている。

たとえ肝炎ウイルスが陰性でも、飲酒歴、喫煙歴、糖尿病などを有する高齢者では、年に少なくとも1回の超音波検査+腫瘍マーカー採血が必要と考え報告する。

症 例：75歳、男性

主 訴：腹膜刺激症状を伴った腹痛

既往歴：63才より糖尿病で通院。輸血歴なし。喫煙歴60本/日×55年、飲酒歴、焼酎1合/日（以前は大酒家、ウイスキー1本/2日）。

現病歴：当院糖尿病外来に通院中。201X/11月上旬腹部の持続性の絞扼痛が出現、次第に増強し歩行時にも響くようになった。その後近医を受診、腹部の圧痛と反跳痛を認めた。エコーで異常所見（少量の腹水、肝に接する5～6cm大のmass?）を指摘され、紹介。

家族歴：父（胃癌）、肝疾患なし

現 症：168cm、70kg、BP127/76、P93/分、36.1℃、意識清明、貧血、黄疸なし、腹部全体の軽度圧痛と反跳痛を認めた。

末 梢 血：WBC8200、HB13.5、Plt22.2万、CRP0.6、PT104%、HbA1c5.4%、生 化 学AST30、ALT18、rGTP97、TBil0.7、Alb4.2、ICG-R15：12.2%、腫瘍マーカーAFP5、PIVKA-II2400、CEA1.8、CA19-9 13、HBs抗原陰性、c抗体陰性、HCV抗体陰性。

腹部US：肝左葉に接する径8.5cm大のモザイク状腫瘍、正常肝、腹水 脾腫なし

腹部超音波診断：HCCと推測

上部消化管内視鏡：萎縮性胃炎。食道静脈瘤なし。

造影CTでは、肝左葉外側区域、肝外突出型HCCの破裂（NBNC、Φ8.4cm、単発）と診断された。来院時すでに破裂が疑われ可及的早期に切除が望ましく、また急変時あるいは早期の手術対応が困難な場合TAEの適応あると考えられた。

術前診断は、肝細胞がん破裂。待機的な外科的治療、肝外側区域切除術が行われた。

術後の診断は、肝細胞がん破裂、S2-3、8.5×8.3cm、単発、T2（S3破裂）N0M0、stage II。

病理診断：組織型：肝細胞がん（中>高分化型）

分化度：Moderate diff.(70%)/Well diff.(30%) 組織構造：trabecular/pseudoglandular非癌部F1、門脈域の線維性拡大は軽度であった。病期pStage III（T3N0）

考 察：本例は、75歳男性、肝機能はほぼ正常で、内服コントロール良好の糖尿病例、多量の飲酒歴、喫煙歴を有する、非B非C型の肝臓癌の初発例である。

近年、初発の肝細胞癌における原因に、非B非C型の割合の増加傾向が見られる。

鳥取県の肝細胞癌サーベイランスの実態の2012年度では、初発HCC161例中、非B非C型は72例（44.7%）。2015年度の当院の初発HCCでは、非B非C型は、20例（53%）に。さらに2017年度の当院の初発HCC30例中、非B非C型は、17例（56.6%）とその割合は増加傾向にある。しかし非B非C型での肝癌の発生が想定されていないのでサーベイランスチェックができないのが現状である。

結 論：たとえ肝炎ウイルスが陰性であっても、飲酒歴、喫煙歴、糖尿病などを有する高齢者には、年に1回以上の超音波検査や腫瘍マーカー採血を行うことが望ましいと考えた。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 が ん	15	27	354	6	21	126	6	17	183	27	65	663
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 が ん	5	5	103	12	74	101	9	52	93	26	131	297
乳 が ん	2	23	41	1	4	19	1	9	22	4	36	82
大腸がん	10	17	263	5	6	79	4	5	111	19	28	453
肝臓がん	4	5	101	0	0	0	3	12	57	7	17	158
合 計	36回			24回			23回			83回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	H30. 4. 1～H31. 3. 31	H30年度中
肺がん一次検診医療機関	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中
乳がん検診一次検査（乳房X線撮影）医療機関	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H30. 4. 1～H33. 3. 31	H32年度中	H30. 4. 1～H33. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H30. 4. 1～H33. 3. 31	H32年度中	H30. 4. 1～H33. 3. 31
肺がん検診精密検査	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中	H29. 4. 1～H32. 3. 31
乳がん検診精密検査	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中	H29. 4. 1～H32. 3. 31
大腸がん検診精密検査	H29. 4. 1～H32. 3. 31	H31年度中	H29. 4. 1～H32. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H28. 4. 1～H31. 3. 31	H30年度中	H28. 4. 1～H31. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回／年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 4回／年 西部 1回／年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回／年	3点
胃疾患研究会	東部 11回／年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回／年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回／年	3点
消化器病研究会	中部 6回／年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回／年	3点
消化管研究会	西部 5回／年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回／年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	3点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	3点

※胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例数は原則年間100症例以上に変更することとなり、平成30年度より「胃がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

「年間の症例数」について、医師個人とするか医療機関とするかについては、協議の結果、医師の習熟度の目安となるので「医師個人で原則年間100例以上」とすることとなりました。次回の更新3年後に向けて努力目標としていただくこととなりました。

また、登録基準においては、「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。」としており、100例を満たさない医師については、健対協が十分な実績があると認めれば登録されます。

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコープに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講 習 会 等 の 区 分	開 催 頻 度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回／年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会
10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会
2点
 - (3) 日本肺がん学会総会
5点
 - (4) 肺がん検診セミナー
5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会
3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回／年	10点
東部地区肺がん医療機関検診従事者講習会	東部 1回／年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回／年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回／年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 4回／年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回／年	5点
日本乳癌学会	1回／年	5点
日本乳癌検診学会	1回／年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回／年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回／年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回／年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

〔附則2〕

- 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できることが望ましい。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回／年	5点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回／年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 4回／年	2点
胃疾患研究会	東部 11回／年	1点
消化器病研究会	中部 6回／年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回／年	2点
消化管研究会	西部 5回／年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回／年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回／年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	2点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回／年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
 - 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
 - 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン(AFP)検査、HCV-RNA検査及びPIVKAⅡ検査が実施できること。
 - 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
 - (1) 走査方式は電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンターマルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。(携帯型超音波装置は除く。)
- ※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
 - 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。
- ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

(別記) 対象となる講習会等

講 習 会 等 の 区 分	開 催 頻 度	点 数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回／年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回／年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回／年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回／年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回／年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回／年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 5回／年	2点
消化器超音波研究会	西部 3回／年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 1回／年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回／年	3点
山陰肝臓治療研究会	全県 1回／年	3点

(鳥根県開催も対象)

(注) 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

あ と が き

鳥取市と米子市の胃がん検診においては、平成29年度より日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」に参加しています。ヘリコバクターピロリ感染率は低下しており、今後の胃がん検診個別化に向けて貴重なデータとなります。従来の精度管理と同様に慎重に進めていきたいと考えております。

「地域保健・健康増進報告」において転移性がんの取り扱いが変更となりました。原発性がんと転移性がんの区別が明瞭となる様に、各がん検診の精密検査紹介状に項目の追加、もしくは運用面の修正を行いました。順次手引きを改正し周知してまいります。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第24報です。この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覧いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。編集にあたり、各部長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。発刊に際し、県医師会事務局の岩垣陽子さん、神戸将浩さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 岡 田 克 夫